

■ もくじ

まえがき

特別編

1 過去から現在までの文化芸術 Scene ……04

- | | | |
|---------|------------------|----------|
| (1)音楽 | (6)メディア芸術 | (8)将棋・囲碁 |
| (2)文学 | ①映画 | (9)茶道・華道 |
| (3)歴史 | ②マンガ・アニメ・ラノベ・ゲーム | (10)食文化 |
| (4)民俗芸能 | (7)美術 | |
| (5)舞台芸術 | ①絵画 | |
| ①演劇 | ②彫刻・現代アート | |
| ②舞踊 | ③写真 | |
| | ④建築 | |

2 所沢市の文化芸術略年表 ……46

3 所沢ゆかりの作家・著者一覧 ……48

4 主な掲載スポット等一覧(特別編・TOKOROZAWA MAP) ……64

資料編 ……66

所沢市文化芸術振興ビジョン

平成30年1月

編集・発行 所沢市 市民部 文化芸術振興課

〒359-8501 所沢市並木一丁目1番地の1
 電話：04-2998-9211(直通) FAX：04-2998-9491
 E-mail：a9211@city.tokorozawa.lg.jp

デザイン イラストマップ 宿谷美佳(日本大学芸術学部)
 ロゴマーク 玉川野々香(日本大学芸術学部)



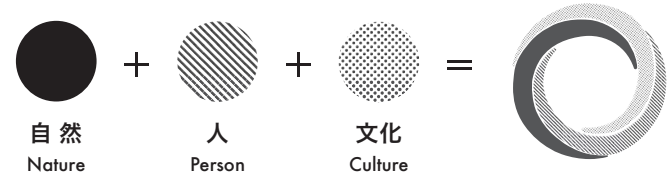
所沢市HP



所沢市PR空撮動画



所沢市文化芸術振興ビジョンロゴマーク



所沢市の目指す、みどりと文化と人が調和したまちづくりをイメージとして、3つのモチーフが混ざり合い、調和していくイメージを表しています。また、「文化を楽しむ」、「文化を魅せる」、「文化をつむぐ」の三要素の意味も兼ね備えています。全てが一つとなり新しい所沢市として調和していく姿です。

特別編

「所沢の文化芸術ってこんなにすごい!」

～ 過去から現在までの文化芸術 Scene ～

まえがき

今回のビジョン作成にあたり、本市には長い歴史と伝統の中で培われてきた、市民の誇りとなる文化資源が数多く存在していることがわかりました。

そこで、本ビジョンにおいて、所沢の文化芸術に関する情報をさらに充実させるため、【特別編】として、「所沢の文化芸術ってこんなにすごい!」というテーマで、過去から現在まで市内で展開された文化芸術に関する活動情報を集め、分野別にデータ、コラムなども網羅した資料を作成いたしました。

本資料作成にあたっては、所沢市文化芸術振興ビジョン庁内検討委員会ワーキンググループ委員の原案をもとに、市職員、市民などからも情報を広く集め、所沢市文化芸術振興ビジョン庁内検討委員会委員、所沢市教育委員会などの協力を得てとりまとめることができました。

なお、本資料は、これまで市内で数多く展開されてきた文化芸術シーンのほんの一部を紹介したものとなります。本市文化芸術の理解を深める一助となれば幸いです。

1 過去から現在までの文化芸術 Scene

(1) 音楽

所沢では、大正時代にできた2つの劇場（所沢演芸館、歌舞伎座）により、第二次世界大戦以前から、クラシック音楽をはじめ浪曲や民謡を視聴する機会がありました。一方で、レコードや蓄音器の普及により、個人の家でも音楽を楽しむ機会が増えていきました。

市民による音楽活動が高まったのは、昭和30年代初めのママさんコーラスに始まったといえます。コーラスの活況により、やがてオーケストラなどを切望する動きが生まれ、所沢市民吹奏楽団や所沢フィルハーモニー管弦楽団の設立につながりました。

同時に発表の場として市民会館が開館すると、必然的にそこが音楽団体の定期演奏会や音楽活動の拠点となっていきました。しかし、施設の狭隘化や老朽化の問題から、より大きな施設の建設を

待ち望む声が高まり、平成5年に所沢市民文化センター・ミュージズ（以下「ミュージズ」という。）がオープンし、市民の音楽環境の充実につながりました。

一方で市内においては、世界の一流演奏家の楽器を製作する村松フルート製作所が知られるようになり、全国初の芸術学科だけによる総合高校となった県立芸術総合高等学校の開校と市内中学校の合唱コンクールの数々の入賞実績は、市民の音楽への関心や誇りを感じさせ大きな影響を与えました。

現在所沢市では音楽を通じた交流や音楽環境の活性化を図る「音楽のあるまちづくり」を推進しています。所沢は音楽環境に恵まれ、音楽活動が活発な地域といっただいでしょう。

音楽コラム 2

航空記念公園野外ステージ

航空記念公園開園（昭和53年）にともない建設された施設です。当初は客席部分に屋根がなく文字通りの野外ステージでしたが、現在は屋根が取り付けられ、全体が白く大きな紙飛行機に覆われるようなデザインになっています。

昭和57年にTHE ALFEEが初の野外イベントを開催し、一躍人気グループの仲間入りをした地として知られ、その後も夏の恒例イベントとして続きました。

最近ではさらなる利用活性化を目指して、所沢

昭和57年(1982)	THE ALFEE 初の野外イベント
平成19年(2007)	夏びらき MUSIC FESTIVAL
平成20年(2008)	とぶ音楽祭
平成20年(2008)	Flying Jam Summit
平成29年(2017)	空飛ぶ音楽祭 2017

にゆかりのあるミュージシャンを含む「空飛ぶ音楽祭 2017」も開催されました。

なお、野外ステージは音楽以外にも、かつてテレビ特撮シリーズのヒーローショーなどが開催され、子ども達の人気を博すなど、さまざまな用途に使用されています。



航空記念公園野外ステージ

音楽コラム 1

所沢市民文化センター・ミュージズ

平成5年にオープンした文化施設。アークホール（2,002席）、マーキーホール（798席）、キューブホール（318席）の3つのホールのほか、展示室、練習室、会議室を有し、あらゆるタイ

プのコンサートやイベントに対応できます。年間約70の主催公演では、人気アーティストによるクラシックやポピュラー音楽、寄席、伝統芸能、映画、展示会などを開催しています。

3つのホールの特徴は以下のとおりです。

- アークホール
オーストリアの名門リーガー社の製作による国内最大級のパイプオルガンが備えられたクラシック音楽に適したシンフォニーホールです。
- マーキーホール
イギリスのシェクスピア劇場のスワン座を参考に設計された馬蹄型の演劇ホールです。
- キューブホール
室内楽を目的としたサロン風のホールです。



アークホール



マーキーホール



キューブホール

音楽コラム 3

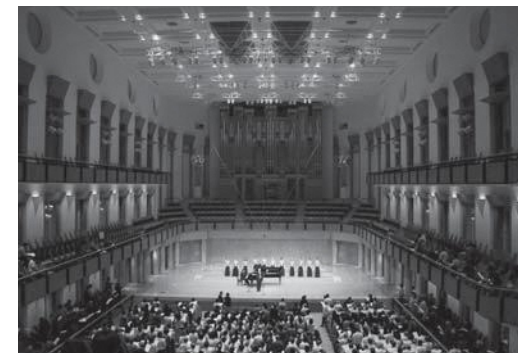
市民の音楽イベント

クラシック音楽や合唱の分野において、市民主体の音楽イベントとして特徴的なものがあります。1つは「所沢で第九を」演奏会です。昭和58年に第1回が開催され、以来市民の手による演奏会として30年以上続いています。このほか、合唱団体（女声・男声・混声の各団体や連盟）・所沢市民吹奏楽団・所沢フィルハーモニー管弦楽団の定期演奏会をはじめ、さまざまな活動が展開されています。

公民館（まちづくりセンター）ホールを会場としたクラシックコンサートとして長年親しまれている演奏会もあります。松井公民館（松井まちづくりセンター）と小手指公民館分館では、器楽や室内楽の演奏会を、開館直後から毎年開催しています。前者は「松井クラシックのつどい」、後者は「花水木の咲く街のコンサート」です。クラシック音楽を身近に楽しむ場を提供したいという願いから、地元の音楽関係者を中心に実行委員会

を組織して始まりました。こうしたコンサートが開催できる背景として、所沢はほとんどの公民館で音響・照明設備を備えたホールを備えていることがあります。

詩吟、民謡、歌謡の分野でも、昭和40年代より各分野で順次連盟が組織され、公民館ホールや市民会館・ミュージズなどで発表会が催されています。



市民合唱祭

所沢市出身、あるいは在住・元在住者などゆかりの音楽家がさまざまなジャンルで活躍しています。クラシック界ではソプラノ歌手の森麻季、テノール歌手の大岩道也が挙げられます。平成15年には指揮者・米崎栄和がブザンソン国際指揮者コンクールで最高位を受賞しています。

開設当初からミュージズのアドバイザーとして長年にわたりパイプオルガンの普及に努めているオルガニストの松居直美も既に所沢ゆかりの音楽家という過言ではないでしょう。

日本のR&B界の至宝・小坂忠や頭脳警察のPANTAも所沢ゆかりのミュージシャンです。梅津和時はジャズの領域に留まらずRCサクセションのサポートメンバーとして忌野清志郎の信頼を得ていたサクソ奏者であり、盟友のベーシスト・早川岳晴も所沢ゆかりのミュージシャンです。そのほか音楽番組「イカ天」出身の元たまの石川浩司、元セメントミキサーズの鈴木常吉、あるいは

人気タレントの所ジョージやYOUなど、数え上げれば枚挙に暇がありません。現在所沢市観光大使のJAY'S GARDENや惜しまれつつ活動を休止したJULEPS、ROAD FRIENDSの面々、歌姫Assyなど、地元根づいた若手ミュージシャンもこれまで数多く誕生してきました。また、南米パラグアイの民族楽器アルパを奏でる倉品真希子は自然との共生をめざした音楽家として活躍しています。



PANTA・小坂忠・梅津和時

アーティスト名	分野	代表曲・活動歴
Assy	J-POP	「Extreme Sports- 譲れない夏-」(インターハイ 08 埼玉総体 所沢市公式イメージソング)
石川 浩司(元たま)	パーカッショニスト・歌手	「さよなら人類」「オソンのダンス」など
梅津 和時	サクソ奏者	究極のグルーブ・ジャズ unit KIKI BAND リーダー
大岩 道也	テノール歌手	イタリアオペラ小劇場主宰
楠瀬 誠志郎	J-POP	「ほっとけないよ」「しあわせまだかい」など
倉品 真希子	アルパ奏者	オーガニックコンサート(農家の軒先で演奏)
小坂 忠	ロック・ゴスペル	「ほうろう」「しらけちまうぜ」「機関車」など
JAY'S GARDEN	J-POP	「頑張っていこうぜ」「toko toko ところん!!」所沢市観光大使
JULEPS	ピアノ&コーラス・グループ	「旅立つ日〜完全版」「バトンタッチ」など
鈴木 常吉	ギター・アコーディオン・歌手	「思ひで」(テレビドラマ『深夜食堂』挿入歌)など
NAOTO	ダンサー(パフォーマー)・俳優	EXILE「Rising Sun」など 三代目 J Soul Brothers from EXILE TRIBE「R.Y.U.S.E.I.」など
PANTA(頭脳警察)	ロック	「コミック雑誌なんか要らない」など
八反 安未果	J-POP	「SHOOTING STAR」など
松居 直美	パイプオルガン奏者	ミュージズ・アドバイザー
森 麻季	ソプラノ歌手	ブラシド・ドミンゴ世界オペラ・コンクール第3位入賞
米崎 栄和	指揮者	ブザンソン国際指揮者コンクールにてコンクール最高位
ROAD FRIENDS	J-POP	「フルスイング」「花」など

大正時代から昭和初期にかけてレコードや盆踊りの普及により、地域の活性化の一つとして、各地で地域独自の小唄や音頭がつくられました。所沢は織物の町として繁栄した昭和5年に、全国的な宣伝の一つとして、上野松坂屋の織物意匠部の永井白瀧による作詞と中山晋平作曲のコンビで「所澤小唄」をつくり、レコード販売され織物の売り上げに一役買いました。昭和12年には松村義人作曲による「所澤音頭」が作られました。これらには振り付けもありました。

こうした動きは第二次世界大戦後もみられました。昭和26年には商工会議所設立記念として古賀政男作曲になる「所沢音頭」が、同45年には「所沢市民音頭」、同55年に「所沢新小唄」がつくられました。また地域限定として、新所沢東地区の地域活性化のためにつくられた「しんとこ音頭」は、地元選出議員の作詞で作られました。これらは、今でも盆踊りや公民館文化祭などで流され、市民に親しまれています。平成になってからは「ところん音頭」(平成26年)という歌も作られました。

<小唄・音頭一覧>

タイトル	作詞者・作曲者	成立年代	備考
所澤小唄	永井白瀧 作詞、中山晋平 作曲	昭和5年(1930)	所沢織物宣伝のため制作、唄は所沢芸妓連、日本ビクターレコード発売
所澤音頭	松村義人 作曲、西川扇之助 振付	昭和12年(1937)	所沢織物宣伝のため、お座敷踊り全盛期に制作
所沢音頭	西條八十・山畑一雄 合作詞、古賀政男 作曲	昭和26年(1951)	所沢商工会議所設立記念に制作、日本コロムビアレコード発売
所沢市民音頭	大館いずみ 作詞、森菊蔵 振付、山路進一 編曲	昭和45年(1970)	市制施行 20 周年記念に制作、東芝レコード発売
所沢新小唄	野口家嗣 作詞、関口重夫 作曲、安形和己 編曲	昭和55年(1980)	ポリドールレコード発売
しんとこ音頭	安座間正松 作詞、四方章人 作曲	昭和63年(1988)	新所沢東地区の地域活性化のため制作
ところん音頭	朝倉修 作詞・作曲、所沢市観光協会 補作詞、高見沢努 編曲	平成26年(2015)	所沢市観光協会がところんの知名度アップのため制作

大正12年、創始者村松孝一により研究を始め、日本におけるフルート製作の第一歩が始まると同時に、今日の「ムラマツフルート」の基礎を作りました。昭和32年、法人組織となり、昭和48年、現在地である所沢市内に本社および工場を移転し、現在に至ります。

「ムラマツフルート」は、国内はもとより全世界にまで販路を持ち、「TOKOROZAWA JAPAN」と刻まれたフルートは、世界に名高い著名なアーティストにも愛用されています。



初心者のためのフルート講座

音楽のあるまちづくり「空飛ぶ音楽祭2017」

2017年秋、「音楽のあるまちづくり」を推進する本市で、その核となるイベントが開催されました。緑豊かな航空記念公園（野外ステージ・彩翔亭・特設ステージ2か所ほか）とミュージズを会場とした「空飛ぶ音楽祭2017」は、日本の音楽史に名を残す所沢ゆかりの伝説のアーティストから新進気鋭の若手ミュージシャンまで、クラシックやジャズ、ロックやフォークの垣根を越えて

2日間にわたり開催され、本市の新たなブランドとなる手ごたえを感じさせるものとなりました。

会場には、キッチンカー約30台を含む充実のフードエリアや航空発祥記念館大型映像館での映画上映など、誰もが気軽に、のんびりと休日を楽しめる企画も行われ、本ビジョンに描かれた所沢ならではの郊外型文化発信の端緒となりました。



空飛ぶ音楽祭2017

(2) 文学

所沢と文学のかかわりは、古典文学にまで遡ることができます。平安時代の歌物語『伊勢物語』の在原業平が、「東下り」でこの地に立ち寄った時の出来事を地名の由来とする説があることはよく知られています。

南北朝時代の成立といわれる軍記物語『太平記』には、小手指周辺が舞台として登場し、武士たちの活躍の様子が描かれています。

所沢はさまざまな作品の舞台となっています。『武蔵野夫人』（大岡昇平）、『十六歳』（打木村治）

といった小説だけでなく、短歌や詩、児童文学など多くのジャンルでも所沢が描かれました。

歌人・与謝野晶子は、大正2年に松井村の山林に墜落し、我が国初の航空機事故の犠牲となった二人を悼み、短歌15首を寄せています。また、詩人・中西悟堂は、詩集『武蔵野』の中で所沢上空の飛行機を詠んでいます。

所沢出身また在住であったゆかりの文人・作家も数多くいます。

江戸時代末期の地方で俳諧が盛んであった時期

には、所沢が拠点のひとつとなっていました。女流俳人として名高い野遊亭里恵女（三上里恵）など多くの俳人を輩出し、大正から昭和にかけては、雑誌『ホトトギス』で活躍した斎藤俳小星も、俳壇においてその名を知られています。

短歌では、生涯6,000首以上の歌を残し中央歌壇でも知名度のあった三ヶ島霞子があります。いずれも所沢の自然や歴史を背景として、自らの生き方のなかで人生の機微を作品にしています。

戦後、所沢がベッドタウン化したことで、活動拠点を東京近郊に求め、転居してきた作家もいます。放送作家として知られる高橋玄洋をはじめ、

民話の語り部としても活躍した沼田曜一などさまざまな分野の作家が所沢出身あるいは在住・元在住者として活躍しています。

芥川賞作家である寒川光太郎、吉目木晴彦、奥泉光や、直木賞を受賞した天童荒太、詩人茨木の子、H氏賞を受賞した荒川洋治、片岡直子らも、所沢ゆかりの作家となります。

そのほか、児童文学やSF・ファンタジーの分野で活躍している作家も少なくありません。これらの作家たちは、それぞれの活動を通して、所沢の市民文化の発展に少なからぬ影響を与えてきたといえるでしょう。

所沢を題材にした小説

所沢を舞台にした作品として真っ先に浮かぶのは、大岡昇平の『武蔵野夫人』や高橋玄洋の『人工樹林』でしょう。前者は武蔵野の雑木林の風景、後者は人情味のある有楽町界隈の風景が浮かんでくる作品です。

高橋の作品と関連して、沢大介の『東川』は遊郭で暮らす少年のコンプレックスを描いたもので沢自身の自伝的小説になっています。これらの

作品は、戦後の所沢を象徴する米軍基地と住民とのかかわりについても描いています。また、昭和30年代に新所沢に公団が進出したことから、団地に住む人びとを描写した吉目木晴彦の『うわさ』は、人々の日常ではあるが内心に迫る作品です。

このほか時代物として、平岩弓枝の作品や、地元の史料に基づいて書いた大館欣一の作品も興味深いといえるでしょう。

【主な作品】

『人工樹林』（高橋玄洋）

所沢の浦町（有楽町界隈）に住む床屋の母娘を中心に、昭和10年代の町の様子が描かれている。

『うわさ』（吉目木晴彦）

航空記念公園駅近くの団地で、噂に翻弄される主婦を描く。芥川賞作品『寂寥郊野』所収。

『御犬養育村始末』（大館欣一）

将軍綱吉の世に江戸で溢れた犬を養育金付で飼育した北野村の農民と、綱吉死後に混乱する村の様子を描く。

『女教師』（清水一行）

所沢の中学校勤務の設定で、昭和52年当時の教育問題がわかる。

『天使のナイフ』（葉丸 岳）

殺された妻は所沢にいた頃の過去を隠していた。少年犯罪の責任は…。

『御宿かわせみ』シリーズ3作品（平岩弓枝）

所沢出身の女中お石の縁談や野老沢の肝っ玉お母の話。

『東川』（沢大介）

遊郭で暮らす主人公のコンプレックスと米軍基地などのかかわりなどを描いた自伝的小説。

『無音潜航』（池上司）

所沢の航空管制部がテロの標的となる設定。

『鉄塔武蔵野線』（銀林みのる）

送電線の鉄塔を追っていく少年の話。

『武蔵野夫人』（大岡昇平）

将軍塚などが登場。

『道草』（夏目漱石）

所沢の将棋棋士藤吉の話が登場します。

『風が吹けば』（加藤実秋）

所沢をモデルにした“時の沢”という街が舞台の青春小説。

<主な作家と主要作品>

作家名	主要作品（発表年）	受賞歴	活動歴
寒川 光太郎	密猟者（昭和14年）	芥川賞	自然と対決する人間をえがいた作品が多く、戦後は大衆文学に活路を開いた
吉目木 晴彦	寂寥郊野（平成5年）	芥川賞	他に「群像新文学賞」「野間文芸新人賞」「平林たい子文学賞」を受賞
奥泉 光	石の来歴（平成5年）	芥川賞	他に「瞳目反・文学賞」「野間文芸新人賞」「野間文芸賞」「谷崎潤一郎賞」を受賞
天童 荒太	悼む人（平成20年）	直木賞	他に「日本推理サスペンス大賞」「山本周五郎賞」「日本推理作家協会賞」「毎日出版文化賞」などを受賞
福本 武久	電車ごっこ停戦（昭和53年）	太宰治賞	三ヶ島葎子の壮絶な人生を描いた『地の歌人 三ヶ島葎子』を執筆
高橋 玄洋	傷痕（昭和35年）	芸術祭奨励賞	放送作家として独立し、『判決』『蘭子ひとり』などの作品を脚本し、最盛期は年間100本のドラマ脚本を手掛けるという、自身も『人工樹林』など小説を多数執筆
古川 智映子	土佐堀川（昭和63年）		平成27年にNHK連続テレビ小説『あさが来た』でドラマ化される
大原 まり子	戦争を演じた神々たち（平成6年）	日本SF大賞	他に「日本推理サスペンス大賞」「山本周五郎賞」「日本推理作家協会賞」などを受賞 夫である岬兄悟もSF作家

所沢ゆかりの作家のうち、芥川賞受賞者としては、晩年を所沢で過ごした寒川光太郎（1908-1977）、所沢を舞台にした作品も残している吉目木晴彦、所沢で育ったという奥泉光がいます。また直木賞受賞者としては、天童荒太がいます。

高橋玄洋はNHKの連続テレビ小説『蘭子ひとり』の脚本で脚光をあびましたが、その後も数多くのテレビドラマ作品を手掛けました。テレビドラマの脚本で最近の話題としては古川智映子の『小説 土佐堀川』が連続テレビ小説で人気を博したことは記憶に新しいところです。また、竹山洋

は所沢出身の脚本家であり、平成6年には『清左衛門残日録』で橋田賞を受賞しています。

SF小説やファンタジー小説においても活躍している作家がいます。日本SF大賞を受賞した大原まり子や、ファンタジーではゴールデン・エレファント賞特別賞を受賞した、わかたけまさこなどです。異色な作家として、岡田伸一は、スマホ小説『僕と23人の奴隷』でブレイクし、『奇少物件100LDK』でスマホ小説投稿サイト大手のE★エプリスタ大賞を受賞しました。その後、『僕と23人の奴隷』は、書籍化、映画化されました。

所沢ゆかりの児童文学・絵本作家は、故人も含めてわかっているだけで、さねとうあきら、大友康夫（絵本）、間所ひさこ（絵本）、沼田曜一（民話）、ヒダオサム（工作）など30名以上の作家がいます。

その筆頭にあげられる作家として、所沢に住ん

だ経験のある打木村治がいます。打木は狭山湖畔に碑も建てられているように、所沢に愛着をもっていました。次に、戦後所沢の子どもたちの心情をとらえ、後に映画化された作品に近藤健の『はだかっ子』があります。

平成16年には、代表作『めっきらもっきらど

おんどん』で有名な絵本作家の長谷川摂子が『人形の旅立ち』で第14回椋鳩十児童文学賞を受賞しました。彼岸の世界という難しいテーマにかかわらず、わかりやすく子どもたちに命のことを伝えた作品として高い評価を得ました。

児童文学作品のなかには郷土の産業や人物をテーマにした作品も少なくありません。たとえば青木雅子の『紅赤ものがたり』は、兼業農家の主婦が、さつま芋の新品種を発見し、生涯を掛けて普及させた長編ロマンです。



長谷川摂子（子どもルネサンス「おはなしのひろば」）

市内には句碑・歌碑などの文学碑が数多く散在します。文学碑が複数建立されている場所として、上山口の山口観音（金乗院）と小手指元町の北野天神社があげられます。前者には、山口青邨、打木村治、高橋玄洋のほか、句会や『日刊新報』（廃刊）の記念碑など多数の碑があり「文学碑」の丘として知られています。後者には、市指定文化財の「尊桜の歌碑」のほか、護良親王・栗原茂景の歌碑などが点在しています。

句碑では、県内でも古い建碑として知られるのが女流俳人野遊亭里恵女（三上里恵）の句碑です。

また斎藤俳小星は、天下の三農人といわれた俳人として知られています。芭蕉の句碑も西新井町の個人宅と山口観音に建てられています。

歌碑では、三ヶ島葎子が所澤神明社と三ヶ島の中氷川神社の2か所にあります。また、神米金の若山牧水の歌碑は、祖父が神米金の若山家出身であったことから、明治末期に牧水がここを訪れたことを記念して建立されたものです。



里恵女の句碑（薬王寺）

<市内文学碑一覧>

碑名	所在地	建立年代	備考
三上里恵句碑	有楽町・薬王寺	天保4年（1833）	句碑としては県内3番目
原一亭衣月句碑	有楽町・薬王寺	天保13年（1842）	
芭蕉の句碑	西新井町・個人宅	明治21年（1888）	
三ヶ島葎子歌碑	宮本町・所澤神明社	昭和33年（1958）	
斎藤俳小星句碑	宮本町・峰の坂墓地		
若山牧水歌碑	神米金・個人敷地	昭和53年（1978）	牧水の祖父の実家に建碑
尊桜の歌碑	小手指元町・北野天神社	享和2年（1802）	市指定文化財、市内最古の文学碑
大町桂月句碑	荒幡・浅間神社	大正10年（1921）	荒幡の富士の麓に建立
山口青邨句碑	上山口・山口観音	昭和52年（1977）	文学碑の丘
打木村治碑	上山口・山口観音		文学碑の丘
高橋玄洋詩碑	上山口・山口観音	昭和58年（1983）	文学碑の丘
三ヶ島葎子歌碑	三ヶ島・中氷川神社	昭和61年（1986）	
白非園里松らの歌碑・句碑	三ヶ島・中氷川神社	嘉永4年（1851）	
七十七翁文史句碑	南永井・八幡神社	昭和56年（1981）	

冒頭でも記したように所沢は昔から俳句や短歌が盛んでした。短歌や俳句は、中央の結社に属しながら、個々で活動するスタイルでしたが、第二次世界大戦後、地域においても団体を組織して活動する動きがでてきました。

短歌については、若山牧水門下の歌人大悟法利雄や石川信夫が指導する団体がつくられたのを機に、さまざまな短歌会がつくられるようになりました。市民による短歌大会も、昭和30年に第1



三ヶ島稔子

回が開催され、以後今日まで続けられています。また、昭和44年には所沢市短歌連盟が組織され、活動が続けられています。公民館を中心としたサークルも吾妻短歌会、さざなみ

短歌会など多くみられます。

俳句は、市制施行された昭和25年に第1回の市民俳句大会が開催され、これもまた今日まで続き平成28年で68回を数えています。一方



齋藤俳小星

で昭和39年に、所沢市俳句連盟が発足し、初代会長に齋藤俳小星が就任しました。同連盟は昭和63年に創立25周年記念句集『むさし野』を刊行しました。このほか公民館を中心に活動している句会として、「いざよい句会」、「かりがね句会」、「さくら荘句会」、「とめの里俳句会」、「山口若草会」などがあります。また、高浜虚子に師事した深見けん二が平成26年『葦濃く』で、俳句界で最も権威のある「蛇笏賞」を受賞しました。

現代詩で著名な荒川洋治は、所沢に在住していたころ、所沢図書館主催の講座「現代詩を創る・学ぶ」のなかで現代詩を分かりやすく説明し、参加者の作品を一冊の詩集にしたことがあります。

また同じく所沢に住んだことのある茨木のり子は、米軍が進駐していたころの所沢で生活を送っていた際に詩を書き始めており、詩人としての出発が所沢であったことがわかっています。

所沢を代表する哲学者の一人に田中王堂がいます。中富村出身の王堂は、明治22年に渡米シカゴ大学でデューイの教えを受け、帰国後プラグマティズム（実利主義）に立脚した思想を普及させ、その批評は文学まで及び、当時の自然主義文学を正面から批判するなど、王堂哲学とよばれて論壇を席巻しました。また、児童文学作家の長谷

川摂子を妻に持つ長谷川宏も同じく哲学者で、『ヘーゲル 哲学史講義』を新訳し、専門的な訳語を排した読みやすい訳文で、多数の関連著書を出版しました。

そのほか、一時的に所沢に住んでいた文芸批評作家として、小鷹信光、樋口覚、中里富美雄らがあります。小鷹は特に翻訳の分野で活躍しました。

もともと所沢図書館が発行していた『読書感想文集』を発展させ、市民の創作文芸作品を発表する場として刊行されたのが『文芸所沢』です。昭和58年度に創刊号が刊行され34号まで発刊され

ています。俳句、川柳、短歌、詩、小説、随筆、童話を応募対象とし、選考委員による選考により入選した作品が掲載されます。長く市民の文芸活動の場として親しまれています。

郷土史の分野で、最初にあげられる人物としては江戸時代後期の齋藤鶴磯がいます。江戸の文人で所沢に20年間居住し『武蔵野話』を著しました。内容に不適切な記述があったとして筆禍事件を起こしましたが、この事件を検証したのが大正時代の郷土史家・深井琴です。深井は女流俳人・三上里恵の研究でも知られます。

戦後の市制施行後第一期の市史編纂がおこなわれ、昭和32年に最初の『所沢市史』が刊行されました。その後第二期の市史編さん事業が昭和49年から平成6年までおこなわれました。

第二期の市史編さんに携わった編集委員のなかで、郷土史に係る著作として、平塚義角『ふるさと久米 今と昔』、内野弘『所沢の歴史と地理』、栗原仲道『鎌倉街道をゆく』、齋藤脩治『埼玉ふるさと散歩—所沢市—』、大館右喜『学校誕生』、大館勝治『田畑と雑木林の民俗』、宮本八恵子『所沢飛白』などがあります。そのほか、ふるさと所沢の歴史や記憶・思い出を著したものに、下田佐重『郷土所沢市の民俗回顧』、峯岸正雄『むかしのところざわ百景』、越阪部三郎『所沢漫遊』などがあります。

(3) 歴史

本市には、約3万年前から石器を用いた人々の痕跡が残り、4～5千年前の縄文時代中期には大規模集落があったことも遺跡の発見によりわかっています。奈良・平安時代には、都と地方を結ぶ幹線道路が整備される中で、古代の官道「東山道武蔵路」が市内を通り、鎌倉時代に入ると鎌倉街道が発達し、その末期には新田義貞の軍勢と鎌倉幕府軍による小手指ヶ原合戦が繰り広げられました。戦国時代に築かれた「滝の城」は、後北条氏の支配となり、豊臣秀吉による小田原攻めの際に落城したと伝わっています。

江戸時代になると、所沢は交通の要衝地、物流の拠点として栄えました。また、柳沢吉保による三富新田をはじめとする新田開発により畑作地帯が広がります。農間余業として綿織物生産が盛んとなり、明治時代には「所沢織物」のブランドで各地に流通しました。明治28年に川越鉄道が

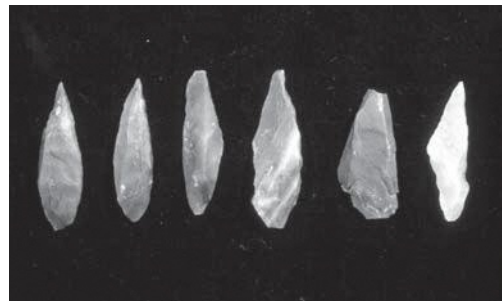
敷設され所沢駅が開設し、大正4年には武蔵野鉄道が開通。また、明治44年に、わが国で最初の飛行場が開設されたことから、今日では「航空発祥の地所沢」と呼ばれています。

昭和18年には、所沢町と近隣の松井、富岡、小手指、山口、吾妻の5村が合併。昭和25年に埼玉県で8番目に市制を施行し、昭和30年には、三ヶ島村、柳瀬村と合併して、現在の市域となりました。

その後、昭和34年、新所沢地区に住宅団地が建設されたのを機に、都心への交通の利便性などから市内各地で大規模な宅地開発が行われ、首都圏有数の住宅都市へと変貌します。また、市の中央部に位置する米軍所沢通信基地は、長年にわたる返還運動が実を結び、これまでにその約7割が返還され、航空記念公園やミュージズなど、各種の文教施設や福祉医療施設、官公署などが整備されています。

砂川遺跡出土ナイフ形石器

三ヶ島の砂川遺跡（市指定/史跡）は、所沢市内で最初に発見された旧石器時代の遺跡です。約2万5千年前の遺跡と推定され、出土した石器群からナイフ形石器などの製作工程や、移動生活する人々の姿が明らかとなり、日本の旧石器時代研究に重要な方向性を与えました。発掘された石器類は、当時調査をおこなった経緯から明治大学博物館に所蔵されており、「埼玉県砂川遺跡出土品」として国重要文化財に指定されています。



砂川遺跡出土ナイフ形石器

道（みち）

所沢のルーツをひもとく鍵は「道」にあります。道から見えてくる、所沢発展の軌跡。よりみちしたら、もっと所沢「通」になります。

●東山道武蔵路

入間郡屈指の奈良・平安時代の大規模集落「東の上遺跡」（市指定/史跡）から、見つかった幅12メートルの道路跡は、東山道の新田駅付近（上野国）から武蔵国府に南下する官道（東山道の支路）です。「漆紙文書」（市指定/考古資料）などの文化財も数多く出土しました。

●鎌倉街道

幕府が鎌倉におかれると道路が整備されるなか、いくつかのルートができ、なかでも所沢を通る鎌倉街道は、上つ道と呼ばれ、さらに、いくつかの支道もできていきました。鎌倉末期から南北朝にかけての動乱の時代には、しばしば戦場にもなり、元弘3年（1333）に新田義貞が幕府軍と戦った小手指ヶ原合戦もその一つで、市内には新田義貞にまつわる伝説が多く残されています。

●江戸道・秩父道

江戸時代になると、江戸と秩父を結ぶ道として江戸道・秩父道が発達し、所沢は交通の要衝となります。また、青梅や周辺村から新河岸川の河岸に結ぶルートとも交差して物流の拠点となり、毎月三と八のつく日には市が開かれ、市日には多くの人で賑わいました。

●鉄道の開通

明治時代には鉄道の敷設が始まり、明治28年には川越と国分寺を結ぶ川越鉄道（現西武新宿線）が全線開通し、所沢駅が開設されました。また、大正4年には池袋と飯能を結ぶ武蔵野鉄道が開通し、所沢駅は両鉄道が乗り入れる駅となり、その後、両鉄道は西武鉄道に合併されます。さらに、昭和48年には武蔵野線が開通して現在のJR東所沢駅が開設され、埼玉県東部や千葉県を結ぶ交通手段として利便性が増しました。

●関越自動車道の開通

昭和46年に、練馬区と川越市間の高速道路・東京川越道路として開通したのが現在の関越自動車道です。同時に坂之下インターチェンジが完成し、物流の発展やマイカーで行く都心までの時間が短縮されました。



南陵中学校の校庭から検出された「東山道武蔵路」の遺構（東の上遺跡第36次調査）



鎌倉街道（久米・昭和40年代）



江戸道（上新井・昭和42年）

所沢と空（そら）の物語

明治44年、日本で最初の飛行場が開設されたことから、所沢市は日本の「航空発祥の地」（市指定/史跡）といわれています。当時陸軍は、先進国であったフランスとドイツに将校を派遣し、フランスからアンリ・ファルマン機とブレリオ機を、ドイツからライト機とグラデー機を購入するとともに、所沢に飛行場を開設し、飛行試験をおこなうことにしました。その結果、同年4月5日徳川好敏大尉がアンリ・ファルマン機による初飛行に成功したのです。

航空界初の墜落死亡事故が起こったのも所沢でした。大正2年3月、青山練兵場での観閲飛行の帰路、木村鈴一郎中尉と徳田金一中尉の搭乗したブレリオ機が、所沢飛行場を目前に突風により墜落、両中尉は即死しました。航空技術が発達していなかったところに繰り返された航空犠牲は、その後の日本の航空技術の進歩に大きく貢献したことはないまでもありません。一方で航空技術やそれを伝える教育体制の整備も急務となり、大正



アンリ・ファルマン機

8年には「陸軍航空学校」（後に「所沢陸軍飛行学校」に改称）が設立され、航空整備学校も生まれました。

その後、所沢飛行場は、第二次世界大戦後アメリカ軍の進駐により接収、飛行場は閉鎖され米軍の兵站基地となり、現在は通信基地になっています。

日本で最初の飛行場が開設された関係から、開設当時に開通した「飛行機新道」や、昭和5年完成の「旭橋」（国登録有形文化財）などの歴史遺産のほか、航空記念公園や航空発祥記念館、所沢駅前の「プロベ通り」「ファルマン通り」などの近年つけられた名称など、市内には飛行場や航空にちなんだスポットが数多くあります。

山口貯水池



狭山湖空撮

東京市（当時）の人口増加に対応した水源確保のため、狭山丘陵に2つの人工貯水池の建設が計画され、そのうち埼玉県側の山口貯水池を建設したのが



当時の勝楽寺村

昭和4年です。3年後の昭和7年に完成し通水式がおこなわれました。山口貯水池となった地域は山口村の勝楽寺地区と上山口地区です。合わせて242戸の住民が他の場所へ移転せざるを得なくなりましたが、かつては水田が広がり、米や麦などの農産物のほか織物も生産されるなど豊かな地域でした。

現在親しまれている「狭山湖」の名称は、昭和25年、西武鉄道が狭山丘陵周辺の観光事業に乗り出した際に、両貯水池の愛称を募集して決定したものです。

開発

所沢の歴史を象徴するキーワードとして「開発」があげられます。江戸時代の新田開発と戦後の住宅開発は所沢の発展に大きく寄与しました。

●新田開発

中世のころの所沢の台地上はスキなどが覆う原野でした。この原野を次々に開発して耕作地や集落を新たにつくったのが江戸時代の川越藩による三富新田や、幕府による武蔵野新田です。武蔵野の開発の大きな特徴は、クヌギやコナラなどを人工的に植樹し、枝や木は定期的に剪定・伐採して薪や炭などの燃料にし、落ち葉は堆肥として利用するという循環型農法にあります。

今日武蔵野の風景として定着した雑木林の風景はこのときの開発によってかたちづくられたのです。

●住宅開発

第二次世界大戦後は北所沢・美原町、小手指などの戦後開拓もありますが、大規模な住宅開発の先駆けは、日本住宅公団（現UR機構）が新所沢駅西側に進出し、昭和34年に入居が開始されたことです。このほか、椿峰ニュータウン、松が丘、小手指ハイツなど、高度経済成長時に次々と住宅開発が進みました。

指定文化財

所沢市には指定文化財が国、県、市を合わせて計98件あります。指定文化財の多くは、個人や団体が所有しており、保存や管理が課題になっています。



小野家住宅
(国重要文化財)

〈国〉

国指定は、重要文化財（建造物）「旧台徳院靈廟勅額門、丁子門及び御成門」（上山口・狭山山不動寺）、「黄林閣おうりんかく」（坂之下・柳瀬荘）、「小野家住宅」（三ヶ島・林）の3件と、天然記念物「ミヤコタナゴ」の計4件です。

〈県〉

県指定は9件あり、「滝の城跡」や「山口城跡」のような中世の城跡や、「三富開拓地割遺跡」や「小手指ヶ原古戦場」などがあります。

〈市〉

市指定は85件で、さまざまな種類の文化財があります。建造物（「多聞院毘沙門堂」など）、絵画（「石川文松筆 六歌仙図大絵馬」など）、彫刻（山口観音「木造千手観音立像」など）、工芸品（刀剣など）、書跡（「勝海舟書『求友館』扁額」など）、古文書（「弥右衛門覚書」など）、考古資料（「漆紙文書」など）、歴史資料（「旗本中根氏の墓」など）、有形民俗（「荒幡の富士」など）、史跡（「航空発祥の地」など）です。

登録有形文化財

指定とは異なる制度として、登録文化財があります。活用しながら保存していくもので、指定文化財よりも規制が緩やかなため、建造物などの場合は、活用とともに内部の改装などについても認められています。所沢市内では「所澤郷土美術館」、

クロスケの家で知られる「旧和田家住宅」、「旭橋」、「秋田家住宅」が国の登録有形文化財（建造物）になっています。

ちなみに市にも登録制度があり、「木造薬師三尊ならびに十二神将像」が登録されています。



秋田家住宅の店舗兼主屋と土蔵

旧和田家住宅（クロスケの家）の主屋

埋蔵文化財（遺跡や遺物）

市内には、166か所にのぼる埋蔵文化財包蔵地（遺跡）があります。多くの遺跡は、狭山丘陵や柳瀬川・東川・砂川堀などの川沿いの台地上に所在しており、約3万年前から近現代まで、人々の生活の痕跡が地中に残されています。



下安松遺跡第9次調査

(4) 民俗芸能

かつては、地域の神社や寺院の境内を中心として、祭礼や行事の際に、祭り囃子や獅子舞のほか、鉦はり（双盤念仏）や説経節、万作踊りなど、さまざまな芸能がおこなわれ、奉納されていました。そのなかで今日まで傳承されている民俗芸能が「重松流祭ばやし」と「岩崎彫獅子舞」です。



重松流祭ばやし

●重松流祭ばやし

重松流祭ばやしは、所沢生まれの古谷重松が編み出した囃子の流派で、「じゅうま」は重松の愛称です。幕末から明治以降、所沢を中心として多摩地域にかけて広まり、行商のため近郷近在を歩いた重松が先々で囃子を伝授したと伝えられています。現在は、各地域の囃子連や「重松流祭囃子保存会」（昭和42年結成）の方などによって保存・傳承されています。（市指定 / 無形民俗）

●岩崎彫獅子舞

山口の岩崎地区に傳承されている獅子舞です。毎年10月第2土曜日に瑞岩寺境内で奉納がおこなわれます。江戸時代初期に岩崎村を知行した が慶長19年（1614）大坂冬の陣に出陣し戦功を立て、その帰途に京都へ立ち寄り3頭の獅子頭を買い求め、帰郷して村の若者に伝授したのが始まりと伝えられます。現在は「岩崎獅子舞保存会」の方によって保存・傳承されています。（市指定 / 無形民俗）

これらの民俗芸能は、保存・繼承をはかるため、各団体でさまざまな活動をおこなっていますが、所沢市においても、2年に一度「所沢市伝統芸能発表会」を開催して、多くの方々に所沢市に伝わる民俗芸能の素晴らしさを伝えています。

重松流祭ばやしの特徴



重松流祭ばやし

重松流の特徴は、テンポの良さと屋台囃子の小太鼓2つの掛け合いにあるといわれ、その編成は江戸囃子と同じく大太鼓（オオカン）1人、小太鼓（ツケ）2人、鉦（ヨスケ）1人、笛（トンビ）1人の5人囃子を基本構成としています。決まった譜を持たず、「地囃子」という基本の太鼓はありますが、その時の雰囲気であたっているうちに、相手のたたき方を見抜いて、自分で工夫し、即興的に自由に変奏していくのが特徴です。「ところざわまつり」の山車と山車が囃子や踊りで競い合う「曳っかわせ」は見ものです。

岩崎彫獅子舞の特徴

岩崎彫獅子舞の特徴は、3人の舞手がそれぞれ頭上に獅子頭をかぶり、腹に太鼓をくりつけて、これを撥で打ちながら舞い踊る1人立ちの獅子です。また、獅子の周囲にササラッコ（彫子）と呼ばれる伴奏者が立ち、彩り鮮やかな花笠をかぶって、左右の手に持った彫（竹の先を細かく割って束ねた楽器）をすり合わせて音を出します。この他に、山伏、棒使い、蠅追い、笛の役があり、20名前後の人たちで演じられます。



岩崎彫獅子舞

祭りと年中行事

伝統的な祭りとして筆頭にあげられるのは、10月におこなわれる「ところざわまつり」です。もともとは所澤神明社の秋の祭礼で、山車祭りとして、5年に一度おこなわれていたものが、毎年の開催になり、現在は市街地の祭りとして定着しています。

このほか、初水天宮、北野天神社の春の祭礼や

多聞院の寅まつりをはじめ、夏季各地でおこなわれる天王様や地藏まつり、熊野神社の若注連神事など伝統的な祭りも数多くおこなわれています。

こうした祭りに代表される地域の行事、または家の行事でも昔から所沢に伝わる年中行事には以下のような行事があります。

<所沢の伝統的な祭りと年中行事>

月	日ほか	行事	場所
1月	1日	元旦祭・歳旦祭	市内各神社・寺院
	1日	熊手市	所澤神明社（宮本町）
	5日	初水天宮・だるま市	水天宮（久米）
2月	3日	節分祭	市内各神社・寺院
	中旬～下旬	初午	藤森稲荷（北野南）ほか
3月	第2日曜	初午祭	坂稲荷神社（御幸町）
	10日	金毘羅堂大祭	東光寺（坂之下）
	21日	春の大祭	北野天神社（小手指元町）
4月	8日	花祭り	市内各寺院
5月	1日	寅まつり	多聞院（中富）
6月	第1日曜	人形供養	所澤神明社
	30日	夏越の大祓い	所澤神明社ほか
7月	1日	富士山の山開き	荒幡の富士（荒幡）
	第3土・日曜	天王様	八雲神社（有楽町・北秋津ほか）
8月	20・21日	弘法まつり	弘法の三ツ井戸（西所沢）
	下旬	地藏まつり	下安松ほか
9月	29日	やぶさめ神事	八幡神社（糀谷）
10月	第2土曜	岩崎獅子舞	瑞岩寺（山口）
	第2日曜	ところざわまつり	所沢駅西口・銀座通りほか
11月	15日	七五三	市内各神社
	20日	えびす講	市内各地
12月	31日	若注連神事	熊野神社（西新井町）

(5) 舞台芸術 ① 演劇

所沢には、明治初期に芝居小屋があり、大正時代には2つの劇場で寄席や歌舞音曲が楽しまれました。第二次世界大戦直後は、青年団による「素人演芸」が流行りました。その後、演劇は公民館の活動に引き継がれるとともに、相次ぐ県立高校の開校により各校で演劇部が創設されました。

高校演劇部の顧問が指導者となってつくられたのが昭和50年設立の「市民劇団銀杏の会」です。手作りのミュージカルをめざして始められ、これが最初の市民劇団となりました。次いで、昭和57年には「シアターらん」、同63年には「ところざわ太陽劇団」が相次いで結成され、市民会館や公民館で活動がおこなわれていました。

大きく様変わりするのが、平成5年の「ミュージズ」の誕生です。演劇仕様のマーキーホールではオープニングを蜷川幸雄演出『王女メディア』や夏樹静子原作『Wの悲劇』が飾り、以降も劇

団四季、こまつ座、加藤健一事務所などの舞台、松竹大歌舞伎や落語界から柳家小さん、桂米朝、古今亭志ん朝、立川談志ら名跡による独演会も実現しました。

ミュージズオープン年、市民劇団4団体が交流と切磋琢磨をはかる目的で「所沢劇団連絡協議会」（略称「所劇連」）が組織され、第1回の演劇祭も開催されました。

また、平成6年の所沢高校演劇部の全国大会出場を機に開催されたのが「高校演劇祭 in ミュージズ」です。市外近隣校も巻き込み、学生演劇の隆盛を迎えました。この催しは、残念ながら部員数の減少で維持が難しくなり、「高校演劇連盟所沢入間地区発表会」に引き継がれました。一方で、日本大学芸術学部の所沢進出により、日芸の演劇活動は、市民に大きな影響を与えたといえるでしょう。

演劇コラム 1

主な市民劇団とその活動内容

劇団名	結成年	概要
市民劇団銀杏の会	昭和50年(1975年)	県立高校の教諭だった渡辺重一を中心に、所沢・狭山・入間の有志により結成。創作ミュージカルを上演し続けている。誰もが気軽に入場できる「無料公演」を掲げている。
シアターらん	昭和57年(1982年)	「大人の台詞劇」を創ってみたいという熱い情熱のもと結成された。「らん」は「乱」。結成当時の平均年齢は20歳代後半。
ところざわ太陽劇団	昭和63年(1988年)	地域に根差した演劇をめざして結成。地域演劇と実験演劇、演劇ワークショップの3本の柱で活動している。
劇団にこっとちゃ茶	平成12年(2000年)	平成11年、所沢青年会議所主催のミュージカル『君の青、ボクの空』が大成功を収め、ミュージカルを通して「表現することの楽しさ」に目覚めた子どもたちの声から誕生。団員は小学校4年生から18歳までで構成されている。
劇団おしゃれ大学	平成15年(2003年)	前身の東京壁塾(2000年～2001年)よりメンバーを新たに王子小劇場にて結成。明快な舞台作品に定評がある。最近では映像作品の制作にも取り組んでいる。



市民劇団銀杏の会



ところざわ太陽劇団

人形劇は、配役となる人形の個性が一目で観客に印象づけられるように、また劇の意図がはっきり見えるように演出するという特徴をもっており、子どもたちの情操教育に効果的な役割を果たす演劇ジャンルの一つといえます。戦後、青年団のボランティア活動としてはじまった人形劇団「どんぐり座」は、米軍の進駐によって心配された風紀問題など基地の町の子供たちを守ろうとした文化

活動でした。

その後人形劇は、保育園や児童館、公民館などの地域ごとで活動がおこなわれていましたが、それらの全体的な発表の場として催されたのが昭和56年の第1回「所沢人形劇フェスティバル」（その後「ところざわ人形劇フェスティバル」と改称）です。以後毎年開催を重ね、平成29年度で第36回を迎えています。



どんぐり座人形劇



ところざわ人形劇フェスティバル

平成5年オープン以来、ミュージズではマーキーホールを中心に演劇の公演が行われています。演劇と言っても広義には、商業演劇系、小劇場系、歌舞伎、人形劇やミュージカル、一人芝居など幅広く開催しています。演劇など舞台芸術を主目的に作られたマーキーホールがそれら全ての魅力的な上演の場となったことは誇らしい限りです。

順不同で連ねれば、ニナガワ・カンパニー、加藤健一事務所、劇団東京ヴォードヴィルショー、音楽座ミュージカル、こまつ座、劇団四季、演劇集団キャラメルボックス、白石加代子、風間杜夫による一人芝居、松竹大歌舞伎など多彩な演目上演されており、都内へ足を運ばずとも、多くの名舞台が所沢の地で観劇可能となっています。

©撮影:山之上雅信



劇団四季『嵐の中の子どもたち』

(5) 舞台芸術 ② 舞踊

舞踊のジャンルには、日本舞踊、邦楽芸能、民謡民舞などの日本の伝統芸能に属するものと、クラシックバレエ、社交ダンス、フラダンス、ジャズダンスなど、欧米から入ってきたものがあります。

市民による舞踊の活動が活発化するのには、公民館が新しく築造されはじめた昭和45年以降ではないでしょうか。そうした活動をうけて、まず民謡民舞団体の連盟組織として「所沢さら会」が昭和48年に発足、同55年には「所沢市邦楽愛行連盟」（後に「所沢市邦楽芸能連盟」）が、同62年には「所沢市日本舞踊連盟」が設立しました。クラシックバレエでは、近年「NBAバレエ団」が注目を集めています。平成5年に設立され、

同16年に所沢に本拠地を移しました。時を同じくして、平成6年に「所沢市バレエ協会」が設立されました。これは、前年にできたミュージズが大きく影響しているといえます。協会では、翌年よりミュージズを会場にしてロシアやアメリカから著名な講師を招いて講習会を開き、レベルの向上をはかりました。一方で市民の間では、中高年層による社交ダンス、フラダンス、フォークダンスなどが公民館を活動場所として盛んにおこなわれており、中でも社交ダンスのサークル数は特に群を抜いています。

また、地域で好まれている踊りとして、盆踊りは欠かせません。近年は「ところざわまつり」でもおなじみのよさこいも人気を博しています。

日本を代表するバレエ団の一つです。平成5年に日本バレエアカデミーとして設立し、その後、NBAバレエ団に名称変更し、平成13年にNPOの認証を受けました。平成12年には「クラシカルスリーワークス」公演で文化庁芸術祭優秀賞を受賞、同16年には芸術総監督の安達哲治が日本のバレエ界の最高の栄誉である橘秋子賞特別賞を受賞しました。平成24年には米国コロラドバレエ

団でプリンシパルとして活躍した久保統一が芸術監督に就任するとともに、「ドラキュラ」などの公演の成功により、平成26年度の文化庁芸術祭新人賞を受賞しました。

平成16年にスタジオを練馬区から所沢に移転し、今日に至っています。団員は100数十名が在籍し、市内では、ミュージズでの公演のほか、バレエ教室を開くなど地域還元にも力を入れています。



NBAバレエ団公演

ミュージズの能・狂言公演

日本が誇る伝統芸能として、能・狂言はミュージズの公演メニューの主要な位置を占めています。

能については、日本伝統芸能の理解を深めようというため、近年、「能楽体験ワークショップ」や「能楽講座」を積極的に開催し、人気を博しています。狂言においては、野村万作・萬斎による「万作の会」公演や、最近では南原清隆による「現代狂言」も行われ、根強い人気があります。



能楽体験ワークショップ

ところざわYOSAKOI元気フェスタ



ところざわYOSAKOI元気フェスタ

西武池袋線狭山ヶ丘駅近くのところざわ自動車学校で平成22年から開催されています。毎年9月の敬老の日に開催しており、埼玉県西部地区のよさこいイベントとしては最大級です。よさこいは高知県を発祥として、近年、全国的に広まっている舞踊の一つで、本フェスタも当初は12チームしか参加していませんでしたが、平成27年以降は30チームを超え、徐々に定着してきました。参加チームは、所沢のみならず、狭山、入間、飯能などの近隣市のほか県外からも参加しています。

公民館（まちづくりセンター）のダンスサークル

公民館のダンスサークルは、中高年層を中心として盛んにおこなわれています。ジャンルについては、団体数の多い順にあげれば、社交ダンス(76)、フラダンス(38)、フォークダンス(25)といった具合で、社交ダンスが群を抜いていることがわかります。しかし、社交ダンスもここ10数年のサークル数の推移をみると、減る傾向にあ

ります。その代わりに、ジャズダンス、スクエアダンス、モダンダンス、フラメンコなど多種類のダンスサークルが増えている傾向がみられ、さまざまなダンスを志向していることがわかります。なお、公民館でダンスサークルが活発な要因として、ホールなど広いスペースがあることが挙げられます。

(6) メディア芸術 ① 映画

かつて映画は庶民の娯楽の王道であり、所沢にも旧町地区に3つの映画館が存在していました。しかし、高度経済成長とともに娯楽が急速に多様化していくなかで昭和57年を最後に3館とも閉館しました。その後、昭和58年に新所沢パルコの進出によって誕生した客席200程度の3つの小ホールからなる「新所沢レッツシネパーク」の誕生により、所沢における映画文化の第2幕が始まります。昭和61年には所沢駅西口再開発後に誕生した再開発ビル「ワルツ」の中に「シネセゾン所沢」が誕生しました。この2つの上映館は、いずれも名画座ではなく封切り型でした。「シネセゾン所沢」は、シネマコンプレックスが普及するなか、スクリーンが一つしかないこともあり、平成15年に閉館となりました。一方の「新所沢レッツシネパーク」は内装を一新して新たなファン層の開拓に努めています。また、この間、車社会の普及とともに、屋外で車に乗ったまま映画が鑑賞できる「ドライブインシアター」が、全

国20か所以上で存在（現在は全て閉鎖）し、所沢においても「小手指ドライブインシアター」（西友小手指店駐車場）で昭和56年から平成12年まで映画が上映されていました。

そうしたなか、映画に関しては新たな流れともいえる状況が生じています。その1つがミュージズにおける「ミュージズシネマ・セレクション」です。映画ファンの支持の高い映画のみを集めておこなうフィルム上映会ですが、平成28年で16回を数え、固定ファン層を抱えた隠れた映画祭ともいえる存在です。第2に、平成27年に誕生した「ところざわ学生映画祭」です。これは、日本大学芸術学部、早稲田大学を中心とする映画サークルの組織間交流、情報交換、自主映画制作のレベル向上を目的に立ち上げられた催しですが、第2回には40作品の応募があり、うち11作品が上映されました。映画文化が今後の所沢における文化芸術活動をリードしていくことが期待されています。

所沢の映画館

所沢の映画館の沿革を以下のとおり紹介します。

● 所沢中央映画劇場

明治36年に雛人形問屋の二上忠蔵が建てた「雛沢座」を前身とし、その後綿糸商・秋田商店により改修、大正2年に「歌舞伎座」と改称して歌舞伎や浪花節などの演芸を上演していました。戦後、「中央映画劇場」となり、東宝系の

作品を上映していましたが、昭和57年に閉館しました。

● 名画座

御幸町にあった「所沢演芸館」を前身とする映画館。活動常設館を飛行場出入りの御用商・根岸友吉らが、大正14年に買収して再オープン。日本活動写真株式会社（日活）の映画を中心に上映していました。昭和19年に「明邦座」、同32年に「名画座」と名称を変え、昭和45年に閉館しました。

● 所沢東映

昭和30年に現在の東町イオン所沢店（元ダイエー所沢店）の場所に閉館しました。同42年火災で焼失しました。

● 新所沢レッツシネパーク

昭和58年新所沢パルコ店の出店にともない併設開館されました。3つのスクリーンを常設し、当初は子ども向け漫画映画やコマーシャルペー



所沢演芸館

スの人気映画を上映しつつ、合間に映画マニアにも喜んでもらえる作品を上映して映画ファンの期待に応えていました。近年は近隣にシネコンが続々オープンして客が流れてしまう状況を打破しようと、平成28年に客席数を従来の650席から331席に半減させ全席をプレミアムシートに改装して、リニューアルオープンしました。

映画コラム 2

ミューズシネマ・セレクション

平成12年にミューズではじまった映画上映プログラムで、上映後には監督やゲストによるトークショーを開催しています。映画ファンの支持の高い作品の上映とともに、日本のみならず世界で高い評価を得ている是枝裕和、河瀬直美、石井裕也監督などの作品や、日芸（日本大学芸術学部）映像学科出身の監督らによる作品など、所沢との接点の中で撮影された作品も上映されています。

平成28年「ミューズシネマ・セレクション part16」では、上映作品のうち、東村山市の国立療養所「全生園」が舞台となっている『あん』も上映されました。原作者のドリアン助川が来場

●シネセゾン所沢

昭和61年に西武百貨店所沢店とワルツのオープンに伴い開館しました。客席数180の封切り館で、当初は百貨店の直営でしたが、平成5年に首都圏でミニシアター系の映画館を経営する東京テアトルが経営を受け継ぎました。「駅から雨に濡れず行ける映画館」として常連客も多くいましたが、平成15年には来場者数がピーク時の半減となり、同年閉館しました。

し、樹木希林演じる徳江の最後の手紙を朗読しました。この作品は、どら焼屋の店主と美味しいあんをつくる元ハンセン病患者の交流を描いた作品で、所沢市内で活動していたスクールソーシャルワーカー・山下英三郎が実践していたフリースクールとの出会いから生まれたものであり、全生園での婦人との出会いがあったからこそとドリアン助川自身も話していました。

また、同じく来場されていた河瀬直美監督のあいさつでも「私はこの作品を初めて上映するのは、この所沢においてほかにはないと思っていました」と話していました。

映画コラム 3

ところざわ学生映画祭



第2回ところざわ学生映画祭

市内の大学生（早稲田大学・日本大学芸術学部）が中心となり、平成27年からスタートした手作りの映画祭です。第2回（平成28年）は市内の県立芸術総合高等学校も参加し、コメディ、アクション、社会派まで幅広いジャンルの作品が終日上映されました。

第2回は40作品の応募から11作品を選出する激戦でした。これを勝ち残っただけあって、観覧者からは「本当に学生が撮った映画？」と驚きの声が漏れるほど、どれもハイクオリティです。「航空記念公園」、「狭山湖」、「西武線」などもロケ地に使われており、所沢人は、いつの間にか所沢

愛を掻き立てられてしまいます。

会場は西武所沢店のワルツホール所沢。その昔、映画館として使用されていた場所が年に1回、学生映画祭のときだけ映画館に戻る。これも所沢愛を感じる演出です。

「100年続く映画祭」を目指し、「所沢といえば学生映画祭」「毎年5月はところざわ学生映画祭」と言われるような愛される映画祭を育てています。まだ始まったばかりですが、今後も「ところざわ学生映画祭」から目が離せません。

映画コラム 4

所沢ゆかりの俳優・タレントなど

本市には所沢市観光大使のオードリー春日をはじめ、俳優、女優など所沢にゆかりのある方々が数多くいます。

タレント名	分野	代表作・活動歴
天宮 菜生	ミュージシャン、女優	元宝塚歌劇団花組の娘役 宝塚歌劇団舞台『愛のプレリユード』ミュージカル『赤毛のアン』など
岡井 千聖	ミュージシャン、女優、タレント	アイドルグループ元「C-ute」 映画『子犬ダンの物語』、テレビ番組『優しい人なら解ける クイズ優しいね』など
沖田 修一	映画監督	映画『南極料理人』『滝を見に行く』など
春日 俊彰	お笑いタレント	お笑いコンビ「オードリー」 テレビ番組『炎の体育会TV』『スクール革命!』など 所沢市観光大使
假屋崎 省吾	華道家	枠にとらわれない多様な分野とのコラボレーションなど華道の魅力を世界に発信する活動をしている。テレビ番組『中居正広の金曜日のスマイルたちへ』など
工藤 阿須加	俳優	テレビドラマ『ルーズヴェルト・ゲーム』など
島田 洋七	漫才師、タレント、作家	お笑いコンビ 元「B&B」 著書『佐賀のがばいばあちゃん』など
清水 章吾	俳優	テレビドラマ『北の家族』『白い巨塔』など
竹内 結子	女優	映画『いま、会いにゆきます』、テレビドラマ『ランチの女王』など
所ジョージ	ミュージシャン、俳優、タレント	テレビ番組『所さんの目がテン!』『世界まる見え!テレビ特捜部』など
沼田 曜一	俳優、語り部	映画『獄門島』『地獄』『リング』など 民話の語り部としても活躍
原田 泰造	お笑いタレント	お笑いトリオ「ネプチューン」 テレビ番組『ネプリーグ』『しゃべくり007』など
左 卜全	俳優、オペラ歌手	映画『生きる』『七人の侍』『どん底』など 曲『老人と子供のポルカ』、歌人三ヶ島葎子の異母弟
森永 卓郎	経済アナリスト、タレント	テレビ番組『がっちりマンデー』など ミニカーなどのコレクション約10万点を集めた「B宝館」を新所沢にて開館
柳家 喬之助	落語家	『ウルトラマン落語』、映画『アニと僕の夫婦喧嘩』など
YOU	ミュージシャン、女優、タレント	音楽ユニット 元「FAIR CHILD」 テレビ番組『ダウンタウンのごっつええ感じ』『テラスハウス』など
吉村作治	エジプト考古学者	エジプトの発掘調査を約半世紀にわたり行ない、ミイラ、未盗掘墓の発見など数多くの足跡を残す

市内各所でロケ地となったケースはこれまで数多くありました。その中で、もっとも知られているのが、狭山ヶ丘駅が主人公の自宅最寄り駅として設定された「Shall we ダンス?」(1996)です。駅での撮影は終電前後に行われ、車両やホームでの撮影は乗降客数の少ない狭山線で行われたといわれています。

平成26年度には、市の事業として、市内におけるロケーション撮影が円滑に行われる環境を整え、映像制作活動の誘致及び支援を通じ、地域振興及び地域経済の活性化を図ることを目的とした「所沢市ロケーションサービス」が開始されました。

所沢市域は、西は狭山湖や狭山丘陵を代表とする自然、中央は市街地、東は三富新田を代表とす



ロケーションサービス事業

る畑地、さらに、「航空記念公園」や「ミュージズ」など、ロケ地となる施設が多数あり、都内からも近いことから、現在、多くの撮影が行われています。

- 2000年(H12) 所沢市50周年記念事業「シンボルマーク」選考委員会に参加
- 「官学連携に関する基本協定」に基づく計画書デザインの提供
 - 2006年(H18) — 第4次所沢市総合計画・後期基本計画
 - 2011年(H23) — 第5次所沢市総合計画
- 2007年(H19) 中心市街地活性化拠点施設運営事業に関する協力要請(「野老澤町造商店における活動」)
- 市内柳瀬荘(重要文化財)を使った美術イベント(東京都と日本大学芸術学部との「産学連携デザインプロジェクト」)
- 2014年(H26) 「所沢新メニュー開発プロジェクト」産学連携デザイン審査会への参加

平成12年に県立緑ヶ丘高等学校が閉校となり、全国初の4学科(美術、音楽、映像芸術、舞台芸術)を有する芸術系高校として、新たに「県立芸術総合高等学校」が開校しました。開校からすでに15年を超える活動の中で着実に成果を表し、例えば平成28年の「ところざわ学生映画祭」には多数のエントリー作品の中から2作品が上映対象となり、みごとに準グランプリを獲得しました。こうした芸術系学校機関相互に教育的連携を図る

中で、地域に重層的なネットワークが形成されつつある現状があります。特に平成27年に所沢市が市内にある4つの学校機関(「秋草学園短期大学」「西武学園医学技術専門学校」「日本大学芸術学部」「早稲田大学人間科学部・スポーツ科学部」と結んだ連携協定によって、今後の協力関係に拍車がかかるであろうことが予想されます。そうした関係性の中で一層、創造的な取り組みが進んでいくことに期待が集まっています。

小手指公民館(小手指まちづくりセンター)では昭和29年に「視聴覚研究会」が発足し、地域による映像活動が活発におこなわれました。埼玉県教育委員会から指定を受け、地域の養蚕業や結婚式を記録しスライド映像にまとめてつくられた「郷土を探る」は、現在でも貴重な記録になっています。

その後、8ミリフィルムの研究会として昭和51年に「所沢映像研究会」が発足、後に「所沢映像連盟」と改称し、映像活動を続けています。貴重な歴史文化・自然・人間性豊かな触れ合いなどを収めたビデオ作品を年に1度、中央公民館(所沢まちづくりセンター)で発表しています。

所沢のアート系芸術分野を語る上で、平成元年の日本大学芸術学部所沢キャンパスの開設は欠かせないでしょう。国内有数の文化芸術系大学として、同校の進出は様々な影響を与えうる出来事でした。しかしながら、開校当初から所沢市とどの程度の関係があったかという、実は数えられる程度の関係しか発生していませんでした。これ

は、直接的な両者の関係性というよりも、地域に成立した「場」としての存在から間接的に与えられた影響という形で作用していることが大きいのかも知れません。

参考までに、以下に所沢市と同校との間に取り組んできた連携事業一覧を紹介します。

(6) メディア芸術 ② マンガ・アニメ・ラノベ・ゲーム

この分野で所沢を代表する人といえば宮崎駿監督です。卓越した業績を残した世界の映画人に贈られるアカデミー名誉賞を受賞するなど、所沢の誇れる文化人といえます。代表的作品となったアニメ映画「となりのトトロ」はその舞台のモデルが狭山丘陵や松郷・牛沼周辺とされます。

埼玉西武ライオンズ球団の本拠地になっている所沢には野球漫画が多い傾向があります。球団のマスコットはご存知、手塚治虫「ジャングル大帝」の主人公レオですが、プロ野球選手・田淵幸一をモデルとしたいひさいちの4コマ漫画「がんばれ!! タブチくん!!」や河合じゅんじの「かっぱせ! キヨハラくん」はそれぞれライオンズに所属していた選手が中心の物語となっています。

このほか漫画の話題では、平成27年にリバイバルヒットした魔夜峰氏の「翔んで埼玉」があります。埼玉県の県民性を刺激するギャグ漫画で、作者が所沢に在住していた昭和53年に発表し、

当時はそれほど話題になりませんでしたが、テレビ番組で取り上げられ、その後ネットやSNSで話題になり30万部増刷されました。

ラノベはライトノベルのことです。小説に類しますが、漫画やイラストレーションによる挿絵を多用し、登場人物のキャラクターやイメージが予め設定されているなどの特徴があり、アニメやゲームに展開することもあります。所沢ゆかりの人物の作品では、わかたけまさこの作品や岡田伸一のサスペンス小説が話題を集めています。また、川原礫「ソード・アート・オンライン」や和ヶ原聡司「勇者のセガレ」などの作品では、所沢市が舞台として描かれています。

アニメの関連でいえば、所沢市と株式会社KADOKAWAが共同で進めている「COOL JAPAN FOREST 構想」において、同社が建設する「ところざわサクラタウン」を世界に誇るアニメ聖地としていく企画が生まれています。

<略年表>

- 1978年 手塚治虫「ジャングル大帝」の主人公レオが西武ライオンズ球団のマスコットに採用される
- 1988年 宮崎駿監督のアニメ映画「となりのトトロ」が公開される
- 1989年 日本大学芸術学部所沢校舎が中富南に開校する
- 1990年 松葉町（新所沢東地区）にアニメーションの作画作業を主な事業内容とする有限会社夢弦館が設立される
- 1998年 映画「となりのトトロ」のトトロをイメージキャラクターとする財団法人トトロのふるさと財団（現公益財団法人トトロのふるさと基金）が設立する
- 2000年 埼玉県立芸術総合高等学校が三ヶ島に開校する
- 2005年 このころ西武鉄道がアニメとのコラボレーション企画を始める
- 2009年 オリジナルフレーム切手「武蔵野の童絵ふるさとの風景」（池原昭治画、所沢は「狭山湖と桜」）が発売される
- 2010年 所沢市の市制施行60周年記念事業として、イメージマスコット「トコロん」が誕生する
- 2015年 所沢市と株式会社KADOKAWAが所沢において、共同プロジェクト「COOL JAPAN FOREST構想」を進めることを発表する



市イメージマスコット「トコロん」

マンガ・アニメ・ラノベ・ゲームコラム 1

宮崎駿

宮崎駿監督は、中学生頃から漫画（劇画）家志望であったと言われ、高校生の頃に見た日本初のカラー長編アニメ映画「白蛇伝」で劇画よりもアニメーションの方が表現方法において優れていると結論づけ、東映動画（東映アニメーション）に入社しました。同社の映画作品においてアニメーターとして頭角を現し、放映後人気となる数々の作品の製作に携わりました。その後、盟友の高畑勲監督とともに会社を移りながら、アニメ映画だけでなくテレビ作品も手掛けました。劇場版「ルパン三世・カリオストロの城」で映画監督デビュー、自身の漫画原作を映画化した「風の谷のナウシカ」でキネマ旬報ベスト・テンにランクイ

なし、その名が広く知られるようになりました。昭和60年に製作拠点としてスタジオジブリを三鷹市に設立。同63年の「となりのトトロ」でキネマ旬報ベスト・テン1位に輝き、作家としての地位を確たるものにします。その後も「魔女の宅急便」（1989）、「もののけ姫」（1997）など興行記録を塗り替える作品を発表、「千と千尋の神隠し」（2001）は日本映画の歴代興行収入第1位の記録（308億円）を樹立し、ベルリン国際映画祭で金熊賞、アカデミー賞で長編アニメーション賞を受賞し、世界でも一流の評価を得てアニメの巨匠と称される存在になりました。

マンガ・アニメ・ラノベ・ゲームコラム 2

所沢ゆかりの声優

アニメーション映画といえば声優です。所沢ゆかりの声優として最も知られている人物が、漫画「サザエさん」のマスオ役や「それいけ!アンパンマン」のジャムおじさん役を演じている増岡弘で

す。また、海外の評価が高いアニメ映画「AKIRA」の金田役などを演じている岩田光央やアニメ「SLAM DUNK」の桜木花道役などを演じている草尾毅も所沢ゆかりの声優です。

マンガ・アニメ・ラノベ・ゲームコラム 3

所沢市が舞台の作品

漫画、アニメ、ラノベ（ライトノベル）、ゲームの作品で、所沢が舞台となっている主なものを一覧にしてみました。

作品名	分野	作者（発表年）	所沢との関連
パンダコパンダ	アニメ	宮崎駿 (1972年)	舞台のモデルが所沢市周辺とされる（北秋津駅が登場）
がんばれ!!タブチくん!!	漫画	いしいひさいち (1979年)	プロ野球選手・田淵幸一をモデルとするが、ストーリーは西武ライオンズが中心
かっとなびー斗	漫画	門馬もとき (1985年)	少林サッカーの草分け、続編『風飛びー斗』で入学した高校の所在地が所沢
かっとなびーせ!キヨハラくん	漫画	河合じゅんじ (1987年)	西部ライオンズのキヨハラを始め、さまざまなプロ野球選手・関係者が繰り広げるギャグ漫画
所さんのまもるもせめるも	ゲーム	エピックソニーレコード (1987年)	所ジョージを操り、千代田区から所沢市の自宅を目指す横スクロールアクションゲーム（ファミコンソフト）
となりのトトロ	アニメ	宮崎駿 (1988年)	舞台のモデルが狭山丘陵や柳瀬川周辺とされる
ケンネル所沢	漫画	おおつばマキ (1989年)	「ケンネル」とは英語で犬小屋の意
わずかいっちょまえ	漫画	星里もちる (1990年)	作品に登場する「水沢航空記念公園」は所沢航空記念公園がモデルといわれている
考える犬	漫画	守村大 (1996年)	ストーリーの設定は、所沢近郊に住む売れっ子編集長と飼犬、家族が繰り広げるヒューマンドラマ
瀬戸の花嫁	漫画	木村太彦 (2002年)	主人公の実家がある「床沢市」は所沢市がモデルである
ソードアート・オンライン	ラノベ・アニメ	川原礫 (2002年)	ヒロインが入院している病院が所沢で、所沢駅舎も登場。2008年に電撃文庫刊行、2012年にテレビアニメ化、2013年にPSP用ソフト化、2017年に劇場アニメ化
世界の中心、針山さん	ラノベ	成田良悟 (2005年)	ストーリーは所沢が舞台
冬の夜咄	漫画	長岡良子 (2007年)	坂之下の黄林閣（松永耳庵別荘）をモデルとしている
葉桜が来た夏	ラノベ	夏海公司 (2008年)	防衛医科大学校病院が登場
刻刻	漫画・アニメ (TV)	堀尾省太 (2008年)	ストーリーは所沢が舞台、2018年にテレビアニメ化
月刊少女野崎くん	漫画・アニメ	椿いづみ (2011年)	作中に新所沢駅をモチーフとした駅が登場
TARI TARI	アニメ (TV)	株式会社ビーエーワークス (2012年)	第5話で所沢市民体育館が登場
篠崎さん気をオタしかに!	漫画	氷川翔 (2012年)	ストーリーは所沢が舞台
アイドルマスター ミリオンライブ!	ゲーム	株式会社バンダイナムコエンターテインメント (2013年)	スマートフォン用ソーシャルゲーム登場アイドルの一人「所恵美」が所沢出身の設定。私服Tシャツに「I LOVE 105630 (ところざわ)」のロゴがある
サムライフラメンコ	アニメ (TV)	株式会社マンガローブ (2013年)	第6話にて所沢駅西口付近が登場
ローリング☆ガールズ	アニメ (TV)	株式会社ウィットスタジオ (2015年)	市内日吉町が舞台。所沢国の自警団「日吉町プロベラーズ」、圏央所沢病院がモチーフになった建物が登場
ばなにゃ	アニメ (TV)	株式会社クーリア (2016年)	所沢市が制作協力、エンディング映像では西武ドームや狭山湖などが登場
正解するカド	アニメ (TV)	東映アニメーション株式会社 (2017年)	第6話以降、狭山湖が舞台、作中に西武園ゆうえんちも登場

所沢ゆかりの作家

所沢生まれ、所沢育ち、在住、元在住の作家です。日芸（日本大学芸術学部）や県立芸術総合高等学校出身者も含まれています。

作家名	分野	代表作
あだち 充	漫画家	『タッチ』『みゆき』『H2』『クロスゲーム』など
蛭子 能収	漫画家・タレント	『地獄に堕ちた教師ども』『私はバカになりたい』
岡田 史子	漫画家	作品集『ODESSEY 1966～2003 岡田史子作品 episode1』など
勝又 進	漫画家	『深海魚』作品集『赤い雪』など
河合 じゅんじ	漫画家	『かっぱせ！キヨハラくん』など
桑名 真吾	ゲームクリエイター	『スペクトラルフォース』シリーズなど
さだやす 圭	漫画家	『なんと孫六』『ああ播磨灘』など
三町 半左	漫画家	『義経物語』『太閤記』など時代漫画（小学館の学習誌）
高橋 美由紀	漫画家	『週刊少年マガジン』初の女性連載作家、『9番目のムサシ』など
高橋 良輔	アニメ監督	『太陽の牙ダグラム』『装甲騎兵ボトムズ』など
田島 みるく	漫画家	『あたし天使あなた悪魔』『本当にあった愉快な話』など
中沢 啓治	漫画家	『はだしのゲン』など
日野 日出志	漫画家	『地獄変』『毒虫小僧』など
ふなつ 一輝	漫画家	『華麗なる食卓』『妖怪少女ーモンスガー』など
魔夜 峰央	漫画家	『バタリロ!』『翔んで埼玉』など
水野 英子	漫画家	『星のたてごと』『白いトロイカ』『ファイヤー!』など
宮崎 吾朗	アニメ監督	『ゲド戦記』『コクリコ坂から』など
宮崎 駿	アニメ監督	『となりのトトロ』『千と千尋の神隠し』など
モンキー・パンチ	漫画家	『ルパン三世』『一宿一飯』など
安彦 良和	漫画家・アニメ監督	漫画『王道の狗』アニメ『機動戦士ガンダム』など
山本 英夫	漫画家	『おカマ白書』『のぞき屋』など

高度情報化×若者による活動の活況化

ガラケー（日本独自の進化を遂げた日本製の携帯電話）からスマホ（先進的な携帯機器用OSを備えた携帯電話の一種）へと変化を遂げた通信ネットワークメディアは、情報発信の多元化を促進させ、新たな活動環境を発生させています。可視化されていない空間に、人が集い関心と支持を集めています。

発信された情報はFacebookなどのSNS（交友関係を構築するWEBサービスのひとつ）を経由し、ほぼリアルタイムで受け取ることができます。そ

れらは迅速ではありますが、また同時に甚だ脆弱でもあります。こうした情報特性を生かしながら、文化活動の新たなトレンドが形成されていくのです。従来であれば、情報の伝達は新聞・テレビ・ラジオなどの既存メディアによって、集中発信されていました。しかし、現在の多元化されたネットワークメディア環境下では、集客数予想や参加者の好みの傾向、などをビッグデータや不特定アンケートなどから測定するなどして、支持の高い活動の誕生を後押ししています。

こうしたマーケティング的展開はいまや商業的、政治的な結果として実証済みであります。（例えばSEALDs「自由と民主主義のための学生緊急行動」の抗議集会呼びかけなど）

本市においても、とりわけ若年層のつながり方にそれが顕著に表れていて、むしろ個人所有化された情報端末なしには、ほとんどの活動と集客が成立しないような状況とも言えます。ローカルエ

リアやゲリラ的に深夜帯に実施されるイベントなど、あるいは移動しながら展開する活動など、LINEやグーグルマップを活用しながら修正や指示を与えることで企画展開が可能となったのであります。

こうした高度情報基盤とそれを自在に駆使する若者世代との関係が、さらに新しい文化的活動へと発展していくと思われます。

文化のTokyo一極化から郊外化へ

航空記念公園で現在、定期的にコスプレ写真撮影会が行われていることをご存じでしょうか。様々なアニメキャラクターに扮した少年少女を中心に、思い思いの場所で小さな舞台空間が繰り広げられています。そこには、スターや有名人が展開する「大きな物語」は存在しませんが、日常の延長線におかれた彼ら、彼女らの「小さな幸福の物語」は確かに存在しているのです。

宮台真司が「まぼろしの郊外」を書いたのも写真家のホンマタカシが郊外写真で静かに問題を提示したのも同じ90年代後半でありました。それから20年近くの月日が流れ、郊外の持つ象徴的意味合いも様変わりしてしまったように感じています。「郊外」はかつて生産拠点たる首都「東京」

を補完するものでありました。人々が労働を提供し、つかの間の休息のために戻る寝屋であったのです。しかし現在、その様相は反転したかのような状況を迎えつつあります。かつてはTokyoでなければ手に入らないモノたちは、今は情報化社会の中ですべてが平準化、入手可能社会へと移行しつつあります。つまり、Tokyoであることが、特別なことではなくなったとも言えるのです。

そうした社会変化の中であって、むしろ「郊外」、中心より周辺でなければ手にしえないもの、例えば、豊かな緑にあふれる環境、広大な公園など、人々が緩やかにつながる日常の中に魅力や価値観を見出す人々が増え始めてきているのかもしれない。

(7) 美術 ① 絵画

絵画の分野で歴史的にまず浮かぶのは、江戸時代に寺社へ奉納された「絵馬」です。絵馬は、祈願や感謝の意をこめて奉納するもので、とくに山口観音に奉納されている絵馬には市指定文化財の「石川文松筆 六歌仙図大絵馬」や「三上文筆 富士眷狩図大絵馬」、「観齋筆 煙草屋図大絵馬」など絵画史的にも優れた作品が多くあります。明治時代になると、本業のかたわら絵を描き、墨梅図や花鳥図・合戦図などの得意なモチーフで力量を発揮し、博覧会などで高い評価を得た画家も現れました。

大正から昭和にかけてはエコール・ド・パリの画家として、山路真護をはじめ、内田晃、上村次敏らの洋画家が中央画壇において活躍を見せました。

戦後は組織的な活動が目立ちます。戦前から結成されていた教員を中心とした「武蔵野画会」と戦後新たに結成された「あけぼの画会」が昭和22年に共催で展覧会を開催しました。これをきっかけに同28年には「所沢市美術連盟」が発足し、「所沢市美術展」が始まりました。そのなかの「あけぼの画会」は、子どもたちの感性を伸ばそうと、

後の「所沢市子ども写生大会」の前身となる写生会を所澤神社で催しました。その後、教員による研修団体「所沢市教育研究会」が主体となって、ユネスコ村を会場とした写生大会が始まりました。所沢には、日展、院展、二科展などの中央画

壇所属の画家はもちろんのこと、無所属であっても活躍している画家が在住しています。そのなかで清水正雄は現在活躍する日本の美術家として、世界芸術家辞典に掲載されています。

絵画コラム 1

所澤郷土美術館

市内久米に所在する昭和53年開館の私設美術館で、建物（主屋）は嘉永年間（1848-1854）建造の医家屋敷であり、長屋門、土蔵とともに、平成17年に国の登録有形文化財に登録されています。市内在住作家の絵画、彫刻、書など約80点を展示しており、作家としては、山口操助、安食一雄、筒井博、倉橋寛、澤村みちる、松本珍男子（以上洋画）、三上信次（挿絵）、加藤眺溪（書）ほか。また、陶芸教室もおこなわれています。

開館日は、4月から11月までの日曜、祝日（12月～3月は冬期閉館）、開館時間は午前10時から午後4時30分までです。



所澤郷土美術館

絵画コラム 2

所沢ゆかりの画家

「所澤郷土美術館」及び市が所蔵している絵画作品のうち、所沢にゆかりのある主な画家を紹介します。

画家名	活動年	代表作・活動歴
山路 眞護	1900-1969	二科会審査員、「巴里」ほか、全日空のマークをデザイン
三上 信次	1913-1995	挿絵画家、小学館発行雑誌の表紙絵や挿絵を描く
山口 操助	1914-2004	二科会参与、NHK連続テレビ「蘭子ひとり」タイトル画
内田 晃	1918-2004	大調和会、ヨーロッパの風景を叙情的に描く、「パリー裏通り（B）」
西野 嘉斎	1919-2008	二科会常務理事
倉橋 寛	1927-2015	二科会評議員、サロン・ドートンヌ展出展
今野 由恵	1927-1996	無所属、挿絵美人画
澤村 みちる	1928-	太平洋美術会名誉会長、スイス賞展（スイス プチ・バレ美術館収蔵）
中嶋 憲	1930-2005	無所属、カナディアンロッキーを中心とした作品
上村 次敏	1934-1998	パリ青年ビエンナーレ出展、「ウーヴルB」
まつもと 松本 珍男子	1934-	太陽美術協会会員、俳人としても活躍
筒井 博	1934-	光風会会員、日展会友
安食 一雄	1936-2015	東郷青児に師事、二科会評議員、サロン・ドートンヌ会員

絵画コラム 3

市美術展・写生大会

第1回「所沢市美術展」は市制施行3年後の昭和28年に所沢小学校講堂で開催されました。同年に発足した「所沢市美術連盟」の作家87人が、日本画、洋画、彫刻、工芸、書、写真の分野で計163点の作品を出品しました。美術連盟は、その後昭和38年に規約などが定められ改めて結成総会が開かれています。現在は、「ミュージズ」を会場として開催され、平成29年の総出品数は約400点でした。

また戦後、文化団体が中心となり企画された写生大会として、「ユネスコ村写生大会」が昭和27年に始まりました。65年を経た現在も会場を替えながら続いている事業で、平成29年度の参加者は子どもと保護者合わせて2,000人を超えました。中には親子三世代に渡って参加する人もいほど地域に根付いた人気行事となっています。



所沢市子ども写生大会

絵画コラム 4

所沢ゆかりの絵師たち

山口観音の奉納絵馬「石川文松筆 六歌仙図大絵馬」を描いた石川文松（1798-1857）は、青梅出身で谷文晁に師事し、晩年は三ヶ島村に在住していました。山口の仏蔵院には、杉戸絵や天井絵が残されています。また「三上文笠筆 富士巻狩図大絵馬」を描いた三上文笠（1818？-1858）は、所沢に生まれ、嘉永3年（1850）に松代藩の医師高川家へ養子に入り高川姓となり、ペリー再来航時の「横浜応接場秘図」（真田宝物館所蔵）を残しました。御幸町の坂稻荷神社社殿に残る装飾絵も文笠の作品です。

明治時代には、本業のかたわら絵を描き、それぞれ得意のモチーフで力量を発揮して高い評価を得た作家もいました。北野の全徳寺住職の雲溪（1830-1901）は墨梅図を得意とし、内国勲業博覧会で賞を獲得しました。三ヶ島の粕谷素山は、村長職を務めながら絵を描き、新田義貞の小手指ヶ原合戦をモチーフにした屏風絵などの作品を残しています。鹿島更灯（1883-1960）は小手指村の村長を務めるかたわら身近な花や小動物を題材とした作品を描きました。

絵画コラム 5

山路眞護とその作品

山路眞護は所沢を代表する洋画家です。明治33年所沢町に生まれ、京都絵画専門学校を中退後に渡仏。パリで学び帰国後二科展入選。代表作「巴里」など、シュール・レアリスムを取り入れた幻想的な独自の世界を表現した作品を多く残しています。戦後は所沢文化人会の会長として、文化による民主化活動を繰り広げました。

昭和12年に東京・ロンドン間の飛行記録を作った朝日新聞社「神風」号の塗装デザインや全日空の当初のマークの図案製作など、航空に関わる仕事も手掛けています。



山路眞護「巴里」

(7) 美術 ②彫刻・現代アート

所沢は「航空発祥の地」であることから、西武新宿線航空公園駅前や航空記念公園内には、飛行機にちなむモニュメントが配置されています。また、公園内には、大正8年に来日したフォール大佐の業績を称えて建立した「フォール大佐像」や昭和19年に建立された「航空整備兵の像」など、航空の歴史を物語る彫像もみられます。

その一方、身近な彫刻の一つに「ところざわまつり」で曳かれる「山車」の彫刻があります。山車は多くが明治から大正時代にかけて他所から購入したのですが、そこには獅子や龍、牡丹や千鳥などの花鳥といった精緻な彫刻がほどこされています。また御幸町は二代原舟月作「関羽と周倉」、元町本町は三代原舟月作「加藤清正」といったように人形が付帯している山車もあります。

さて、所沢の美術状況の主要なトレンドを形成

する動きの一つに野外彫刻があげられます。最初の野外彫刻展は、昭和49年に滝の城址公園で「滝の城址公園彫刻展」として開催されました。その後会場を移し、昭和53年に開園したばかりの航空記念公園で「所沢野外美術展」が開催され、8年間続きました。また、平成6年から9年に同じ会場で「所沢市野外彫刻展」として開催されました。

次に、この流れを継続して平成21年には（※前年にプレ企画を開催）市内在住の作家たちが中心となり自主企画し、西武鉄道所沢車輛工場跡地を会場として現代美術展「所沢ビエンナーレ引込線（現引込線）」を開催しました。これは現在も旧第2学校給食センターを会場にして継続しています。

彫刻・現代アート コラム 1 野外彫刻

昭和53年に航空記念公園を会場に開催された「所沢野外美術展」は、公園とはいえ、基地返還跡地のまだ広漠とした風景のなかで、日本大学芸術学部、武蔵野美術大学をはじめとした芸術大学などの若手作家らが、自由な活動機会を求めて作品展示したものです。ある種衝撃的な出来事であったといってよく、当時の展示を美術批評家の森啓輔は次のように回想しています。

「…15日間におよぶこの野外展では、どのような特徴を持つ作品が出品されたのだろうか。それらは、鉄や合板を用いたいくつかの具象的でモニュメンタルな作品を除いて、樹木や草び生い茂る場に鉄や木材が立て掛けられたり、地面が掘り起こされ、その場において展開されるなど、展示さ



野外彫刻LOVE

れる環境と密接な関係を有する作品、また当時の美術の動向において『イベント』と呼ばれていた一回性の行為による作品など、多くは野外という限定的な状況で仮設的な作品



野外彫刻展

であった。…」*と評している。

「所沢野外美術展」はその後一時中断したものの再び平成6年に「所沢市野外彫刻展」として開催され、平成10年には「みどりの中の彫刻」として柳澤飛鳥ほか市内在住彫刻家による作品の路上設置が進められました。この事業の趣旨は、良好な都市景観の形成と文化的なゆとりとうるおいのあるまちづくりを目的に実施したのです。

彫刻・現代アート コラム 2 ビエンナーレ「引込線」

世の中がようやく経済の薄明かりの中で再びリマンショックという世界規模での経済打撃に見舞われたちょうど同じ頃、「所沢ビエンナーレ美術展“引込線”」がおこなわれました。最初の会場に選定されたのが、所沢駅前に位置する西武鉄道所沢車輛工場跡地でした。日常的には封鎖



第1回所沢ビエンナーレ美術展「引込線」

され、いずれかの解体の時を待つものでしたが、西武鉄道への働きかけもあり、その廃墟的非日常空間での実現にこぎつけたのでした。イベントタイトルにも象徴されるように、施設内には鉄道軌道がそのまま存在しており、刺激的な作品群とともに、期間中にはワークショップやシンポジウム、音楽パフォーマンス、公開制作、展示ガイドツアーなど埼玉県立近代美術館との協力によりおこなわれました。その後、会場を移し、これまた閉所された市内中富の旧第2学校給食センターにおいて継続されています。

こうした状況をみれば、所沢という土地の持つ「場」の求心力は、ものづくりの現場にいる者たちに大いに刺激を与え、今もなお多くの美術家に対し、さらなるインスピレーションを提供している、ということができるのではないのでしょうか。

彫刻・現代アート コラム 3 新所沢駅西口の女神噴水像

新所沢に公団が進出した直後の昭和35年6月に完成した女神噴水像は、当時日展審査員であった山本雅彦と佐藤義重による作で、「飲む」と名付けられました。「生活の飲む」を意味しています。

彫刻・現代アート コラム 4 彫刻家・田村興造と柳澤飛鳥

長野県上田市のJR上田駅前にある「真田幸村像」は市内下安松に在住していた田村興造(1924-2008)の作品です。幸村像(初陣の騎馬像)は、昭和58年に上田城築城400年を記念して製作を依頼されたもので、NHK大河ドラマ「真田太平記」で注目されましたが、上田市を訪れる多くの人に親しまれています。

彫刻家・北村西望の弟子である柳澤飛鳥(1948-)は、昭和61年に「市民文化フェア」の一環であ

る「野外彫刻展」に参加し、その後も平成5年から8年の航空記念公園での「航空記念公園野外彫刻展」「所沢市野外彫刻展」に参加しています。仏像、ブロンズ像、野外彫刻、オブジェなどの作品で知られ、飛行機の作品も製作しています。平成23年、航空発祥100周年を記念して市役所に展示された日本で最初に飛行したフランスのアンリ・ファルマン機2分の1復元機も柳澤の作品です。

*森啓輔「切断される再現『引込線 2013』図録」引込線実行委員会、2013年、P193

西新井町にある「長屋門能面美術館」は、幕末期に建てられたという旧松井村材長宅の建物を利用して、能面師・福山元誠による作品を常時20面ほど展示しています。入口が長屋門（現在は改築）であったことから名称がつけられました。

わが国初の飛行場である所沢飛行場を選考した陸軍の臨時軍用気球研究会の委員が宿泊した民家で、日本国内で初飛行を行った徳川大尉、日野大尉も立ち寄ったといわれています。福山の能面は、喜多流、金剛流の能舞台で使われています。

国重要文化財「黄林閣」のある坂之下の柳瀬荘を会場として、隔年で開催されている現代アート展です。柳瀬荘は昭和の電力王松永安左エ門が東久留米市の民家などを移築して別荘とした建物群です。平成15年にプレ展示が催され、日本大学芸術学部の学生や卒業生を中心とした彫刻・絵画作家による現代アートの展示やワークショップなどのプログラムで、「間の共振」をテーマに空間を感じる企画となっています。古民家と現代アートという対比も興味をかきたてられます。

柳瀬荘アート教育
プロジェクト

(7) 美術 ③ 写真

写真は、カメラの普及により愛好家が急速に増え、それに合わせて写真活動も活発化しました。所沢では写真愛好者たちによる組織的な活動の嚆矢として、昭和15年発足の教職員を中心とした「所沢光友会」と、終戦直前の昭和20年7月発足の「所沢光画会」の2団体がありました。「所沢光画会」は、商店経営者のほか、新聞・雑誌カメラマンも加わったレベルの高い活動であったようです。発足後30年以上にわたって活動が続き、銀座のフォトギャラリーをはじめ市内でも幾度となく写真展が催されました。一方、写真コンクールも終戦直後から盛んで、狭山丘陵周辺や一時期おこなわれていた「所沢七夕祭り」、最近では「ところざわまつり」で腕を競っています。写真は第1回の「所沢市美術展」から部門が設けられ市民にとって欠かせない文化活動になっています。

その後の大きな変化としては、1980年代のデジタルカメラの出現と日芸（日本大学芸術学部）写真学科というブランドの登場ではないでしょうか。デジタルカメラの発達はパソコンネットワークの普及とともに、アマチュア愛好家の撮影技術や作品の質を一段と高めることになりました。そうしたなか、平成17年度には市で市民カメラマン制度が導入され、また、所沢商工会議所も広報紙に日芸写真学科の学生の撮影写真を採用するなど、アマチュア写真愛好家の活躍が目立つようになりました。なかには市民カメラマンであり、フリーランスの写真家としても活躍中の八木豪彦（2015年度日経ナショナルジオグラフィック写真賞大賞）や日芸写真学科の井上太志（第63回ニッコールフォトコンテスト第4部ニッコール大賞）のようにメジャーな写真賞を受賞する市民も現われています。

飛行機新道沿いにあった「喜多川写真館」は、喜多川秀男（1887-1986）が大正4年に藤村写真館所沢支店を買い取って開業した写真館です。平成22年に閉店するまで約95年間にわたって、所沢をはじめとする近隣から親しまれた写真館でした。喜多川秀男は、所沢で開業する以前から飛行機の写真を撮り、その技術は陸軍から公式写真

の撮影を依頼されるほどでした。大正から昭和時代の飛行機絵はがきの多くは喜多川の写真が元になっています。当時の写真是ガラス乾板に焼き付ける式のもので、貴重な写真原版は、「東京文化財研究所」に寄贈され「喜多川コレクション」として大切に保管されています。

デジタルカメラの普及により写真発表の場がより身近にかつ手軽になったことの一つに写真集の発行があります。所沢ゆかりの写真愛好家による写真

集には次のようなものがあります。傾向としては自然を扱ったものがほとんどですが、中には社会的な問題を取り上げたものも見られます。

<主な写真集>

- 藤田弘基 『ザ・ヒマラヤーネパールヒマラヤの高峰』(1980)、『蒸気機関車百景』(2013)
- 上田武彦 『ふるさと汽車』(1995)、『夢の蒸気機関車』(2003)
- 内尾匡之 『折り折りの四季』(1998)
- 武藤健二 『野に生きる鳥たち』(1999)
- 加藤 仁 『バードウィークの頃』(2000)
- 岸 秀夫 『むさし野春秋』(2002)
- 矢野靖博 『三ヶ島彩四季』(2002)
- 武蔵野の俳会（荒幡順男・今泉信孝・矢野靖博）『武蔵野の俳（おもかげ）』(2002)
- 藤巻由夫 『ゴミの山はぼくらの天国』(2003)、『所沢祭りだ、ワッショイ!!』(2005)
- 山畑寿雄 『滝巡礼』(2004)
- 藤来 聖 『奥多摩・秩父・野生植物』(2007)、『四季の山野草』(2011)
- 八重樫信之 『絆—「らい予防法」の傷痕—日本・韓国・台湾—』(2006)

<郷土の移り変わりをテーマとした写真集>

- 所沢市史編さん委員会 『写真集 所沢』(1986)
- 郷土出版社 『目で見ると所沢・狭山・入間の100年』(2002)、『ふるさと所沢』(2010)
- いき出版社 『所沢市の昭和』(2016)

(7) 美術 ④ 建築

所沢は織物で栄え、大正時代の中心市街地は見世蔵と呼ばれる土蔵建築が並ぶ街並みでした。なかでも大正11年に建てられた所沢織物組合事務所（昭和46年解体）は、白レンガ造りの西洋建築物として織物全盛期を象徴する建造物でもありました。

古建築としては、国の重要文化財に指定されている市内林の「小野家住宅」、同じく坂之下の「黄林閣」、上山口の「旧台徳院霊廟勅額門、丁子門及び御成門」があげられます。そのほか、登録有形文化財になっている久米の「所澤郷土美術館」、三ヶ島の「旧和田家住宅」、中心市街地の「秋田家住宅」も、歴史的建造物として取りあげるべきものです。

近代建築としてまずあげられるのは公民館です。

松井公民館（松井まちづくりセンター）、吾妻公民館（吾妻まちづくりセンター）はとくに建築家の間で話題になった建物で、専門誌に取り上げられるほどでした。

平成時代の建物としては、「ミュージズ」、航空発祥記念館、市民体育館、航空公園駅、所沢駅などが、近年、注目を集めている建築物です。



市民体育館

建築コラム 1

歴史的建造物

歴史的建造物には、所沢にもともと所在した建物と移築された建物があります。前者の例では、冒頭の国重要文化財の「小野家住宅」、国登録有形文化財の「所澤郷土美術館」、「秋田家住宅」です。「小野家住宅」は、18世紀後半に建てられた開拓農家、「所澤郷土美術館」は幕末期に建てられた医家住宅、「秋田家住宅」は明治末期に建てられた綿糸を扱う商家でした。また、建物ではありませんが、飛行機新道の東川に架かる「旭橋」は、昭和5年に築造された橋梁で西洋建築のモチーフが随所に取り

入れられた構造物です。

一方、移築された建物としては、「黄林閣」と旧台徳院霊廟の3つの門、ならびに「旧和田家住宅」です。「黄林閣」は昭和の電力王として知られる松永安左エ門が、江戸期に建てられた旧名家を現東久留米市から現在地に移築したものです。また旧台徳院霊廟の3つの門は、昭和30年代に芝の増上寺から移築した2代将軍徳川秀忠の霊廟の門です。さらに「旧和田家住宅」は、現在の越生町から移築された明治期の製茶農家の建物になります。



旭橋完成
(むかしのところざわ百景より)

建築コラム 2 現代の建築物

平成になって市内には新たな公共施設が相次いで新築、改築されました。それらの建築物は、現代の意匠をこらした建築物として注目されるもの

も多いと言えます。そのなかから代表的な建築物について以下に列記します。

<近年の代表的な公共施設>

名称	竣工年	特色
航空発祥記念館	平成5年 (1993)	ジェットエンジンをモチーフにした展示格納庫 屋根はアーチ鉄骨にテフロン膜構造で、柱の無い館内はドームで明るく、展示の飛行機がガラス越しに見える
市民文化センター・ミュージズ	平成5年 (1993)	多様な文化情報の交換の場として「情報市場」と命名した広場を施設群の中心に、大・中・小ホール、展示場、管理棟などを独立配置した建築群
市民体育館	平成16年 (2004)	メイン・サブアリーナの屋根架構には埼玉県産の杉の無垢材を使用 接着剤を用いずにアーチを構成し、リサイクル材の積極的な採用、自然通風・採光の確保など環境負荷を考慮している 平成17年にグッドデザイン賞を受賞

(8) 将棋・囲碁

所沢には古くから「将棋の文化」が根付いており、江戸時代から明治のなかばにかけて「福泉藤吉」「大矢東吉」の「二人のとうきち」が活躍しました。

福泉藤吉（1766-1837）は所沢村生まれです。寛政2年（1790）江戸の強豪金親盤治郎と4回対戦して全勝。天保期の将棋番付で西の大関に格付けされ、七段を許されました。

大矢東吉（1826-1892）も所沢村生まれです。将棋の家元伊藤家8代宗印、後の12世名人小野（尾野）五平とともに「明治の三強」と言われ、明治20年（1887）の将棋番付では、東大関に格付けされました。

このように「二人のとうきち」を輩出した本市では、二人に因んで「とうきち杯将棋大会」（所沢市観光協会主催）や「こども『と

うきち』将棋大会」（所沢市教育委員会主催）が開催されています。

現在、将棋界で活躍している羽生善治名人と及川拓馬六段も所沢出身であることから、所沢は将棋と深い縁がある市といえます。

また、囲碁についても、現在活躍中の女流棋士藤沢里菜は所沢出身の棋士であり、女流本因坊、女流名人を獲得しています。



こども「とうきち」将棋大会

江戸時代に活躍した将棋の棋士。
福泉藤吉は明和3年(1766)所沢村植宿(現在の日吉町)に生まれました。生家は紺屋を家業としており、藤吉自身も将棋のかたわら紺屋の仕事を続けていたようです。福泉藤吉の活躍した江戸時代の将棋界は、大橋本家、同分家、伊藤家の三家が、家元として君臨していました。家元の棋士は幕府の禄を得ていましたが、家元以外の民間の棋士たちは、将棋だけで生活するためには、賭け将棋や懸賞将棋に頼らなくてはならなかったようで、こうした民間棋士の中でも藤吉は最も人気のある一人であったといわれています。

藤吉は家業の紺屋の仕事をしながらい民間棋士として活躍していますが、俳諧を好み「豆人」という俳号も持つという一面もありました。所沢村という田舎からやってくる風変わりな将棋指し「所沢の藤吉」は当時の将棋愛好家達の間ではかなりの人気を博していたそうです。

天保6年(1835)藤吉は将棋番付で西の大関に格付けされ、民間棋士としては破格の七段を許されます。天保8年(1837)5月26日に72歳で死去。御幸町の川端霊園に葬られました。墓の台石を将棋盤、香炉を駒に模った大変珍しいものです。

幕末から明治にかけて活躍した将棋の棋士。
所沢新田(所沢新町)の医者の子に生まれ、幼少から将棋の腕を磨きました。江戸で活躍した所沢出身の棋士・福泉藤吉の墓前で故人に入門を誓い、幼名の久次郎を東吉に改名。そのため、福泉とともに「二人のとうきち」と呼ばれるようになりました。

諸国を放浪して将棋の腕を磨き、安政6年(1859)頃には、江戸で棋士として活躍し、この年の将棋番付で、西の大関五段と格付けされています。

慶応4年(1868)には、全国規模の番付で西小

結に格付け。その後、将棋の宗家の一つである伊藤家8代目宗印、尾野(後に小野)五平とともに「明治の三強」と称されました。

明治4年頃、東吉は所沢に戻ってきます。地元の愛将家や旦那衆から「強豪帰る」と大いに歓迎された様子が当時の番付表からうかがえます。

明治20年9月の番付では、東の大関八段に昇格し、次代の名人として期待されました。ところがこれ以降、東吉は妻や子に先立たれ、さびしい余生を送ることになります。明治25年に67歳で死去。東吉は所沢新町の「花園霊園」の墓に眠っています。

(9) 茶道・華道

所沢の特産品のひとつに狭山茶があります。所沢では約300年前、徳川幕府の時代に「三富開拓」が行われたころ、農作物の風よけや、隣の土地との境界をはっきりさせるために植えられたのが始まりと言われ、今のように盛んにお茶の栽培が行われるようになったのは江戸時代の中頃からです。

茶道は、湯を沸かし、茶を点て、茶を振る舞う行為を基本とするものであり、日本人の美意識

を表す「わび」「さび」の精神に基づいた日本独自の伝統文化です。

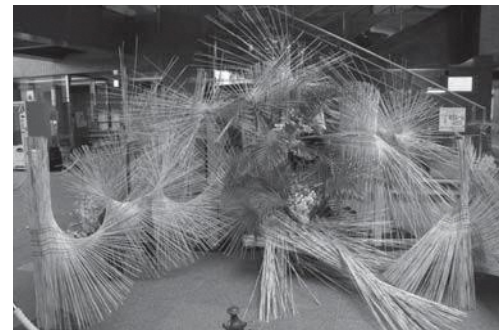
所沢における茶道の歴史は、狭山茶産地としての風土を活かすのが特徴で、昭和45年に設立された「所沢市茶道連盟」の歩みとともに発展してきました。平成11年には、航空記念公園内に茶室「彩翔亭」がオープンし、連盟主催による「市民茶会」のほか、子どもを対象とした「クリス

マス茶会」を開催するなど数多く茶席の場を設け、市民が気軽に茶文化に触れる機会をつくっています。

一方、華道は、植物を中心にその他様々な材料を組み合わせて構成し、季節の草木や花などの植物を器に飾る日本の伝統的芸術の一つです。華道の確立は室町時代中期、京都六角堂の僧侶によるものとされています。その後、流派が広がり、江戸中期から後期になり、それまでの上流階級・武家階級のものから広く庶民のたしなみへと変化していきました。

所沢における華道の歴史は、昭和34年に設立された「所沢市華道連盟」の歩みとともに発展してきました。華道連盟の活動は、個人が自然を尊ぶ心を持ちながら、展示する伝統的な華道展・いけば展の開催とともに、流派を超えた活動が特徴的です。制作の過程まで見せてしまう舞台公演

「いけばパフォーマンス」や市庁舎1階市民ホールでの大作の展示などは、「華道＝花瓶に活けられた小宇宙」という観念を根底から覆し、「大宇宙」を表現しているアートの領域ともいえるでしょう。



いけば展展示 (市庁舎1階市民ホール)

所沢における茶道と華道の関係性は、昭和34年度「第5回教育祭」の一環として開催された「第1回連合華道展」に雲伝心道流、煎茶道松風流の二席が釜を掛けたところから始まりました。その後も、茶道連盟と華道連盟は、総会、役員会を同じ日に開いたり、合同で親睦研修旅行をおこなうなど深いつながりがありました。

また、茶道と華道は日本を代表する文化として、度々国際交流の場でも披露されてきました。昭和

35年には、所沢基地のアメリカ女性と婦人クラブの交流した桜祭りで茶席を設け、交流を図りました。平成5年には、茶道連盟と華道連盟が、所沢市の姉妹都市である中国常州市へ、文化交流のため訪問し、お茶とお花のデモンストレーションを行い、好評を博しました。茶道連盟は、その後、平成11年に再度、中国常州市を訪問し、文化交流を図っています。

国重要文化財「黄林閣」は、電力の鬼と呼ばれた実業家・松永安左エ門の旧別荘であった「柳瀬荘」の構内にあります。安左エ門は、戦時中に電力国家管理の動きに抵抗して敗れ、国策会社日本発送電の発足とともに引退生活に入りました。そして、「柳瀬荘」に籠もり、自らを「耳庵」と号して茶道三昧の日々を過ごすことになりました。

安左エ門が不遇の時期を茶人として過ごした「柳瀬荘」。そのうち「黄林閣」と「長屋門」は、天保

15年(1844年)に建てられた東久留米市柳窪の村野家の建物を昭和5年に現在の地に移築したものです。安左エ門はこの屋敷で客人を手厚くもてなしました。昭和23年に東京国立博物館に寄贈された「柳瀬荘」は週に一度、外観のみ公開されています。なお、「柳瀬荘」内には、書院造りの「斜月亭」や、茶室の「久木庵」なども残されています。

また、所沢航空記念公園の一角に、「和」の趣が感じられる緑豊かな日本庭園と茶室「彩翔亭」が

あります。こちらは平成11年に埼玉県施設の開設されました。日本の伝統文化である「茶道」に気軽に親しみ、楽しむことができる茶室であり、本格的な茶会をはじめ句会、詩吟、華道、香道、子供向けのイベント、国際交流の場など幅広く利用されています。彩翔亭の建物は、茶室風の様式を取り入れた建築方法の数寄屋造りでつくられています。呈茶サービスを行っているので、目の前に広がる美しい庭園を眺めながら一服するのも風情があります。



子どもたちの七夕茶会（彩翔亭）

(10) 食文化

本市の食文化と言えば、手打ちうどんと焼きだんごでしょう。所沢には水田が少なかったことから、原料に米を使わないうどんや、陸稲を利用した焼きだんごといった独自の食文化が生まれたようです。また、うどんは冠婚葬祭などの行事があるときに食され、焼きだんごも農作業など仕事の合間の休憩に食されるなど、生活の中に溶け込んでいました。

こうした食文化も、地場産業や生活スタイルの変化にともない様変わりしました。近年は、本市に存在する多くの食品関連事業者が、新しい食文化を生み出す、担い手となっています。全国的に知られている商品の製造販売や、土産物として利用できる所沢ならではの商品など、多様な商品を生み出していますが、とりわけ近年は、主要農産物である里芋やほうれん草を使ったグルメなど、地産地消を推進する商品が多く生み出されているのが特徴です。



だんご



手打ちうどん

め、取り扱いが市内の1店舗のみとなっています。地元でしか味わえず、気に入ったら出資し育てて行く楽しみもあります。

また、全国的にも高値で取引されている所沢産の里芋を使ったさといも焼酎「恋も咲くところ」や、所沢産の大麦を使ったビール「野老ゴールデン」も市内外で人気を博しています。本場ドイツハム・ソーセージを扱う「ゼーホフ工房」や野菜ソムリエのいる「栗原農園」もこの時期に設立しており、美味しくて良いものを楽しみながら育てていくのも市民の食文化の楽しみ方といえそうです。

また、平成29年には、「所沢産の醤油」「所沢産の麺」「所沢産の野菜1品以上」を使用することを条件とする「ところざわ醤油焼きそば」が誕生し、所沢の新たなご当地グルメとして広まっています。



ゆめところ・恋も咲くところ・野老ゴールデン



ところざわ醤油焼きそば

平成8年以降、新しい食文化が次々に生まれています。

この年「所沢の米で日本酒を作る会」が発足し、2年後には特別純米酒「ゆめところ」が誕生しました。出資会員は田植え体験ができ、その年の「ゆめところ」を受け取ります。火入れをしない「ゆめところ」は品質が変わりやすく輸送が難しかった

2 所沢市の文化芸術略年表

西 暦	元 号	文化関係のできごと	所 沢 の 歴 史
約2万5000年前		砂川遺跡(三ヶ島)でナイフ形石器などの製作・使用	
約5000～4000年前		高度な技術と芸術性をもった土器の製作・使用	中央広場を中心に墓や住居を配する大規模な集落が増加する
600後半			「東山道武蔵路」の築造、市域を通る
1200前後			「鎌倉街道」整備、上つ道が市域を通る
1333	元弘3		小手指ヶ原で新田義貞と幕府軍が合戦
1400後半		「滝の城」が築造される	
1486	文明18	聖護院門跡興准后、野老沢の観音寺を訪れる	
1590	天正18		徳川家康の関東入国、市域の多くは直轄領と旗本領
1614頃	慶長19	岩崎村に獅子舞が伝わる(岩崎獅子舞)	
1639	寛永16	市(いち)の安全と繁栄を祈願した祭文が作成される	
1694	元禄7		川越藩主柳沢吉保が三富新田の開発に着手
1751	寛延4	南永井村でさつま芋栽培開始(川越芋の始作)	
1815	文化12	所沢在住 20 年の齋藤鶴磯『武蔵野話』刊行	
1839	天保10	倉片人形創業(雛稻荷設置)	
1854	嘉永7	俳諧(俳句)流行、所沢周辺で句合(句会)開催	
1874	明治7	重松流祭ばやし創始の古谷重松、久保稲荷神社(入間市)に絵馬奉納、このころには所沢で山車まつり	
1894	明治27	焼きだんご組合「焼きだんごに関する申し合せ事項」	
1895	明治28		川越鉄道の久米川～川越間開通、所沢駅開設
1906	明治39	所沢餅年間総生産量 120 万反余、所沢織物全盛	
1911	明治44	「喜多川写真館」開業(飛行機写真の先駆け)	所沢に日本初の飛行場開設
1915	大正4	所沢最古の和菓子屋「梅月」創業、「雄飛焼」販売開始	武蔵野鉄道の池袋～飯能間開通、西所沢駅(旧小手指駅)、狭山ヶ丘駅(旧元狭山駅)開設
1917	大正6	平岡商店が中心となり「湖月会」発足、新商品開発に着手	
1922	大正11	所沢織物同業組合事務所完成(白レンガ造り)	
1930	昭和5	所沢織物宣伝のため「所澤小唄」のレコード発売	
1932	昭和7		山口貯水池が完成し、竣工通水式挙行
1943	昭和18		所沢町、小手指・山口・吾妻・松井・富岡各村合併
1945	昭和20		第二次世界大戦終結、所沢飛行場が米軍に接収
1949	昭和24	(株)三ヶ島製作所(三ヶ島ベダル)設立	
1950	昭和25	西武鉄道による狭山丘陵周辺の観光開発にともない山口貯水池の愛称を「狭山湖」とする	市制施行(所沢市誕生、県内8番目の市となる)
1951	昭和26	市制施行を記念し「所沢音頭」をつくる	新所沢駅(旧北所沢駅)開設
1952	昭和27	第1回「子ども写生大会」(前年開園のユネスコ村で)	
1953	昭和28	所沢中央公民館が市立となる	
1955	昭和30	第1回「教育祭」開催(のち第1回「所沢市文化祭」)	三ヶ島村と柳瀬村が合併、現在の市域となる
1956	昭和31	「所沢市茶業協会」設立	
1957	昭和32	「所沢人形協会」設立 第1期『所沢市史』刊行	
1959	昭和34	「所沢市華道連盟」設立	日本住宅公園新所沢団地の入居始まる
1961	昭和36	「市民会館」開館(市制施行 10 周年記念)	
1963	昭和38	「所沢市美術連盟」設立	
1964	昭和39	「所沢図書館」設置 「所沢市俳句連盟」設立、山田うどん食堂開店 「満州里」(餃子の満州)創業	東京オリンピック開催、所沢はクレール射撃場の会場となる
1965	昭和40	「所沢市囲碁連盟」設立	
1966	昭和41	「所沢市詠吟連盟」設立	
1969	昭和44	「所沢市短歌連盟」設立	
1970	昭和45	「文化会館」開館(市制施行 20 周年記念)、「文化会館」内に「所沢図書館」移転、市立公民館設置及び管理条例制定、以後各行政区に公民館順次建設、「所沢市民音頭」制作、「所沢市茶道連盟」設立、「所沢市菊花愛好団体連合」設立、「所沢市文化団体連合」設立	小手指駅開設

西 暦	元 号	文化関係のできごと	所 沢 の 歴 史
1971	昭和46		基地の6割が返還、関越自動車道が開通し、坂之下にインターチェンジができる
1973	昭和48	(株)村松フルーツ製作所、所沢へ移転	国鉄(現 JR)武蔵野線開通、東所沢駅開設
1974	昭和49	第2期『所沢市史』編さん事業はじまる	
1975	昭和50	「日本将棋連盟所沢支部」登録	
1976	昭和51	「所沢市民吹奏楽団」設立	
1977	昭和52	新所沢 PARCO 開店	
1978	昭和53	「所澤郷土美術館」開館、「所沢フィルハーモニー管弦楽団」設立、航空記念公園内に野外ステージができる	県営所沢航空記念公園が完成する 「西武ライオンズ」所沢移転
1979	昭和54	「所沢市合唱連盟」設立	「西武ライオンズ球場」完成
1980	昭和55	「所沢図書館」現在地へ新設し、文化会館内の図書館を分館とする 第1回「市民フェスティバル」開催(市制施行 30 周年記念、航空記念公園にて)、「所沢市民謡連盟」結成、「所沢市邦楽芸能愛好連盟」発足	
1981	昭和56	映画館「所沢中央劇場」「名画座」閉館	
1983	昭和58	新所沢バルコ「新所沢レッツシネパーク」開館 (株)ピクセン、新宿区から所沢市へ移転 『文芸所沢』第1号発刊	
1985	昭和60	西武所沢店開店、「シネセゾン所沢」開館	
1986	昭和61	第1回市民文化フェア開催(航空発祥 75 周年)	
1987	昭和62	所沢市民憲章を制定、早稲田大学所沢キャンパス完成、「所沢市舞踊連盟」設立	市庁舎が宮本町から現在地に移築。 航空公園駅開設
1988	昭和63	宮崎駿監督の映画「となりのトトロ」公開	地価公示で宮本町の住宅地全国一の上場率
1989	平成元	日本大学芸術学部所沢校舎開校	
1990	平成2	「所沢市歌謡連盟」設立	市制施行 40 周年記念「第1回シティマラソン」開催
1993	平成5	所沢市民文化センター・ミュージアム開館、「所沢市フラワーサークル連盟」設立、第1回「所沢劇団連絡協議会」開催、「所沢航空発祥記念館」開館、「NBA バレエ団」設立、『所沢市史』全 14 巻刊行完了	
1994	平成6	「所沢市バレエ協会」設立、「埋蔵文化財調査センター」開館、「三ヶ島餃子資料室」が三ヶ島公民館(現三ヶ島まちづくりセンター)内に開館 「所沢の米で日本酒を作る会」設立	
1995	平成7	「所沢市器楽連盟」設立、「市民憲章運動推進全国大会」開催	所沢・飯能・狭山・入間4市で大規模災害時の相互応援、市立図書館相互利用協定を締結
1997	平成9	特別純米酒「ゆめとこ酒」販売開始	全国初の「ダイオキシン類条例」制定
1998	平成10	市内在住の彫刻家による彫刻作品の路上設置	保健センター開館 市内循環バス「ところバス」運行開始
1999	平成11	「彩翔亭」が航空記念公園内に開館 「所沢市吟剣詩舞道連盟」設立	
2000	平成12	「全国だんごまつり in 所沢」開催 「ミュージアムセレクション」開始	市制施行 50 周年記念式典 市制施行 50 周年シンボルマーク決定
2001	平成13	「所沢市映像連盟」設立	
2003	平成15	「所沢市草もの益載連盟」設立	「東部クリーンセンター」開館
2004	平成16		新「市民体育館」開館、「彩の国まごころ国体」成年男女9人制バレーボール競技を開催
2007	平成19	所沢さといも焼酎「恋も咲くところ」販売開始	
2008	平成20	ビエンナーレ「引込線」を西武車輛工場跡地(東住吉)で開催、中心市街地活性化拠点・野老澤町造商店(まちぞう)開店	インターハイ「彩夏到来 08 埼玉総体」バドミントン及び男子バレーボール競技を開催
2009	平成21	「生涯学習推進センター」開館(旧並木東小)	
2010	平成22		市制施行 60 周年記念式典
2011	平成23	航空発祥 100 周年記念事業開催、所沢初の地ビール「野老ゴールデン」限定発売開始	
2012	平成24	県指定史跡「滝の城跡」で第1回「戦国滝の城まつり」開催	
2014	平成26	「音楽のあるまちづくり」推進事業開始	
2015	平成27	第1回「ところざわ学生映画祭」開催、 所沢市と KADOKAWA が「COOL JAPAN FOREST 構想」を発表	
2017	平成29	「空飛ぶ音楽祭 2017」開催 「ところざわ醤油焼きそば」販売開始	「こどもと福祉の未来館」開館

3 所沢ゆかりの作家・著者一覧

※共著、訳、編、画、監修などの場合は、『書名/共著』のように記載しています。
 所沢図書館で未所蔵の図書は（ ）で記載してあります。
 本名や筆名など複数の作者名がある場合は（ ）で記載してあります。

ペンネームなど	著作物（私家版を含む）※
青木 吉蔵	『桐陰六十年』
青木 雅子	『花のふる日』『遠い海までてらせ！』『紅赤ものがたり』『みどりのしずくを求めて』『麦さん』
青戸 志真子	句集『素焼の壺』
青山 季市	『ど・ん・ま・い』
秋山 トシ子	秋山 トシ子句集『あぢさゐ』
上石 しょう子	『子どもたちから地球への発信』
浅野 博雅	句集『野老沢』 句集『野老沢 第2集』
芦塚 智恵子	『松の花』
安次嶺 隆幸	『将棋をやってる子供は、なぜ「伸びしろ」が大きいのか?』『子どもが激変する将棋メソッド』
新 冬二	『ヘルンさんの茶色のかぼん』『オーガイおじさんの馬がいく』『タヌキになりませんか』 他
天夏 美菜	『君に白い花を降らせて』
新井 剛	『快感人間になろう！』
あらい ちとせ	『あいうえお本』
荒井 直子	『はるじょおん』
荒川 洋治	『北山十八間戸』『過去をもつ人』『詩とことば ことばのために』『日記をつける』『荒川洋治全詩集』『文学が好き』他
荒幡 順男	写真集『武蔵野の俳』
阿波 新九郎	『平らかな道』
飯野 頼治	『埼玉の川を歩く』『地図で歩く秩父路』『旅は歩いて』『秩父往還いまむかし』『山村と峠道』『秩父ふるさと風土図』
家城 久子	『素晴しき臓器工場』『エンドマークはつけないで』『したたかに愛燃えて』
池亀 貞雄	『一教員のあゆみ』『雑草のごとく生きて』
池田 ダイ	歌集『落の臺』
池田 光枝	句集『かみとめ道』
池田 實(実)	句集『野分晴』『続・続・続・続 落穂拾い』
池田 雪江(幸子)	歌集『北京の蝉』 歌集『星の光に』
池田 義明	『新所沢団地(緑町)の始まり』『所沢の地域課題』『基地返還は市民の願い 跡地利用は市民の手で』 他
池田 良孝	『20世紀なんでもかんでもベストテン』『本屋の法則』『思わず誰かに試したくなる漢字の常識』『家族新聞をつくる』 他
石井 聖岳	『びたっとヤモちゃん』『おこだでませんように / 絵』『ツェねずみ / 絵』 他

ペンネームなど	著作物（私家版を含む）※
石川 憲弘	『はじめての和楽器』
石橋 無事	『石橋無事全集 1巻〜3巻』『石橋小助と紀州藩』
出雲 筑三	三行詩集『走れ満月』『詩集 波濤を越えて』
井関 眞佐子	『さわやか』
磯 良一	『飛行機にのって』『びんの悪魔 / 画』
五十嶋 一晃	『越中 薬師岳登山史』『山案内人 宇治長次郎』
市川 作治	『さやまが丘昔話』
市川 一雄	『人生まだまだこれからや晒しやの兄ちゃん頑張れや / 編』
井出 彰	『東京発遠野物語』『書評紙と共に歩んだ五〇年』『伝説の編集者・巖浩を訪ねて』『里川を歩く』 他
伊藤 文隆	『小説オランダ坂、あす』（『港の見える家』）
稲岡 芳雄	『戦後断想』
稲葉 通雄(有)	『本の想い 人の想い』『本、それはいのちあるもの』『矢ぐるまの花』『ある愛のかたち』『佐伯祐三と妻・米子』 他
井上 靖子	句集『鳳仙花』
射場 和行	『上海今昔物語』（『中国投資・会社設立ガイドブック / 共著』）
茨木 のり子	『貝の子ブチキュー』『思索の淵にて』『見えない配達夫』『茨木のり子集 1〜3』『人名詩集』『鎮魂歌』 他
今泉 信孝	写真集『武蔵野の俳』
今村 哲	『スタート・ユア・ビジネス！ / 訳』『マネジメント基本全集 15巻 ーベンチャービジネスー / 編著』
岩崎 一郎	歌集『天山祭』 歌集『寒』
岩崎 芳秋(嘉秋)	歌集『鳥人の歌』 歌集『航跡雲』『岩崎芳秋集 一玄一』 歌集『時空を越えて』『石川信夫研究』『ヘリコプターと物輸送』 他
岩永 拾子	『句婦句夫 / 共著』（私家版）『句夫句婦 / 共著』
岩永 三女	『句婦句夫 / 共著』（私家版）『句夫句婦 / 共著』
岩波 凉咲	句集『操守』 句集『鴨の水音』
岩本 さゆき	『シスレーの森』『桜隠し』
上田 武彦	写真集『夢の蒸気機関車』 写真集『ふるさとの汽車』
牛田 守彦	『戦争の記憶を武蔵野にたずねて』『戦時下の武蔵野 1』『日本の戦争遺跡 / 執筆』『戦争遺跡から学ぶ / 執筆』
内海 清美	『密・空と海 - 内海清美』『艶・源氏 ー和紙塑像家・内海清美 和紙人形による源氏物語の世界 図録ー』『和紙彫塑による内海清美・源氏物語 図録』
内尾 匡之	内尾匡之写真作品集『折り折りの四季』
打木 村治	『打木村治作品集』『十六歳』『花のトンネル』『大地の園 第1部〜第4部』『天の園 第1部〜第6部』 他
内出 ときを	句集『稲の花』

ペンネームなど	著作物（私家版を含む）※
内野 多佳子	句集『母の唄』
内野 たくま	句集『青胡桃』 句集『樞火』
内野 蝶々子	句集『餅花』
内野 富男	『ヤマっ子六代め』（『良寛さま ー母と子の世界の伝記8ー』）（『ガンジー ー母と子の世界の伝記40ー』）
沢 大介	『東川』
内野 弘	『所沢の歴史と地理』『所沢の文化財と風土 / 執筆』『所沢市郷土かるた / 解説』『所沢郷土史年表』『所沢の地名雑記』 他
内山 明	『あゝ母國よ』
空木 創	『いのちのしずく』
宇都出 雅巳	『「名前が出ない」がピタッとなくなる覚え方』『速読勉強術』『あたりまえだけどなかなかできない会議のルール』 他
宇野 和秀	『現代教育の危機そして再考』『子どもをダメにする親・伸ばす親(所属団体 / 著)』 他
梅沢 定彦	CD『所沢の昔ことばで語る所沢の民話 / 文・語り』『よみがえれ！武蔵野台地の宝物』
江川 伯衛	『レクイエム愛』
江原 富美子	(江原富美子句集『白夕立』)
蛭子 能収	『ヘタウマな愛』『<シ>についての冒険』『くにとのつきあいかた』『こんなオレでも働けた』『気弱なギャンプラー』 他
及川 拓馬	(『すぐ勝てる！急戦矢倉』『最強の終盤 詰みと寄せの最重要手筋 104』)
大岩 道也	『オペラ読本』『ああオペラ！』（『オペラ留学奮戦記』）
大江 ひでこ	『なないろ雲さん』『老神温泉ばなし』『星の子くじらちゃん』
大川 純世	『ひとりぼっちのおに太郎』 他
大河原 惇行	『わが愛する歌』『大河原惇行歌集』『小暮政次の秀歌』『小暮政次歌集 / 編』大河原惇行歌集『鯉の卵』歌集『天水』 他
大久保 寛	『黄金の羅針盤 上・下 / 訳』『ファントム 上・下 / 訳』『流血のサファリ 上・下 / 訳』『エンデュミオン・スプリング / 訳』 他 翻訳書多数
大芝 貫	歌集『歌の泉』（歌集『旅のなかばに』）
大嶋 かず路 (藤嶋 美路)	『カール・ホルタイの音楽劇《老いた將軍》』 『夢魂の歌声』『小説ショパン』
大田 章	『レスリング式5分間エクササイズ』
大館 勝治	『いまに伝える農家のモノ・人の生活館 / 共著』『民俗の原風景』『民俗からの発想』『田畑と雑木林の民俗』
大館 欣一	『御犬養育村始末』『遠くの行列』『焦熱の街』（『ダイヤルは生きている』）
大館 右喜	『学校誕生』『日記にみる農家のくらし』『近世関東地域社会の構造』『近世農事録 / 編』『幕末社会の基礎構造』 他
大友 康夫	『やまぐにほいくえん / え』『ながいながいペンギンの話 / 画』『どうすればいいのかな？ / 絵』『いただきます / 絵』 他
大貫 隆	『聖書の読み方 / 訳・著』『文化と抵抗 / 訳』『受難の意味 / 編著』『一神教文明からの問いかけ / 編』 他
大貫 時雄	『巨魚達からの招待状』

ペンネームなど	著作物（私家版を含む）※
大野 芳	『近衛秀麿』『革命』『伊藤博文暗殺事件』『河童よ、きみは誰なのだ』『山本五十六自決セリ』 他
大原 まり子	『超・恋・愛』『アルカイック・ステイツ』『リモコン変化 / 編』『タイム・リーパー』『やさしく殺して』 他
大山 雅由	『句集 快樂』
大山 真人	『夢のある「終の棲家」を作りたい』『昭和大相撲騒動記』『老いてこそ二人で生きたい』『日本の詩情 滝廉太郎』 他
おかだ あつこ	『スカンポの歌が聞こえる』
岡田 一穂	『いのちの風土記』
岡村 和夫	(『抗体科学入門』『分子間力物語』)
岡本 淳	詩集『証』
小川 達雄	『盛岡中学生宮沢賢治』『隣に居た天才』
沖田 修一	『キツツキと雨』『おんなのかぶ』
奥泉 光	『黄色い水着の謎』『石の来歴』『モーダルな事象』『新・地底旅行』『ノヴァーリスの引用』『グランド・ミステリー』 他
奥田 ただし	『句集 まほろば』
奥田 陽子	(歌集『流離のつばさ』)
おぐら ただし	『ゆーボンとあそぼ!!』
越阪部 三郎	『所沢漫遊 / 案内』
尾崎 昭代	『レクイエムの蝶』『ねえ猫 / 詩』『水無月の水』『風の椅子 / 詩』『少女のレッスン』『遠い日のエチュード』 他
小沢 郁郎	『帝国陸海軍事典 / 編』『つらい真実』『特攻隊論』
小澤 孝太郎	『燃え尽きた青春』
小沢 孝公	『搭乗員挽歌』
小澤 俊郎	『径』『賢治地理 / 編』『薄明穹を行く』『宮沢賢治論 1～3 / 編』小沢俊郎追悼文集（『蛙の詩三篇』） 他
小沢 知一	『憶ひ出』
小澤(小沢) 和一	『こども歳時記』『所沢の野草 / 執筆』『所沢の文化財と風土 / 執筆』
小達 慶子	『歌集 あさかげ』
小野 勝美	『原阿佐緒の生涯』『原阿佐緒の歌』『釣り人の語り草』『かやつり草』『原阿佐緒文学アルバム / 編』 他
小野 まさ	歌集『水葵』
小畑 雅哉	『埼玉西部鉄道の歴史と駅名の変遷を探る』
小原 巳恵子	『瓦解』
柿沼 茂	『名句を読む』（句集『河岸段丘』）
鹿島田 道子	『句集 巢箱』

ペンネームなど	著作物（私家版を含む）※
一峰 大二	『どんがらがん坊』 他
粕谷 喜三	『校長室から』
粕谷 尊一	『雑炊の味』
片岡 直子	『おどりばダンスホール(紙芝居)』『ことしのなつやすみ』『おひさまのかぞえかた』『産後思春期症候群』『素敵などもだち』 他
桂 定風	『秋燕』『薪能』
桂川 潤	『本は物である』『おっ父ったんが行く/画』『本は、これから/著 p63-69』（装丁した図書多数あり）
加藤 仁	写真集『バードウィークの頃』
加藤 蒔生	『坂をのぼる荷車』（『あれ野の学校』）（『人間無頼』）（『療養所日記』）（『板室夜話』）（『石ころ漫遊記』）
聖愚庵 蒔夫	聖愚庵蒔夫詩集「幸福は野に咲いて」
金山 茂人	『楽団長は短気ですけど、何か?』
籙木 には	『魔王はハンバーガーがお好き』
釜谷 石瀬	句集『歲月』
神尾 万里	『ゆらゆらハンモック』
亀山 純生	『環境倫理と風土』『環境思想キーワード/編』『現代日本の「宗教」を問いなおす』『中世民衆思想と法然浄土教』 他
假屋崎 省吾 (仮屋崎)	『自分の世界をもちなさい』『仮屋崎省吾自叙伝 花を愛した男』『一世一代のブーケ』『身近な花で仮屋崎省吾の花スタイル』 他
川北 肇	『平家物語の人々』『朔風の道』『吾木香悲歌』『失われた故郷』 CD『所沢の昔ことばで語る所沢の民話/構成』
川崎 英生	『墓石書家』
河田 日出子	『俺はこわれちゃったんだよ』 河田 日出子詩集『男たちよ』 河田 日出子詩集『女のうた』
河田 美代子	『割烹美好の沿革』
川端 虎市 (緑亭 山人)	『黒糖の味』
菊田 良治	『疾風怒涛の米国企業改革』『巨大百貨店再生/訳』『会計トリックはこう見抜け/訳』『HR スコアカード/訳』『財務とは何か/訳』 他
菊池 一雄	舞台ミュージカル『鳥になった恭介くん/脚本』
菊地 裕子 (きくち ゆうこ)	絵本『さくら草』『風 1巻』『はるのゆめ』
岸 秀夫	写真集『むさし野春秋』
北野 丘	『黒筒の熊五郎』
木村 建一	『住居環境用語辞典』『民家の自然エネルギー技術/編』（『ソーラーハウス入門』）
木村 徳兵衛	詩集『音』 詩集『姫傘』『木村徳兵衛詩集』『全国詩人特選詩集』
木村 美佐子	『大根足』
金 容媛	『図書館情報政策』

ペンネームなど	著作物（私家版を含む）※
久我 礼子	歌集『偲び草』
草鹿 外吉	『現代ロシア詩集/編・訳』『プーシキン詩集/訳』『プーシキン』『海よさらば』（『灰色の海』）（『草鹿外吉全詩集』） 他
草壁 焰太	『一度だけお母さんへ』『五行歌入門』『五行歌の事典/編』『恋の五行歌』『心の果て』『もの思いの論』 他
久司 十三	（『大陰謀 振袖火事』）（『狼火の岬』）
久谷 雉	『ふたつの祝婚歌のあいだに書いた二十四の詩』 同人誌『母衣 第2号・4号・5号』（詩集『昼も夜も』）
国 しげ彦	句集『響湖』 句集『美狭湖』
倉片 みなみ	『倉片みなみ歌集』『酔芙蓉』『霞子慕情』『三ヶ島霞子往復書簡抄/編』『三ヶ島霞子日記 上・下/編』 他
倉吉 哲司	絵本『モモちゃんのひなまつり』 絵本『だいちんのよろいかぶと』
栗原 仲道 (武州 散史)	栗原仲道句歌集『行雲流水』『武蔵野の記録』『武野漫筆』『鎌倉街道をゆく』『所沢の文化財と風土/執筆』 他
黒川 康	『ある地域主権の近・現代史』『ある地域主権の近・現代史 第2部』
黒河 松代	『曙ならん』 絵本『あやのねがい』 絵本『うさぎのくびかざり』 絵本『おむすびたべたい』
黒谷 敏郎	『中国遊学記』『続中国游学記』
小池 龍太郎	『東京江戸名所往来』
小井沢 芹水	句集『竹林春秋』
小泉 富久	句集『鉄線花』
小泉 守一	自伝史『青の軌跡』
肥沼 位昌	『自治体職員のための政策法務入門5』『図解よくわかる自治体財政のしくみ』『国民がつくる憲法/共著』 他
河内 サイ	『ほうきぼしをみたおばあちゃん』
小久保 水虎洞	句集『游神抄』 句集『雉子車』『わが博物誌』 歌集『花影/編』
小久保 とき子	歌集『花影』
國米 惇	『バルーン・ジャンクの伝言』
小暮 牛男(晴彦)	句文集『春ふたり/共著』『ペンたこ人生 第1集～第30集』
小暮 信泉	『星霜』『壽齡』
小暮 輝晴	句文集『北野』
越 久美子	詩画集『深紅のバラを一本』
古関 謙郎	『百姓剣法 上・下』
小鷹 信光	『ハードボイルド徹底考証読本』『翻訳という仕事』『私のハードボイルド』『マルタの鷹/訳』 他 翻訳書多数
ゴッシー	絵本『ビーンズ星の大ちゃん/文』
後藤 暢	『図書館資料論/編』『図書館と子どもたち』

ペンネームなど	著作物（私家版を含む）※
言川 トロ	『オバサンタ日にひるがえる』
小長井 信昌	『わたしの少女マンガ史』『オ父サンノセンサウ / 編著』
こに一ばあば	『なきむしトマトのチチ』
小林 篤子	句集『玉櫛笥』
小林 亮淳	(『憲法生き活き / 編』)
小宮山 慎太郎	『時間(とき)の河を越えて』
近藤 健	『はだかっ子』(1961年映画化)『山びこの声』『一本道』
斉藤 修治	『埼玉ふるさと散歩 一所沢市一』『所沢の文化財と風土 / 執筆』『所沢市郷土かるた / 解説』 他
さいとう なおこ	(歌集『キンボウゲ通信』)(『逆光』)(『明日は霧と』)
斎藤 俳小星 (徳蔵)	句集『径草』(『俳小星句集』)(『伊勢国司記略』)
齊藤 雅子	『愛しているから』
齊藤 道子	『ひとすじの道 一引揚げの記録一』
坂内 誠一	『碧い目の見た日本の馬』『江戸のオランダ人定宿・長崎屋物語』『江戸最初の時の鐘物語』
坂口 文	『発明家の玩具箱』
桜井 幸男	詩集『火田の野』『所沢市万葉植物園の歌 / 監修』
桜田 隆範	『切手と風景印でたどる百名山』
指田 志恵子	『いつか、あえるね』(『里山人間主義の出番です』)
指田 恒夫	『天の下遍く続べれ』
佐々 忠男	『天からごみが降ってくる』
佐藤 一定	句集『ふる里』
佐藤 英子	『英子ばあばは忙しい』
佐藤 尚枝	詩集『雨の日曜日』
さねとう あきら	『ゆきこんこん物語』『四谷怪談』『もくべえのうなぎのぼり』『地べたっこさま』『東京石器人戦争』『こそだてゆうれい』 他
寒川 光太郎	『芥川賞全集 第2巻(『密猟者』掲載あり)』(『密猟者』)
沢 ひろ子	『紡ぎきて』
三町 半左	(絵本『ゆめうりポンチ』)(漫画は小学館の学習誌に掲載されていた)
塩川 智子	紙芝居『すきちかもどてか / 脚本』 絵本『す・き・ち・か・も ど・て・か・め』
塩原 佐和子	『落花一片』『秩父彦』
篠塚 昭博	『数のつぶやき』『図形のささやき』子供から大人まで楽しめるエッセイ』

ペンネームなど	著作物（私家版を含む）※
島津 ひとみ	『心の中のエチュード』
島田 とみ子	『転んだあとの杖』『年金入門』
清水 要	『清水要作品集』
清水 国明	『清水国明の自然暮らし検定』『清水国明のフィッシングキャンプのすすめ』『遊 YOU キッズアドベンチャー』 他
清水 ひさご	『痣』
志村 つね平	『ぼくの細道』
下田 佐重	『郷土所沢市の民俗回顧』『民俗回顧郷土の遊びとうた』『郷土あづま』
下田 博之	『緑の讃歌・所沢』
下宮 忠雄	『アンデルセン童話三題』『アグネーテと人魚、ジブシー語案内ほか』『古アイスランド語入門』『按針と家康 / 訳』 他
新海 均	『司馬遼太郎と詩歌句を歩く』『カッパ・ブックスの時代』『深沢七郎外伝』
新海 あぐり	(句集『悲しみの庭』) 他
新宮 セイシ	『イツ☆たぬき算!』
新藤 康助	『三ヶ島眼医者 鈴木一貫物語』『ゴンがあぶない』『サブロッペ』
菅原 計	『税務会計学通論 第3版』
杉崎 和久	『住民主体の都市計画(p18-26)』 他
杉村 房彦	『自分を読む』『教育再生のための教育学』
資延 勲	『ロダンと花子』『小田富彌さしえ画集 / 編著』(『マルセイユのロダンと花子』)
鈴 雅美	『ビーンズ星の大ちゃん / 監修』
鈴木 淳五	句集『花こぶし』
鈴木 信一	『800字を書く力』『文才がなくても書ける小説講座』『子どもの国語力は「暗読み」でぐんぐん伸びる』
鈴木 すぐる	句集『神輿綱』 句集『名草の芽』 同人誌『雨蛙』
鈴木 征子	句集『朝桜』
鈴木 孝幸	『eco テクノロジーへの挑戦』『ディーゼルエンジンの徹底研究 / 編』『展望次世代自動車 / 共著』
鈴木 淑子	『山が好き人が好き』
鈴木 房子	『華道遠州流松華会教本』
鈴木 ふよ	『歌集 回顧の滴』
鈴木 りん	『みっちゃんのいしならべ』
須永 紀子	『至上の愛』『中空前夜』『空の庭、時の径』『森の明るみ』 詩誌『雨期』1982.4～(2003年41号から所蔵あり) 他
砂川 務	『ひと足先にいった人』『不思議なギナちゃん』

ペンネームなど	著作物（私家版を含む）※
関根 千恵	『「母のひとりごと」 俳句集 その1』
相馬 一成	『置いてきた毒ガス』
祖田 圭介	『鉄道の問題あれこれ』
染谷 佳津子	歌集『白きワゴン』
田井 安曇	『千年紀地上』『田井安曇歌集』
醍醐 裕慈	詩文集「山旅の手帳」
高崎 和子	(『簡易伴奏による実用こどものうた / 共編])
高田 昭二	歌集『妻良子逝く』
高田 真	詩集「母の国」
高橋 玄洋	『感性が光る文章の書き方』『いい生き方、いい文章』『コミュニティってなあに?』『テレビドラマ作法』『人工樹林』 他
高橋 こうじ	『日本の大和言葉を美しく話す』『クイズで楽しむ日本語のふしぎ』『言いにくいこともスラリと言える話し方 88 のアイデア』
たぎざわ あきら	『くまごろうのしりもち』
滝本 結女	句集『松山ミクロン』
田口 庄治	『雑草』
田口 義明	『グローバル時代の消費者と政策 / 編』『消費者事件歴史の証言 / 聞き手』
竹内 由枝	歌集『真夜発光す』(歌集『桃の坂』)
竹越 捷海	『東日本大震災 この1年間の始末』
竹田 亮一郎	『紙の凶器』『潮の流れに』
田島 みるく	『ぼくら!花中探偵クラブ 1〜6』『やさしくわかるワイン入門』『本当にあった愉快な話』『おかあさんはおこってる!!』 他
橋 利道	『嘉智子へ ーさあ!アメリカで戦争だ!』『ふぬけ裂島』
龍田 倫太郎	『幸福工学』
田中 王堂	『田中王堂著作集 第1巻〜第6巻』『田中王堂作品集』
田中 佐知	『田中佐知全作品集』『田中佐知絵本詩集』『二十一世紀の私』『樹詩林』『詩人の言魂』『砂の記憶』 他
田中 志津	『冬吠え』(『信濃川』)(『遠い海鳴りの町』)『田中志津全作品集 上・中・下』 随筆集『年輪』『歌集 雲の彼方に』 他
田中 章介	『連れ合いが呆けてゆく』
田中 ひろみ	『仏像、大好き!』『東京江戸たんけんガイド』『思わず話したくなる社名&商品名の謎』 他
田邊 香代子	『田邊香代子句集』(『浪費』『深爪』『破綻の雲』)
谷川 ミチ子	句集『薫風』
玉上 茶六朗	『愚父伝』

ペンネームなど	著作物（私家版を含む）※
玉上 智香子	『愚父伝』
千田 捷熙	『夢魂の人ー高野長英私論ー』
塚田 豪	『本当の幸せをつかもう』
津村 典見	『行雲』『行雲II』
手嶋 季子	『えっちゃんはずれない』
天童 荒太	『悼む人』『家族狩り』『あふれた愛』『包帯クラブ』『永遠の仔 上・下』 他
栗田 教行	『白の家族』
所 ジョージ	『所さんにまかせなさい』『アタマ八分目、ココロ八分目』『マグロ君は海産物』『花咲かじいさんの恩返し』 他
登坂 宏	『鹿鳴月山 / 共著』『江戸〜明治期所沢の俳諧 / 編』
外塚 喬	『インクの匂い』『外塚喬をよむ』『外塚喬歌集』『天空』『梢雲』『瑞穂』『昊天』 他
富田 三樹生	『八国山かいわい』『秩父』
内藤 久子	句集『母の髪すく』
中 隆	『草もの盆栽』
仲 迪歆	句集『歩』
中 義智	『腎移植 透析校長奮闘記』
中得 一美	『冬の旅』『嫁の心得』
中川 滋木	『水環境』
中川 泰峯	『中川泰峯書作』
永窪 綾子	『みどりの風につつまれて』『永窪綾子詩集』『お日さまかくれて星がでた』『もういいかいの空』『せりふのない木』 他
中里 清子	句集『花すみれ』
中里 富美雄 (安芸 由夫)	『みかえりの橋』『芭蕉の裾野を歩く』『私の古典散策』『山荘私記』『桃花流水』『夢は枯野を』『新・エッセイ入門』 他 『非行少女』『ある愛の終わり』『安芸由夫短篇小説集』
中沢 啓治	『はだしのゲンはヒロシマを忘れない』『黒い雨にうたれて』『はだしのゲンはピカドンを忘れない』『はだしのゲン 上・中・下』 他
長沢 有紀	『ハーベスト時間術』(『女性社労士 年収2000万円をめざす』) (『社労士で稼ぎたいなら「顧客のこころ」をつかみなさい』)
中田 安昭	『モーツァルトが風に舞う』『風が見た京都』『さよなら変奏曲』
中根 潔	『中根清遺作集』
中林 瑞松	『ラッシュデンの灯心草』『イギリス歴史地名辞典 / 共訳』
中原 道夫	『現代詩、されど詩の心を』『巴芹(ばせり)』『中原道夫詩集』『傘のないぼくに』『埼玉文芸風土記(127p〜132p)』 他
中村 静子	『元伯宗旦の研究』
中村 哲夫	『アナログフィルタ設計の基礎 / 共著』『アナログLSI設計の基礎 / 共著』

ペンネームなど	著作物（私家版を含む）※
中谷 靖彦	『なまえをかえましょ!まほうのはさみ / 絵』
長屋 璃子	句集『穴まどひ』
半井 馨	(『わたし、捨て犬と出会う』) (絵本『虹の橋』)
新津 澄子	(歌集『疎林の風』)
西沢 周平	『花も実もある勤め人』『涙を抱いた勤め人』(『OL ブルース』) (『周平レポート』)
西澤 隆治	『窪田治部右衛門の賦』
西田 まこと	『まことの「底力」宣言』
西村 美佐子	(歌集『猫の舌』) (『西村美佐子歌集』)
新田 断常	『西遊集』
沼田 曜一	『石鏡山麓民話の出逢い』『民話劇場 1・2・3』『愛と哀の人間ばなし』『あずきまんまの歌』 絵本『おこりじぞう / 語り』 他
根本 則男	『自伝第一集 断橋』『自伝第二集 生命』
野崎 鈴風	歌集『肩肘張らずに』
野村 香生	『花の散る日に』
長谷川 清之	『ノルウェーの木造民家』『フィンランドの木造民家』(『スウェーデンの木造民家』)
長谷川 摂子	『めっきらもつきらどおんどん / 作』『クリスマスのふしぎなほこ / ぶん』『きょだいなきょだいな / 作』 『人形の旅立ち』 他
長谷川 宏	(『いまこそ読みたい哲学の名著』)『日常の地平から』『同時代人サルトル』『哲学者の休日』『ことばへの道』 他
花村 嘉英	『从认知语言学的角度浅析鲁迅作品』『計算文学入門』
羽生 善治	『羽生善治の将棋の教科書』『才能とは続けられること』『羽生善治の将棋を始めた人のために』 『羽生善治の将棋入門』 他
浜崎 大	『江戸奇品雑記』『江戸奇品図鑑』『江戸奇品解題』
浜崎 廣	『女性誌の源流』『雑誌の死に方』
浜林 正夫	『世界史再入門』『ローマのガリレオ / 訳』『歴史の風景 / 訳』『バブと労働組合』『ドキュメント戦後世界史』 他
羽矢 通子	歌集『青草の原』
早坂 類 (青木 景子)	歌集『黄金の虎(ゴールデン・タイガー)』『ルピナス』『自殺 12 章』 『風の中の少年たち』『Girls』
半田 卓郎	句集『知足』
はんだ のどか	『チョコレートがおいしいわけ』
東山 松平	『心療歯科ストーリー』
樋口 覚	『中原中也天体の音楽』『短歌博物誌』『書物合戦』『一九四六年の大岡昇平』
ヒダ オサム	『ワクワクさんのふしぎ工作』『ヒダオサムの造形のココロ』『保育のつくってあそぶアイデア集』『ゲームをつくろ』
肥田埜 勝美	句集『太郎冠者』 句集『有楽』『肥田埜勝美鑑賞・季節の秀句』 雑誌『阿吽 / 主宰』

ペンネームなど	著作物（私家版を含む）※
肥田埜 恵子	句集『橘紋』『山水図』
姫野 和映	『仕事の散歩道』『お化け煙突物語』
平井 貞夫	『句集 日に一合の酒と』
平塚 和枝	『ジーンズでパッチワーク』
平塚 義角	『ふるさと久米 今と昔』
平塚 宗臣	歌集『八國山』
平本 鷗月	句集『狭山路』
広沢 謙一 (広沢 一岐)	『狂言入間川考』 童句『少年期』
深井 琴(八重)	『野遊亭里恵女』
深沢 秋男	『旗本夫人が見た江戸のたそがれ』『神宮々司拝命記 / 編著』『井関隆子の研究』『仮名草子研究文献目録』
深見 けん二	『董濃く』『折にふれて』 句集『水影』 句集『日月』『四季を詠む』『深見けん二』『虚子の天地』 『深見けん二句集』 他
福田 清成	『続 真昼の星』(『コロイドとその応用』) (『コロイド化学の基礎』) (『超分子組織幕の科学』)
福田 敏子	句・文集『山の影』『私の鑑賞ノート』
福本 武久	『地の歌人三ヶ島霞子』『夢があるから、がんばれる』『「ボランティア」を生きる』『会津武士』 『武州かわごえ 繫舟騒動』 他
藤 慶	『「いい家庭」を造るイロハ』
ふじい たかし	『埼玉西武ライオンズあるある』
藤代 たけし	『なにくそ幼稚園 / 共著』
藤代 洋子	『なにくそ幼稚園 / 共著』
藤田 弘基	『蒸気機関車百景』『カラコルムヒマラヤ大星夜』『ブルーボビー』『素顔のダライ・ラマ 14 世』 他
藤巻 由夫	写真集『ゴミの山はぼくらの天国』 写真集『所沢祭りだ、ワッショイ!!!』
藤来 聖	写真集『奥多摩・秩父・野生植物』 写真集『四季の山野草』
藤原 桜子	『預言に生きる』
二上 泰弘	『お墓づくりの基礎知識』
古川 智映子	『一輪咲いても花は花』『風花の城』『赤き心を』『小説 土佐堀川』『あさが来た 上下 / 原案』『きっと幸せの朝がくる』
古谷 千恵子	『白木蓮』
保里 正子	歌集『草露』
本多 和子	『句集 塑像』
まえだ たみこ	(歌集 『風孕む』)
牧 証名	『自分を生きる』『国民の教育権』『教育権』『かがやけ子どもの権利』『教育権と教育の自由』

ペンネームなど	著作物（私家版を含む）※
牧 裕子	『お母さん頑張りすぎないで』
牧 幸一	『シーボルト日記 / 共訳』
牧野 宇風人	『桂川』
増岡 敏和	『大島慶一郎医師風雪伝』『増岡敏和全詩集』『詩集 光の花』『原爆詩人ものがたり』『原爆詩人 峠三吉』 他
増岡 弘	『マスオさんのみそづくり指南』『陽だまりのマスオさん』『マスオさんの美味しい味噌づくり』
増田 あき子	歌集『絹鳴り』
増田 照子	歌集『白にかえらぬ』
街 順子(より子)	詩集『一行詩』『影』（『伝言』）（『風の中』） 他
待島 亮	『小笠原戦跡一覧』
松岡 寿夫	『がん・ガン・癌』『「がん告知」をこえて』『ガン宣告』『「先生はウソを言った。」』（『藍のそば猪口 700 選』）
松田 政一	『勿忘草 上・下 -私の昭和史-』
松村 茂平	詩集『南溟の淵』『牛』『鉄の城本願寺顕如』『戦国おんな人柱』『絶滅戦争大提言』『敗北の法則』 他
松本 邦吉	『しずかな人 春の海』『灰と緑』『発熱頌』『透明な夜』『楽園』『塩の男はこう語った』『松本邦吉詩集』 他
松本 登美子	歌集『代官坂』
間所 ひさこ	『まいごのころわん』『クリスマスのころわん』『くいしんぼうのステゴッチー』『紙芝居『うさぎのみみちゃんおにはそとー!』 他
魔夜 峰央	『スピリチュアル漫画家!』『翔んで埼玉(漫画)』 他
丸地 守	(詩集『系譜』)(詩集『痛位』)(『乱反射考・死精』)(『精神の深部からの暗号』)
三浦 秀夫	『妖怪変化譚』
三ヶ島 和正	『只今、十一匹 / 女優のおわり』
三ヶ島 霞子	『定本三ヶ島霞子全歌集』『三ヶ島霞子歌集』『三ヶ島霞子往復書簡抄』『三ヶ島霞子日記 上・下』 歌集『吾木香』 他
三上 さかえ	句集『砧』
三上 広子	歌集『風の道』 歌集『雪を待つ』 歌集『美濃の壺』『花生』
三上 博史	『割烹美好の沿革 / 編』
三上 芳太郎	『西欧中世美術の旅から始まるアイコンへの道』
岬 兄悟	『リモコン変化』『彗星パニック』『人面領域』『瞑想してハッピー』『感情伝染』『天海からシグナル』 他
三島 正明	『最後の儒者』
水口 礼治	『常識力を身につける技術』『「大衆」の社会心理学』（『無気力からの脱出』）（『市民のための心理学』） (『こころの聴診器』)
水谷 和枝	歌集『豆雛』
水野 恵子	詩集『ばらの夕べに』

ペンネームなど	著作物（私家版を含む）※
道又 は奈	歌集『野あざみ』
三井 和子	『ホウレンソウをつくる人々』『EU 野菜事情』『有機畑の生態系』
嶺 浅吉	『齋廼舎歌集』
宮崎 駿	『本へのとびら』『脚本コクリコ坂から』『折り返し点』『出発点』『宮崎駿の雑想ノート』 他
宮本 永子	『雲の歌』『外塚喬をよむ / 編』
宮本 八恵子 (八恵子)	『所沢飛白 / 編』『所沢市史研究 第 11 号 / 執筆 p17～68』（※『所沢市史研究』に執筆他あり。） (『日本の民俗 11』) (『暮らしの伝承知を探る』)
武藤 健二	『野に生きる鳥たち』
村岡 澄吉	『恩師の形見』
村上 秋嶺	『句集 土の軌跡』
村上 八十八	『わが戦記』
村島 淑子	(『日本料理全書 / 共著』)
村田 あい子	歌集『空壇の音』
村田 英美	(『台北ハネムーン』)
村本 信幸	『なるほど納得！ザ外食物語』
村本 米子	『あるがままに生きて』
村山 秀子	詩集『驟雨』『うさぎ家』
茂市 久美子	つるばら村シリーズ『つるばら村のパン屋さん』 など 『招福堂のまねぎねこ』『おいなり山のひみつ』『またたびトラベル』 他
望月 成敏	『絆 -運命の出会い-』
持丸 邦子	(『国際経営学の誕生 1・2/ 訳』)
本橋 征輝	『ホンモノ野菜はおいしい』（『農業を使わないやさしい健康野菜作り』）『イラスト農業を使わない家庭菜園』 他
本橋 せん	歌集『土の贈り物』
本橋 信宏	『何が彼女をそうさせたか』『AV 時代』『依存したがる人々』『にくいあんちくしょう』『修羅場のサイコロジ-』 他
本橋 茂峰子	『水ぬるむ 遺句集』
森 斌	『産廃銀座に挑んだ住民たち 1・2・3/ 編者』
もりた かず	『じゃまねこのレストラン』
森田 きよこ	『ふっくらゆっくりパン物語』
森永 卓郎	『雇用破壊』『庶民は知らないデフレの真実』『資本主義はどこまで暴走するのか』『年収防衛』『庶民派経済学』 他
森野 さかな	『「こどもの権利条約」絵事典 / 絵』『こどもの権利を買わないで / 絵』『日本の妖怪ばなし / 絵』 (『ぼくとタロー』) 他
八重樫 克羅	詩集『イーハトーヴの幸福な物語』

ペンネームなど	著作物（私家版を含む）※
八重樫 信之	『絆 -「らい予防法」の傷痕-日本・韓国・台湾-』『輝いて生きる』
八木 伶箏（君夫）	『弓射』『愚心庵弓射覚え書抄』
役所 史	『バックステージ』
矢澤 昇治	『カリフォルニア州家族法 / 訳』（『フランス国際民事訴訟法の研究』）（『冤罪はいつまで続くのか / 編著』） 他
矢嶋 セン	『句集 柳瀬川』
安彦 良和	『ボナベナの騎士』『ノルブの光輪(クワルナフ)』『クルガンの竜』『マンガ日本の古典 23 -三河物語-』 他
矢野 啓介	『関節ストレッチ & トレーニング / 共著』『関節ストレッチ & トレーニング / 監修』
矢野 靖博	写真集『三ヶ島彩四季』 写真集『武蔵野の俳』
山口 操助	『山口操助自選展』
山口 俊夫	詩集『ばれいど』 詩集『小手指ヶ原』 詩集『桜島』
山崎 純	『ヤマちゃんの調べてミソツケ』
山崎 鈴恵	『ルクセンブルクの風にとって』
山下 敬之	『東海道五十三次ひとり歩き』（『さわやかおシャレさん』）
山下 春江	『文学への道』
山田 栄水	句集『径』
山田 きよ	『つれづれ -八十歳を記念して-』
山田 茂	歌集『愧痕集』
山田 昭次	『朝鮮人戦時労働動員 / 共著』『近現代史のなかの「日本と朝鮮」 / 共著』『金子文子』 他
山田 六磨	山田六磨歌集『異空の玄想』
山中 美智子	『心泉 -北方心泉碑文集-』
山根 研一	『無限回廊』 同人誌『餐 第 22 ～ 25 号』
山畑 一翠	句集『壺天』
山畑 武雄	歌集『道ひとすじ』 歌集『道ひとすじ 続』
山畑 寿雄	写真集『滝巡礼』
山本 勝美	『自宅で親を看取る知恵』『3 歳児は困ったちゃん?』『共生へ -障害をもつ仲間との 30 年-』 他
山本 廣一	『新説倭国史』
山本 萌	『墨の詩抄』『祈り』『墨の伝言(ことづて)』『花に聴く』『風の庵』『花の声』『花と羅漢と』『萌庵春秋』 他
野遊亭 一巢	(『タイトル不明』)
野遊亭 里恵女	(句集『屏風形画頌』)(句集『牡丹帖』) 薬王寺に句碑あり

ペンネームなど	著作物（私家版を含む）※
ゆーち みえこ	『あたしのやまのぼり』『ねむりいす』『ねことたのしくくらす方法』『犬とたのしくさんぼする方法』 他
由良 一洋	『句集 蝉時雨』
横谷 輝	『子どもと文学』『やがて大人になる君たちに』『水のたび』『ぼくらのすむ町』『山のおまつり』『うかのくらし』 他
吉永 朴	『私の足跡』
吉目木 晴彦	『寂寥郊野』『夢見る貝の伝記』『誇り高き人々』『ルイジアナ杭打ち』 他
わかたけ まさこ	『エリッサ様、前方に敵艦を発見しました』
若山 牧水	『若山牧水歌集』『若山牧水伊豆・箱根紀行』『若山牧水随筆集』『牧水紀行文集』 歌集『別離』『若山牧水の書』 他
渡辺 義公	渡辺義公遺稿集『あざみ』
渡辺 喜代子	『川中島平の昔のはなし』
渡辺 大地	『産後が始まった!』

4 主な掲載スポット等一覧（特別編・TOKOROZAWA MAP）

※「MAP」欄の○は「TOKOROZAWA MAP」の掲載スポットです。

No.	名称（スポット・イベント）	所在地	特別編ページ	MAP
1	(株)村松フルーツ製作所	美原町 4-2964-1	4	○
2	県立芸術総合高等学校	三ヶ島 2-695-1	4	○
3	所沢市民文化センター・ミュージズ	並木 1-9-1	4	○
4	所沢航空記念公園	並木 1-13	5	○
5	所沢航空発祥記念館	並木 1-13（所沢航空記念公園内）	8	
6	北野天神社	小手指元町 3-28-44	11	
7	所澤神明社	宮本町 1-2-4	11	
8	中氷川神社	三ヶ島 5-1691-1	11	
9	八幡神社	南永井 406	11	
10	薬王寺	有楽町 8-18	11	
11	三富新田	中富・下富	13	○
12	滝の城跡（戦国滝の城まつり）	城 537 ほか	13	○
13	東の上遺跡	久米 1470-1	14	
14	狭山丘陵	荒幡・三ヶ島・山口	16	○
15	山口貯水池（狭山湖）	勝楽寺・上山口	16	○
16	荒幡の富士	荒幡 748	17	
17	黄林閣	坂之下 437（柳瀬荘）	17	○
18	小野家住宅	林 2-426-1	17	
19	勝海舟書『求友館』扁額	元町 14-9（元町東公民館）	17	
20	旧台徳院靈廟勅額門、丁子門及び御成門	上山口 2213（狭山山不動寺内）	17	
21	小手指ヶ原古戦場	北野 2-12-4（碑の所在地）	17	
22	三富開拓地割遺跡	中富・下富	17	
23	多聞院毘沙門堂	中富 1501（多聞院）	17	
24	木造千手観音立像	上山口 2203（金乗院・山口観音）	17	
25	山口城跡	山口 1517 ほか	17	
26	旧和田家住宅（クロスケの家）	三ヶ島 3-1169-1	18	
27	重松流祭ばやし（重松の墓）	御幸町 470（川端霊園）	18	○
28	所澤郷土美術館	久米 1447-1	18	○
29	熊野神社	西新井町 17-33	20	
30	弘法の三ツ井戸	西所沢 1-26	20	
31	坂稻荷神社	御幸町 1-22	20	
32	瑞岩寺（岩崎熊獅子舞）	山口 400	20	○
33	東光寺	坂之下 383	20	
34	藤森稲荷	北野南 2-28-55	20	
35	日本大学芸術学部所沢校舎	中富南 4-21	21	○
36	NBAバレエ団	岩岡町 281-11	23	○
37	ところざわ自動車学校	東狭山ヶ丘 2-879-5	24	
38	新所沢バルコ（レッツシネパーク・まちなかコンサート）	緑町 1-2-1	25	○
39	早稲田大学所沢キャンパス	三ヶ島 2-579-15	25	○
40	ワルツ所沢（ワルツホール所沢・まちなかコンサート）	日吉町 12-1	27	○
41	秋草学園短期大学	泉町 1789	29	○
42	ところざわサクラタウン	東所沢和田 3-31-3 及び 11	29	○
43	石川文松筆 六歌仙図大絵馬	上山口 2203（金乗院・山口観音）	33	

No.	名称（スポット・イベント）	所在地	特別編ページ	MAP
44	観齋筆 煙草屋図大絵馬	上山口 2203（金乗院・山口観音）	33	
45	三上文筆筆 富士巻狩図大絵馬	上山口 2203（金乗院・山口観音）	33	
46	引込線	中富 1862-1（旧第2学校給食センター内）	36	○
47	みどりの中の彫刻	市役所西側から所沢警察署前までの歩道	36	
48	長屋門能面美術館	西新井 7-11	38	
49	所沢市民体育館	並木 5-3	40	
50	彩翔亭	並木 1-13（所沢航空記念公園内）	42	
51	(株)ビクセン（天体望遠鏡）	東所沢 5-17-3	47	○
52	野老澤町商店	元町 21-18	47	○
53	三ヶ島葎子資料室	三ヶ島 5-1639-1（三ヶ島まちづくりセンター内）	47	○
54	ところざわ星空フェスティバル	並木 6-4-1（生涯学習推進センター内）		○
55	所沢カルチャーパーク	下新井 1296-1 ほか		○
56	音まちコンサート	並木 1-1-1（所沢市役所庁舎内）		○
57	所沢駅（まちなかコンサート）	くすのき台 1-14-5		○
58	ひまわり畑コンサート	三ヶ島 4-2163-1		○
59	くぬぎ山コンサート	くぬぎ山（所沢市下富・狭山市上赤坂周辺）		○
60	小手指まちづくりセンター	北野南 1-5-2	28	○
61	所沢まちづくりセンター	元町 27-5	28	○
62	吾妻まちづくりセンター	久米 2229-1	40	○
63	松井まちづくりセンター	上安松 1286-1	40	○
64	三ヶ島まちづくりセンター	三ヶ島 5-1639-1	47	○
65	新所沢東まちづくりセンター	美原町 1-2922-16		○
66	新所沢まちづくりセンター	緑町 1-8-3		○
67	富岡まちづくりセンター	北岩岡 117-1		○
68	並木まちづくりセンター	並木 8-3		○
69	柳瀬まちづくりセンター	城 964-8		○
70	山口まちづくりセンター	山口 5004		○

文化関連各種ガイドマップ一覧（市ホームページよりデータのダウンロードが可能です。※No.2を除く）

No.	名称	内容	問い合わせ
1	音まち MAP	市内で音楽を「聴ける」あるいは「演奏できる」スポットを紹介	文化芸術振興課 04-2998-9211
2	所沢文化遺産案内マップ	市内に分布する指定文化財等を紹介	文化財保護課 04-2998-9253
3	所沢観光ガイドブック	観光スポットを集めた所沢ガイドブック	商業観光課 04-2998-9155
4	TOKOROZAWA TRAVEL GUIDE とことこさんぽ	外国人の目線から見た所沢観光ガイド【英語版・韓国語版・中国語版（簡体字・繁体字）】	商業観光課 04-2998-9155
5	ところざわおでかけ・ナビ、ところざわウォーキング・ナビ	市内の観光名所を歩いてまわるガイドマップ	商業観光課 04-2998-9155
6	観光農園マップ	市内にある「ぶどう狩り」や「イチゴ狩り」などが楽しめる観光農園を紹介	商業観光課 04-2998-9155
7	所沢市農産物直売所ガイドマップ	市内各所にある農産物直売所を紹介	農業振興課 04-2998-9158
8	みどりのふれあいマップ	市内各所にある緑地やおすすめの散策コースを紹介	みどり自然課 04-2998-9373
9	とことこガーデンマップ	玄関先や庭に草花や植えてある木を、敷地内や敷地の外から鑑賞できるスポットを紹介	都市計画課 04-2998-9192
10	わくわくお散歩マップ	中高年期の健康づくりとして、各地域の歩行距離に応じたウォーキングマップを紹介	健康づくり支援課 04-2991-1813

資料編

- (1) 所沢市の文化芸術振興に関するアンケート調査結果
- (2) 所沢市文化芸術振興ビジョンアドバイザー設置要綱
- (3) 所沢市文化芸術振興ビジョンアドバイザー名簿
- (4) 所沢市文化芸術振興ビジョン庁内検討委員会名簿
- (5) 所沢市文化芸術振興ビジョン庁内検討委員会ワーキンググループ名簿
- (6) 所沢市文化芸術推進会議条例
- (7) 策定経過

資料(1)

所沢市の文化芸術振興に関する アンケート調査結果

I アンケート調査概要

アンケート送付件数

2,040件

アンケート返信件数

630件

アンケート回収率

30.9%

調査実施期間

平成27年7月10日～平成27年7月31日

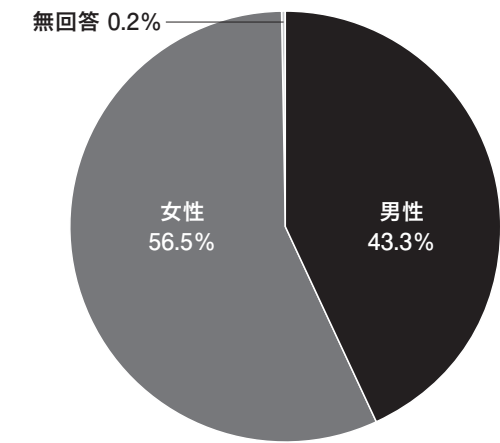
II アンケート調査集計結果(単純集計)

1. 回答者について

- 6割弱が女性である
- 年齢は、40代から70代までの各年代が15%～20%ずつと分散している。
- 職業は、会社員と専業主婦で5割を占める。

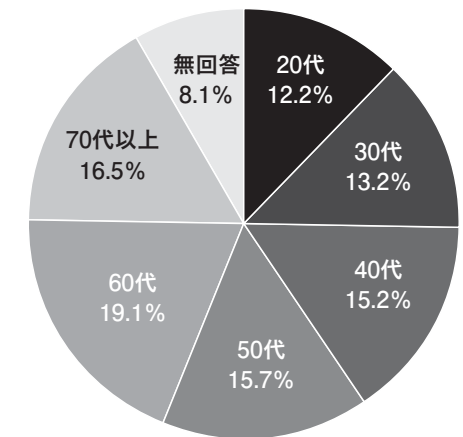
① 性別

	回答数	割合
男性	273	43.3%
女性	356	56.5%
無回答	1	0.2%
合計	630	100.0%



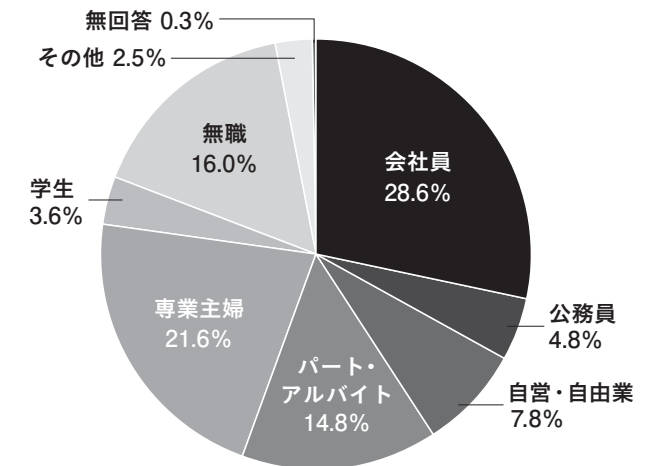
② 年齢

	回答数	割合
20代	77	12.2%
30代	83	13.2%
40代	96	15.2%
50代	99	15.7%
60代	120	19.1%
70代以上	104	16.5%
無回答	51	8.1%
合計	630	100.0%



③ 職業

	回答数	割合
会社員	180	28.6%
公務員	30	4.8%
自営・自由業	49	7.8%
パート・アルバイト	93	14.8%
専業主婦	136	21.6%
学生	23	3.6%
無職	101	16.0%
その他	16	2.5%
無回答	2	0.3%
合計	630	100.0%

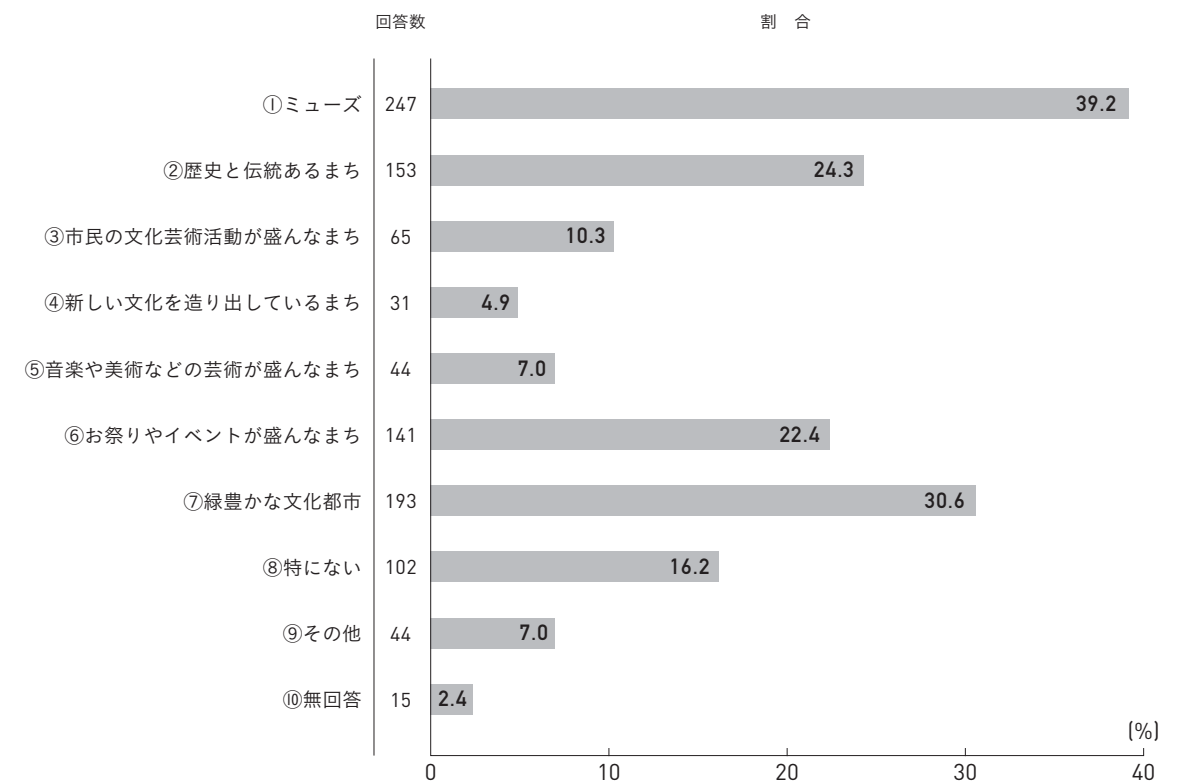


2. 回答者と文化芸術の関わりについて

- 「所沢の文化」という言葉からは、「ミュージズ」「緑豊かな文化都市」と連想する人が7割程度いる。
- 過去1年間に「音楽」「映画」を鑑賞された方が8割以上いる一方で、「鑑賞したことがない」が2割程度いる。その理由として、「時間的余裕がない」「関心のある催しがない」が7割以上いる。
- また、過去1年間に参加した文化芸術活動は「音楽」が最も多く2割程度で、「参加したことがない」は7割である。参加したことがない理由として、「時間的余裕がない」「興味がない」が8割程度で、「一緒に活動する仲間がいない」が2割弱いる。
- 過去3年間に利用したことがある文化施設は「ミュージズ」が4割で最も多く、次いで「まちづくりセンター」が3割程度である。

① あなたは「所沢の文化」という言葉から何を連想しますか

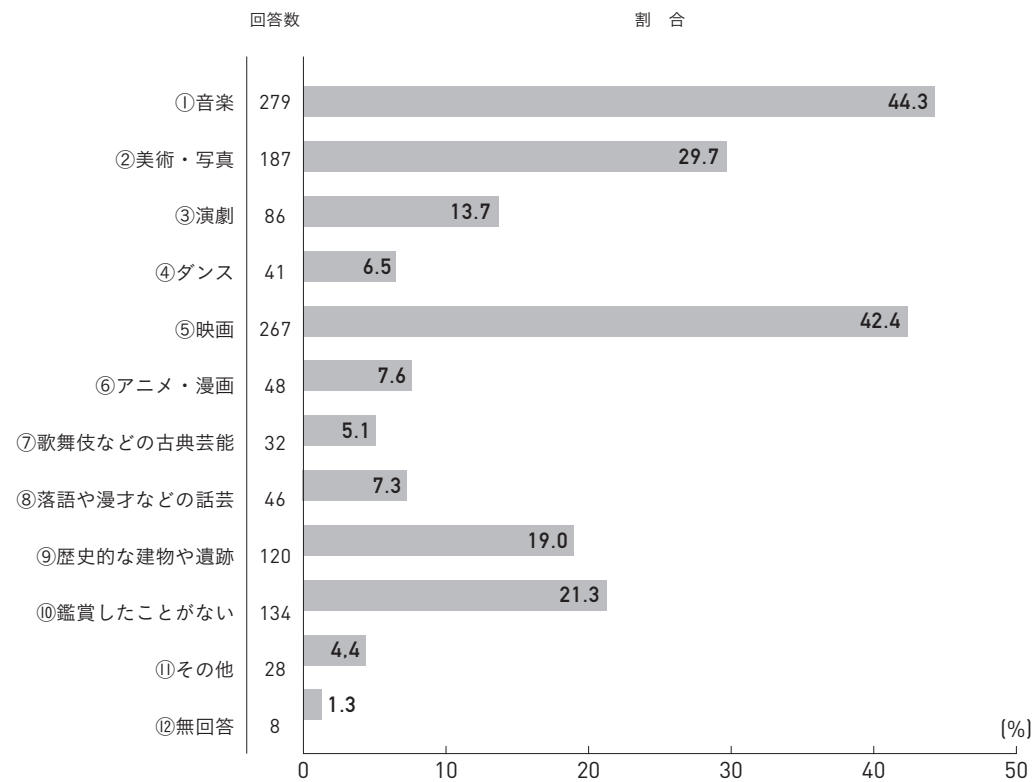
	回答数	割合
①ミュージズ	247	39.2%
②歴史と伝統あるまち	153	24.3%
③市民の文化芸術活動が盛んなまち	65	10.3%
④新しい文化を造り出しているまち	31	4.9%
⑤音楽や美術などの芸術が盛んなまち	44	7.0%
⑥お祭りやイベントが盛んなまち	141	22.4%
⑦緑豊かな文化都市	193	30.6%
⑧特にない	102	16.2%
⑨その他	44	7.0%
⑩無回答	15	2.4%



(複数回答)

② あなたは過去1年間にコンサートホール、劇場、映画館、美術館、博物館等で、どの分野の文化芸術を鑑賞されたことがありますか

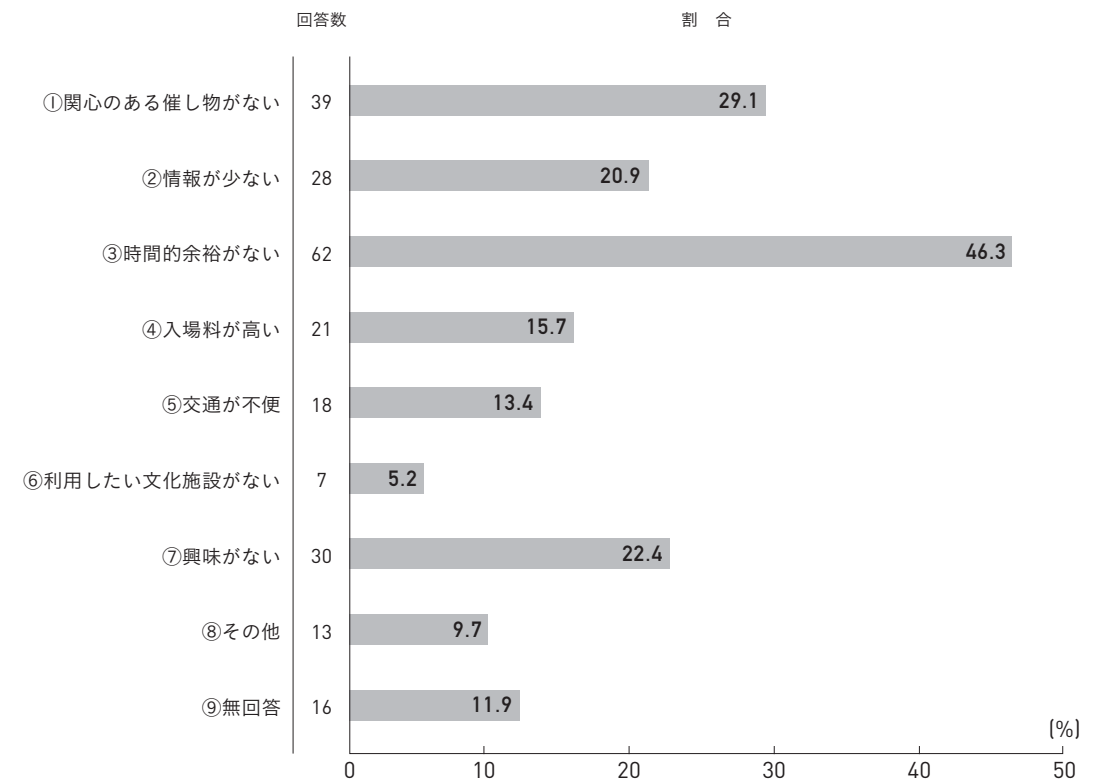
	回答数	割合
①音楽	279	44.3%
②美術・写真	187	29.7%
③演劇	86	13.7%
④ダンス	41	6.5%
⑤映画	267	42.4%
⑥アニメ・漫画	48	7.6%
⑦歌舞伎などの古典芸能	32	5.1%
⑧落語や漫才などの話芸	46	7.3%
⑨歴史的な建物や遺跡	120	19.0%
⑩鑑賞したことがない	134	21.3%
⑪その他	28	4.4%
⑫無回答	8	1.3%



(複数回答)

鑑賞したことがない理由は何ですか

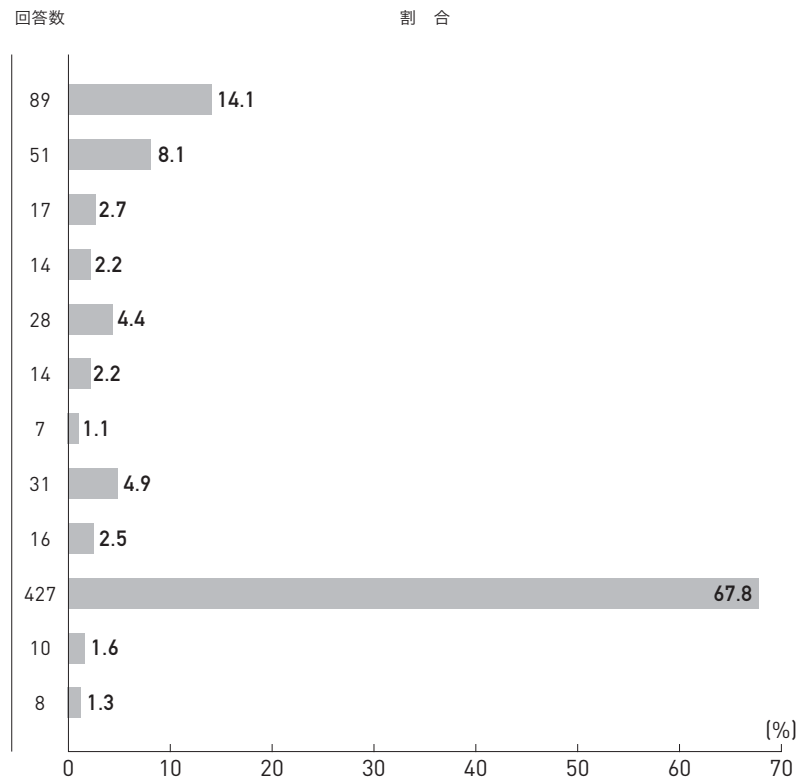
	回答数	割合
①関心のある催し物がない	39	29.1%
②情報が少ない	28	20.9%
③時間的余裕がない	62	46.3%
④入場料が高い	21	15.7%
⑤交通が不便	18	13.4%
⑥利用したい文化施設がない	7	5.2%
⑦興味がない	30	22.4%
⑧その他	13	9.7%
⑨無回答	16	11.9%



(複数回答)

③ 過去1年間に鑑賞を除いて、どの分野の文化芸術活動に参加したことがありますか

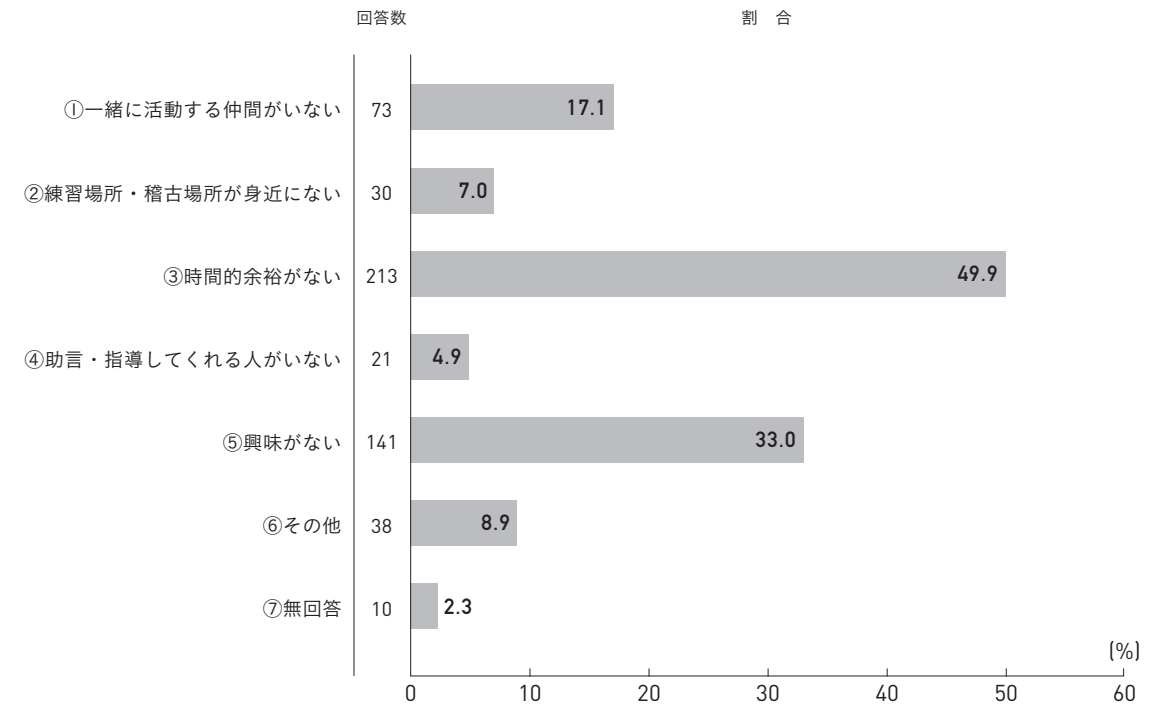
	回答数	割合
①音楽	89	14.1%
②美術・写真	51	8.1%
③文学	17	2.7%
④演劇	14	2.2%
⑤ダンス	28	4.4%
⑥映像	14	2.2%
⑦アニメ・漫画	7	1.1%
⑧茶道・華道・書道	31	4.9%
⑨伝統芸能	16	2.5%
⑩参加したことがない	427	67.8%
⑪その他	10	1.6%
⑫無回答	8	1.3%



(複数回答)

参加したことがない理由は何ですか

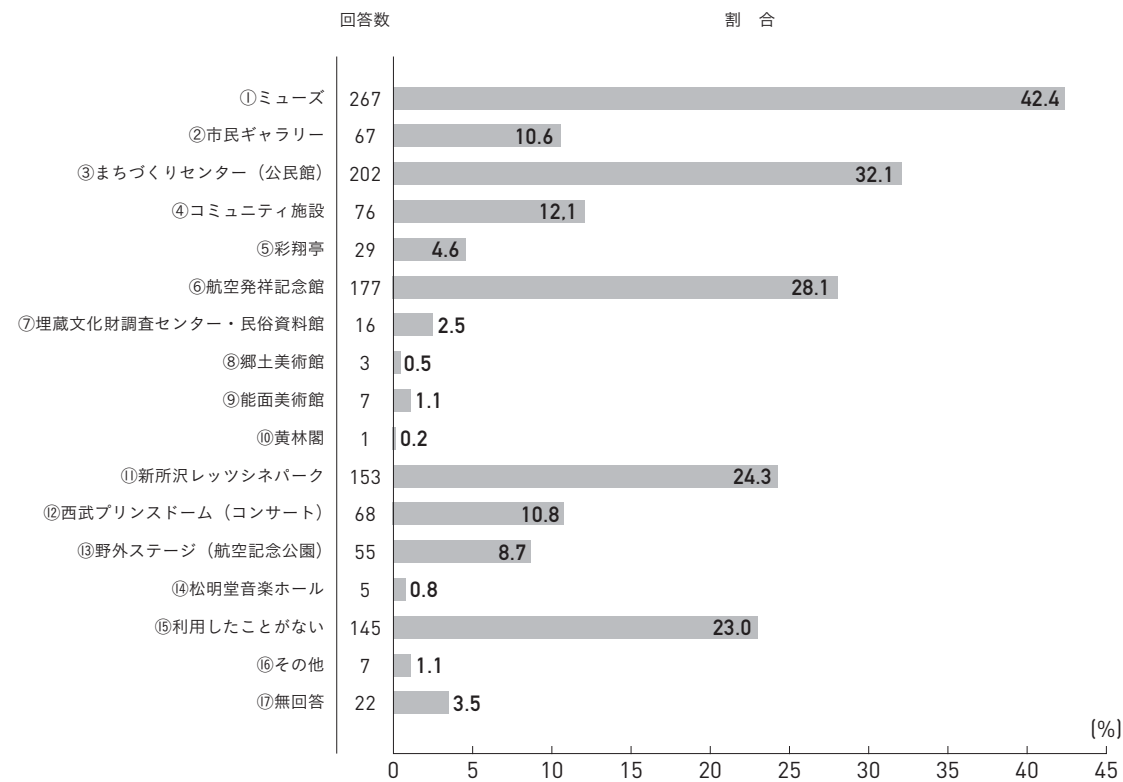
	回答数	割合
①一緒に活動する仲間がない	73	17.1%
②練習場所・稽古場所が身近にない	30	7.0%
③時間的余裕がない	213	49.9%
④助言・指導してくれる人がいない	21	4.9%
⑤興味がない	141	33.0%
⑥その他	38	8.9%
⑦無回答	10	2.3%



(複数回答)

④ 過去3年間に市内の文化施設を利用したことがありますか

	回答数	割合
①ミュージズ	267	42.4%
②市民ギャラリー	67	10.6%
③まちづくりセンター（公民館）	202	32.1%
④コミュニティ施設	76	12.1%
⑤彩翔亭	29	4.6%
⑥航空発祥記念館	177	28.1%
⑦埋蔵文化財調査センター・民俗資料館	16	2.5%
⑧郷土美術館	3	0.5%
⑨能面美術館	7	1.1%
⑩黄林閣	1	0.2%
⑪新所沢レッツシネパーク	153	24.3%
⑫西武プリンスドーム（コンサート）	68	10.8%
⑬野外ステージ（航空記念公園）	55	8.7%
⑭松明堂音楽ホール	5	0.8%
⑮利用したことがない	145	23.0%
⑯その他	7	1.1%
⑰無回答	22	3.5%



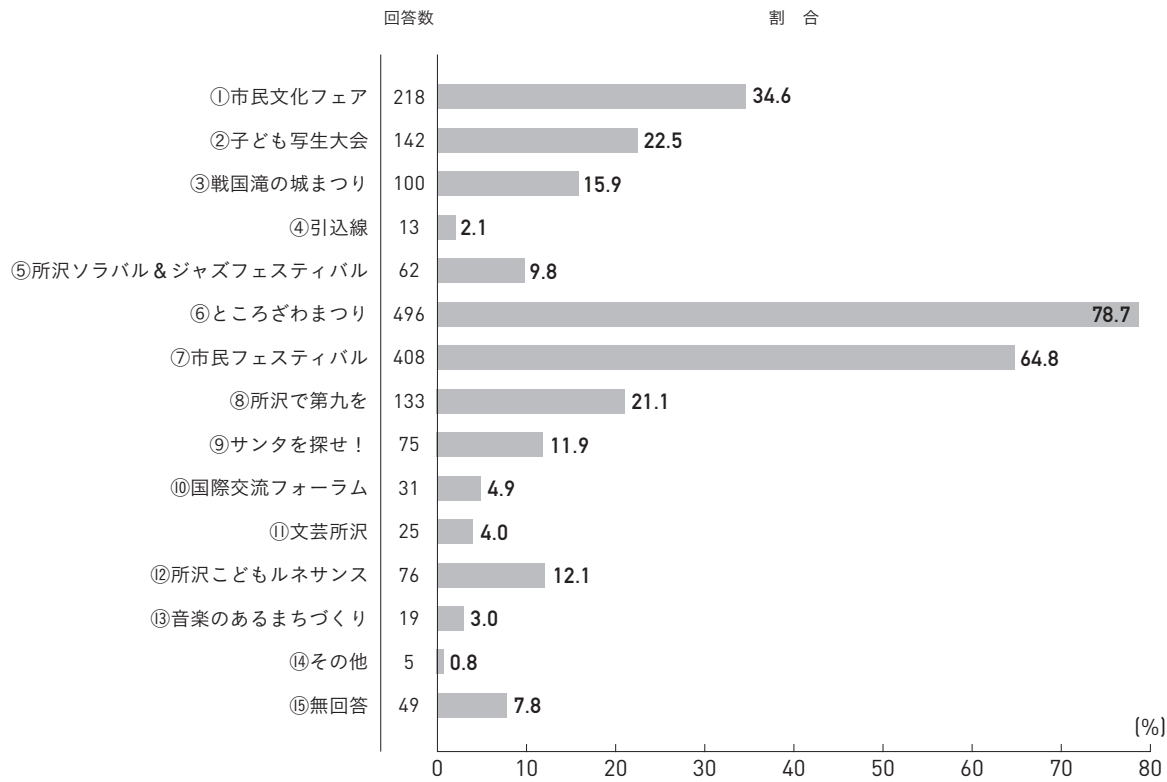
3. 所沢市の文化芸術について

- もっとも多く周知されている市の文化芸術事業は、「ところざわまつり」で8割弱。次いで市民フェスティバルで6割程度となった。
- 充実させてほしい市の文化芸術施策では「音楽」が6割程度、「美術・写真」「演劇」「伝統芸能」が共に2割程度である。
- 市の文化的環境（鑑賞機会）に「満足している」「どちらかといえば満足している」が4割弱、「どちらかといえば満足していない」「満足していない」が2割程度である。
- 芸術活動の参加機会に「満足している」「どちらかといえば満足している」、「どちらかといえば満足していない」「満足していない」が共に2割程度いる。また、「分からない」と答えた人が5割を占めている。
- 文化財や伝統的まちなみの保存・整備に「満足している」「どちらかといえば満足している」と答えた人が3割程度、「満足していない」「どちらかといえば満足していない」が3割弱いる。
- 市の文化的環境が充実した際に期待する効果として「子どもが心豊かに成長する」と答えた人が5割弱で最も多く、次いで「所沢のイメージが向上する」が4割程度となった。
- 文化芸術活動に関する情報として、「市の文化芸術事業の紹介（イベント・講座等）」が必要と感じている人が5割を占めている。
- 市の文化芸術施策の取り組みとして必要だと考えられるものは、「子どもが文化芸術に親しむ機会の充実」や「地域の芸能や祭りなどの継承・保存」が3割強と多い。

(複数回答)

① 市の文化芸術事業であなたがご存知のものをお答えください

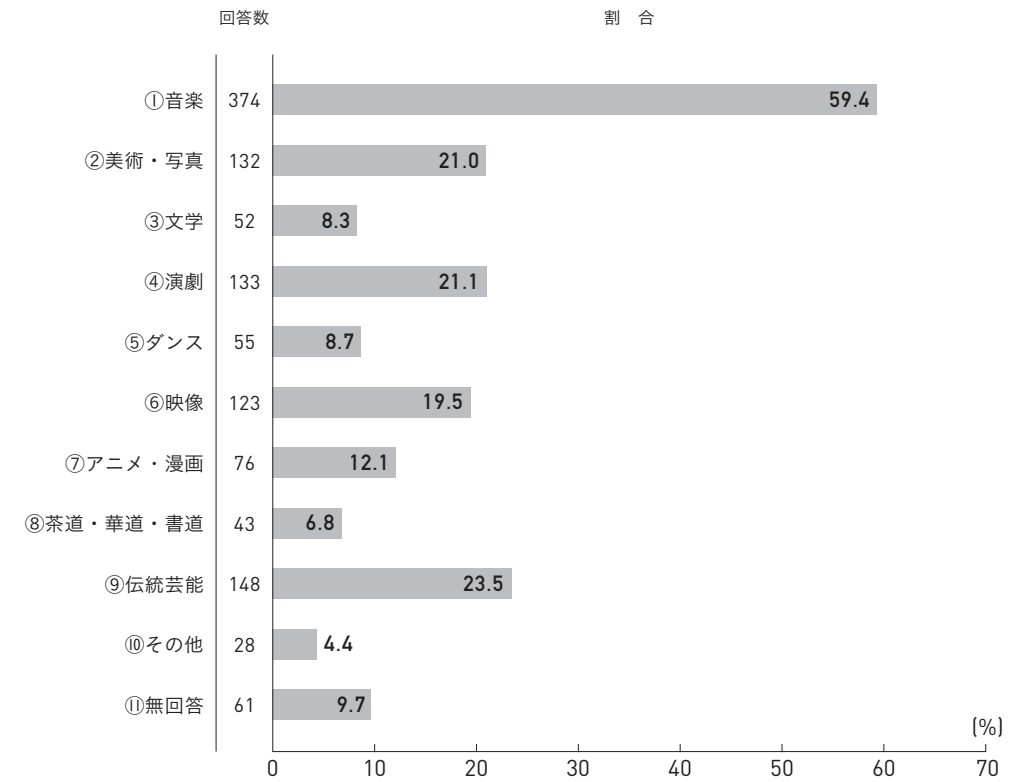
	回答数	割合
①市民文化フェア	218	34.6%
②子ども写生大会	142	22.5%
③戦国滝の城まつり	100	15.9%
④引込線	13	2.1%
⑤所沢ソラバル&ジャズフェスティバル	62	9.8%
⑥ところざわまつり	496	78.7%
⑦市民フェスティバル	408	64.8%
⑧所沢で第九を	133	21.1%
⑨サンタを探せ!	75	11.9%
⑩国際交流フォーラム	31	4.9%
⑪文芸所沢	25	4.0%
⑫所沢こどもルネサンス	76	12.1%
⑬音楽のあるまちづくり	19	3.0%
⑭その他	5	0.8%
⑮無回答	49	7.8%



(複数回答)

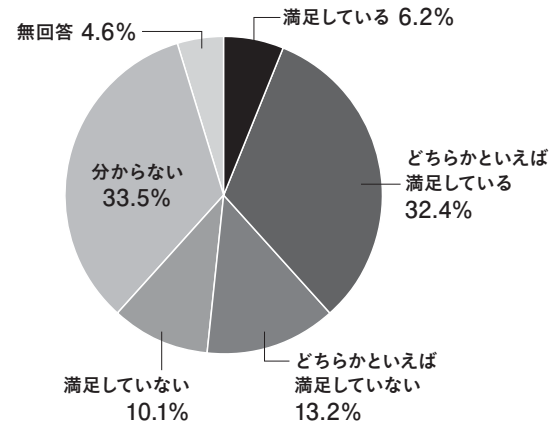
② 市の文化芸術施策であなたが充実させてほしい分野をお答えください

	回答数	割合
①音楽	374	59.4%
②美術・写真	132	21.0%
③文学	52	8.3%
④演劇	133	21.1%
⑤ダンス	55	8.7%
⑥映像	123	19.5%
⑦アニメ・漫画	76	12.1%
⑧茶道・華道・書道	43	6.8%
⑨伝統芸能	148	23.5%
⑩その他	28	4.4%
⑪無回答	61	9.7%



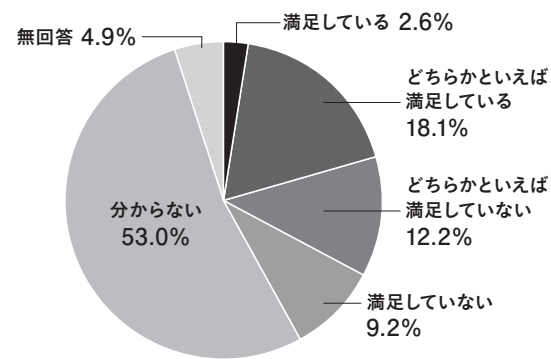
③ -1 市の文化的環境(鑑賞機会)に満足していますか

	回答数	割合
■ 満足している	39	6.2%
■ どちらかといえば満足している	204	32.4%
■ どちらかといえば満足していない	83	13.2%
■ 満足していない	64	10.1%
■ 分からない	211	33.5%
■ 無回答	29	4.6%



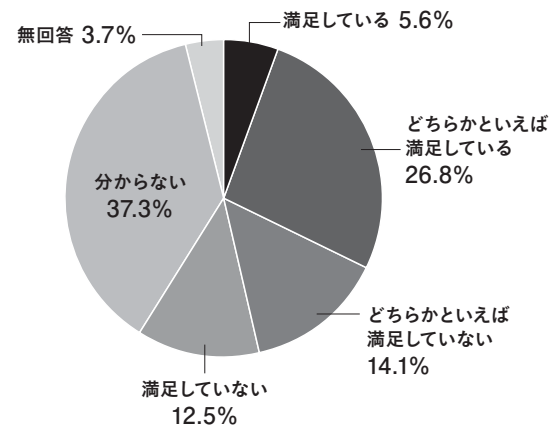
③ -2 市の文化的環境(芸術活動の参加機会)に満足していますか

	回答数	割合
■ 満足している	16	2.6%
■ どちらかといえば満足している	114	18.1%
■ どちらかといえば満足していない	77	12.2%
■ 満足していない	58	9.2%
■ 分からない	334	53.0%
■ 無回答	31	4.9%



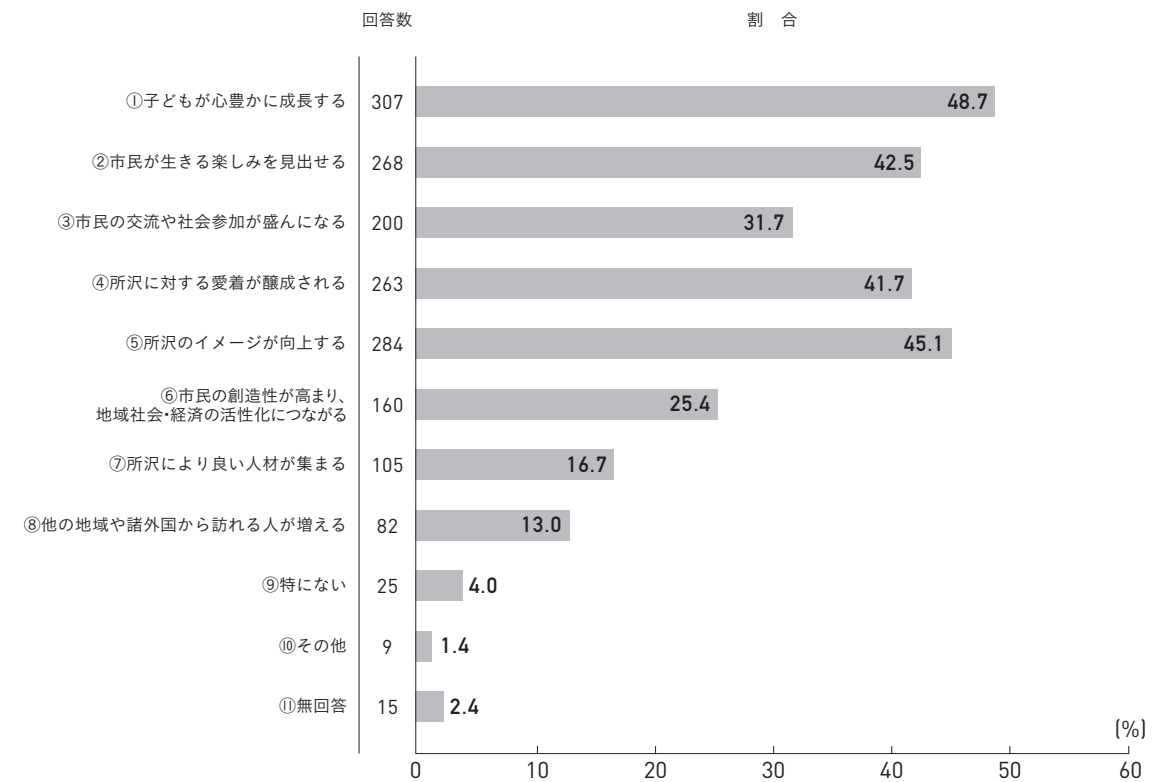
③ -3 市の文化的環境(文化財や伝統的まちなみの保存・整備)に満足していますか

	回答数	割合
■ 満足している	35	5.6%
■ どちらかといえば満足している	169	26.8%
■ どちらかといえば満足していない	89	14.1%
■ 満足していない	79	12.5%
■ 分からない	235	37.3%
■ 無回答	23	3.7%



④ 市の文化的環境(鑑賞機会、芸術活動の参加機会、文化財や伝統的まちなみの保存・整備)が充実した際に期待する効果はありますか

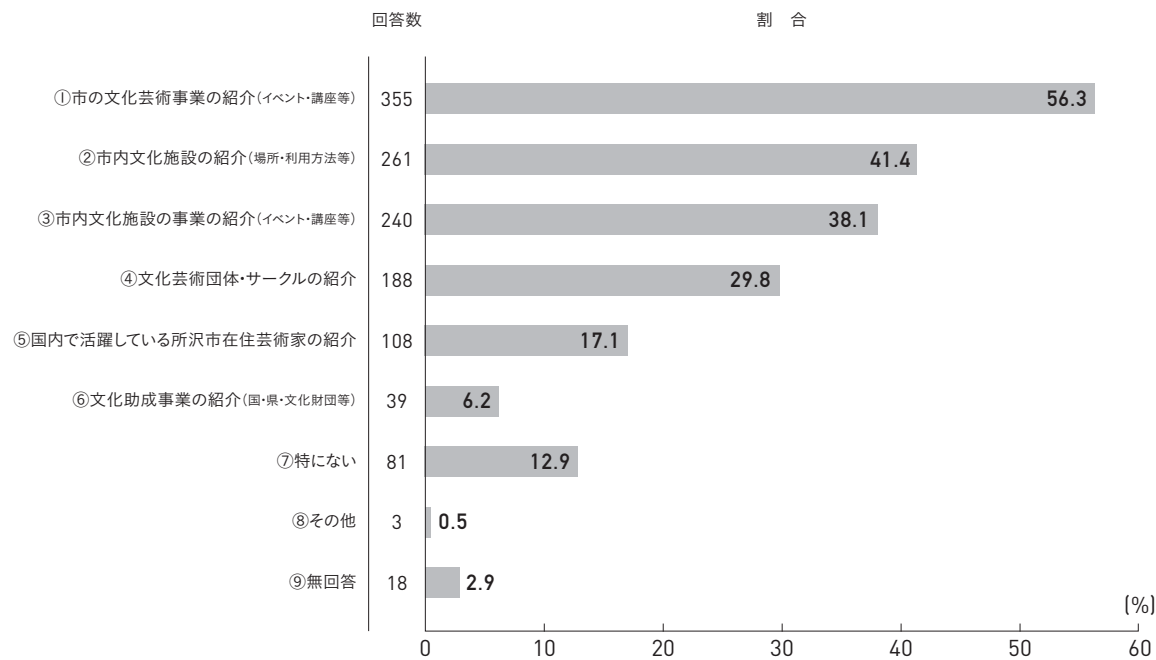
	回答数	割合
①子どもが心豊かに成長する	307	48.7%
②市民が生きる楽しみを見出せる	268	42.5%
③市民の交流や社会参加が盛んになる	200	31.7%
④所沢に対する愛着が醸成される	263	41.7%
⑤所沢のイメージが向上する	284	45.1%
⑥市民の創造性が高まり、地域社会・経済の活性化につながる	160	25.4%
⑦所沢により良い人材が集まる	105	16.7%
⑧他の地域や諸外国から訪れる人が増える	82	13.0%
⑨特にない	25	4.0%
⑩その他	9	1.4%
⑪無回答	15	2.4%



(複数回答)

⑤ あなたにとって必要な文化芸術活動に関する情報は、どのようなものですか

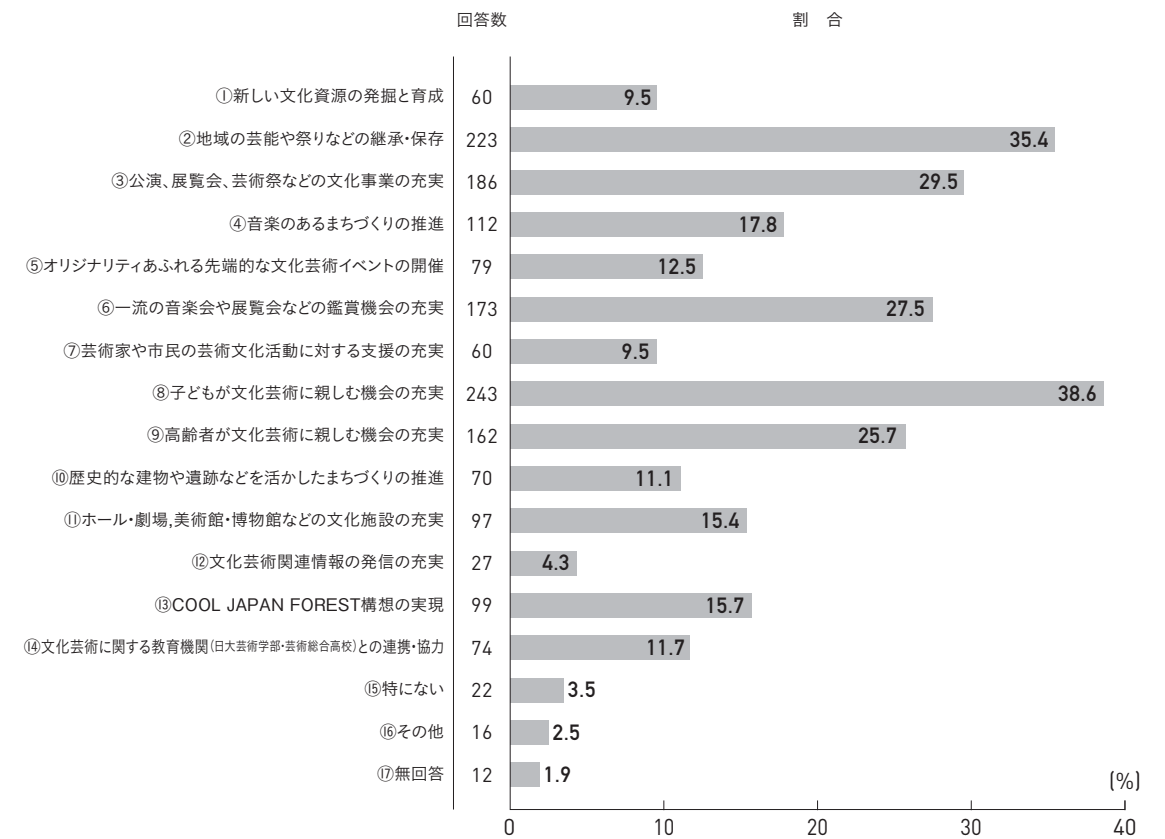
	回答数	割合
①市の文化芸術事業の紹介（イベント・講座等）	355	56.3%
②市内文化施設の紹介（場所・利用方法等）	261	41.4%
③市内文化施設の事業の紹介（イベント・講座等）	240	38.1%
④文化芸術団体・サークルの紹介	188	29.8%
⑤国内で活躍している所沢市在住芸術家の紹介	108	17.1%
⑥文化助成事業の紹介（国・県・文化財団等）	39	6.2%
⑦特にない	81	12.9%
⑧その他	3	0.5%
⑨無回答	18	2.9%



(複数回答)

⑥ 市の文化芸術振興施策として、今後どのような取り組みが必要だと考えますか

	回答数	割合
①新しい文化資源の発掘と育成	60	9.5%
②地域の芸能や祭りなどの継承・保存	223	35.4%
③公演、展覧会、芸術祭などの文化事業の充実	186	29.5%
④音楽のあるまちづくりの推進	112	17.8%
⑤オリジナリティあふれる先端的な文化芸術イベントの開催	79	12.5%
⑥一流の音楽会や展覧会などの鑑賞機会の充実	173	27.5%
⑦芸術家や市民の芸術文化活動に対する支援の充実	60	9.5%
⑧子どもが文化芸術に親しむ機会の充実	243	38.6%
⑨高齢者が文化芸術に親しむ機会の充実	162	25.7%
⑩歴史的な建物や遺跡などを活かしたまちづくりの推進	70	11.1%
⑪ホール・劇場、美術館・博物館などの文化施設の充実	97	15.4%
⑫文化芸術関連情報の発信の充実	27	4.3%
⑬COOL JAPAN FOREST 構想の実現	99	15.7%
⑭文化芸術に関する教育機関(日大芸術学部・芸術総合高校)との連携・協力	74	11.7%
⑮特にない	22	3.5%
⑯その他	16	2.5%
⑰無回答	12	1.9%



所沢市文化芸術振興ビジョンアドバイザー 設置要綱

(設置)

第1条 所沢市文化芸術振興ビジョン（以下「ビジョン」という。）の策定に際し、文化芸術の各分野から意見を聴くことを目的として、所沢市文化芸術振興ビジョンアドバイザー（以下「アドバイザー」という。）を設置する。

(職務)

第2条 アドバイザーの職務は、次に掲げるとおりとする。

- (1) ビジョンの策定に必要な事項に係る助言及び指導
- (2) ビジョンの策定に必要な情報提供
- (3) その他市長が必要と認めること。

(委嘱)

第3条 アドバイザーは、10人以内とする。

2 アドバイザーは、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 文化芸術の専門的な知識を有する者
- (2) 関係団体の代表者
- (3) その他市長が必要と認める者

(任期)

第4条 アドバイザーの任期は、委嘱の日から平成29年9月30日までとする。

(報償)

第5条 アドバイザーには、1日につき10,000円支払うものとする。

(その他)

第6条 この要綱に定めるもののほか、アドバイザーに関し必要な事項は別に定める。

附 則

(施行期日)

1 この要綱は、平成28年4月1日から施行する。

(この要綱の失効)

2 この要綱は、平成29年9月30日限り、その効力を失う。

氏名	所属など
伊藤 誠	武蔵野美術大学造形学部彫刻学科教授 引込線 2017 実行委員長
末永 匡	ピアニスト、昭和音楽大学ピアノ科非常勤講師
正 嘉昭	演出家／演劇、コミュニケーション教育研究家、文化庁芸術家派遣事業「現代演劇」講師、日本女子大学非常勤講師
西久保 正一	所沢市重松流祭囃子保存会会長、「ふるさと所沢」文化遺産保存活用実行委員会実行委員長
西澤 廣人	埼玉県立芸術総合高等学校教諭（映像芸術科主任）
西林 真紀子	タオ書画作家、古代中国思想博士
古川 清美	所沢市文化団体連合会副会長
三上 博史	「野老澤町造商店」ボランティアスタッフ
森 香織	日本大学芸術学部デザイン学科教授、文部科学省大学設置審議会分科会美術専門委員
穴戸 健司	（一財）角川文化振興財団 専務理事

所属など	(平成27年度)	(平成28年度)
	氏名	氏名
市民部長	鈴木 康人	鈴木 康人
市民部次長	玉川 明男	鹿島 仁
経営企画部企画総務課長	梅崎 恭子	内野 孝雄
経営企画部経営企画課長	鈴木 哲也	鈴木 哲也
市民部地域づくり推進課長	市川 博章	千葉 裕之
環境クリーン部環境政策課長	大館 真哉	大館 真哉
産業経済部商業観光課長	柳田 晃芳	柳田 晃芳
街づくり計画部都市計画課長	埜澤 好美	埜澤 好美
教育総務部社会教育課長	浅野 浩一	安田 幸雄
教育総務部文化財保護担当参事	木村 立彦	木村 立彦
教育総務部生涯学習推進センター所長	倉富 恵理子	倉富 恵理子

所属など	氏名
経営企画部広報課主任	鹿島 慎一
経営企画部広報課主任	佐々木 有希乃
総務部危機管理課主任	石平 貴浩
市民部地域づくり推進課主任	細谷 拓郎
こども未来部こども支援課主任	下川原 敏弘
市民部富岡まちづくりセンター主査	坂本 祐子
福祉部障害福祉課主任	西川 永
財務部市民税課主任	佐藤 絢
産業経済部商業観光課主任	小林 史明
産業経済部農業振興課主任	橋本 賢治
街づくり計画部都市計画課付主査（埼玉県）	小暮 桂介
教育総務部生涯学習推進センター主任	米山 麗
教育総務部所沢図書館主査	藤巻 幸子
教育総務部埋蔵文化財調査センター所長	稲田 里織

所沢市文化芸術推進会議条例

(設置)

第1条 本市における文化芸術の推進に関し必要な事項について調査及び審議を行わせるため、文化芸術基本法（平成13年法律第148号）第37条の規定に基づき、所沢市文化芸術推進会議（以下「推進会議」という。）を置く。

(所掌事務)

第2条 推進会議は、市長の諮問に応じ、次に掲げる事項について調査及び審議を行う。

- (1) 文化芸術に関する施策に関すること。
- (2) 所沢市文化芸術振興ビジョンに関すること。
- (3) 文化芸術に関する活動（以下「文化芸術活動」という。）に対する支援に関すること。
- (4) その他市長が必要と認めること。

(組織)

第3条 推進会議は、委員10人以内で組織する。

2 委員は、次に掲げる者のうちから市長が委嘱する。

- (1) 公募による市民
- (2) 文化芸術活動を行う者
- (3) 知識経験を有する者
- (4) その他市長が必要と認める者

(任期)

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

2 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第5条 推進会議に会長及び副会長1人を置き、それぞれ委員の互選により定める。

- 2 会長は、会務を総理し、推進会議を代表する。
- 3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき、又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第6条 推進会議の会議は、会長が招集し、その議長となる。

- 2 推進会議の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。
- 3 推進会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(意見の聴取等)

第7条 会長は、必要があると認めるときは、委員以外の者に対し、推進会議の会議に出席を求めて意見若しくは説明を聴き、又は資料の提出を求めることができる。

(部会)

第8条 推進会議は、必要に応じ、部会を置くことができる。

2 部会に属する委員は、会長が指名する。

(委任)

第9条 この条例に定めるもののほか、推進会議に関し必要な事項は、市長が別に定める。

附 則

(施行期日)

- 1 この条例は、平成30年1月1日から施行する。
(所沢市非常勤の特別職員の報酬及び費用弁償に関する条例の一部改正)
- 2 所沢市非常勤の特別職員の報酬及び費用弁償に関する条例(昭和43年条例第14号)の一部を次のように改正する。
別表第1文化財保護委員の項の次に次のように加える。

文化芸術推進会議委員	日 額	7,900円
------------	-----	--------

策定経過

1. 庁内検討委員会

	日時	内容
第1回	平成27年 10月26日	(1) 副委員長の選出について (2) ビジョンの策定について (3) 今後のスケジュールについて (4) 意見交換
第2回	平成28年 3月25日	(1) 文化芸術振興ビジョン骨子(案)について (2) 今後のスケジュールについて
第3回	平成28年 9月26日	(1) 文化芸術振興ビジョン策定進捗状況について (2) 文化芸術振興ビジョン(素案)について (3) 文化芸術シンポジウムについて
第4回	平成29年 3月24日	(1) ビジョン(案)に対するパブリックコメント手続の実施結果について (2) 今後の予定について

2. 庁内検討委員会ワーキンググループ会議

	日時	内容
第1回	平成27年 11月13日	(1) ビジョン策定の背景・目的について (2) ビジョン策定の体制等について (3) 文化芸術の基本的な考えについて (4) ビジョン策定におけるポイント(地域特性・柱・視点) (5) ビジョン策定の進め方等について
第2回	平成27年 12月17日	(1) ビジョン形成に向けた視点の検討(1) (2) 将来の都市イメージに参考とすべき都市について (3) 各分野ごとのグループ分けについて
第3回	平成28年 1月26日	(1) ビジョン形成に向けた視点の検討(2) (2) 市民文化について (3) 都市文化について (4) グループワークの依頼 (5) 外部からの人選(人脈)への意見抽出
第4回	平成28年 2月23日	(1) 先進地事例(新潟市)の報告 (2) これまで出た課題・意見の整理 (3) 取り組むべき方向性・基本理念・基本方針の構え方について
第5回	平成28年 3月15日	(1) 文化芸術振興ビジョン骨子(第1次案)について (2) 今後のスケジュールについて
第6回	平成28年 4月28日	(1) 今後の役割と活動スケジュールについて (2) ビジョンアドバイザーについて (3) 文化芸術振興ビジョン骨格(案)について
第7回	平成28年 10月17日	(1) 文化芸術振興ビジョン(素案)について (2) 文化芸術シンポジウムについて
デザイン検討 会議①	平成29年 1月27日	ビジョンデザインについての検討①
デザイン検討 会議②	平成29年 2月15日	デザインについての検討②
デザイン検討 会議③	平成29年 5月31日	概要版についての検討


3. アドバイザー連絡会議、アドバイザーと庁内検討委員会ワーキング職員との意見交換

	日時	内容
アドバイザー 連絡会議	平成28年 5月24日	(1) 委嘱状交付 (2) ビジョン策定方針について (3) アドバイザーの役割について (4) 今後のスケジュールについて (5) 文化芸術振興ビジョン骨格(案)について (6) 意見交換 (7) ワーキンググループ委員との顔合わせ
基本方針Ⅱ グループ意見交換①	平成28年 6月28日	●ビジョン素案作成 第3部 基本方針② 文化で魅せる
基本方針Ⅲ グループ意見交換①	平成28年 6月29日	●ビジョン素案作成 第3部 基本方針③ 文化をつむぐ
基本方針Ⅰ グループ意見交換①	平成28年 6月30日	●ビジョン素案作成 第3部 基本方針① 文化を楽しむ
基本方針Ⅲ グループ意見交換②	平成28年 8月17日	●ビジョン素案作成 第3部 基本方針③ 文化をつむぐ
基本方針Ⅱ グループ意見交換②	平成28年 8月25日	●ビジョン素案作成 第3部 基本方針② 文化で魅せる
基本方針Ⅰ グループ意見交換②	平成28年 9月1日	●ビジョン素案作成 第3部 基本方針① 文化を楽しむ
意見交換会①	平成28年 11月29日	(1) 文化芸術シンポジウムでの意見及びアンケート集計結果について (2) 文化芸術振興ビジョン(再改定案)について (3) 今後のスケジュールについて
意見交換会②	平成29年 3月15日	(1) ビジョン(案)に対するパブリックコメント手続の実施結果について (2) 今後の予定について

4. 市民意見交換会

	日時	内容
第1回	平成28年7月16日	市民が親しむ市民文化のあり方とその進め方について
第2回	平成28年7月23日	文化の魅力でまちを輝かせるためには ～これからの都市文化の創造～

5. 文化芸術シンポジウム

	日時	内容
第1回	平成28年 11月12日	<p>【第一部】 テーマ 「新たな郊外文化の潮流」 ～独自の郊外型文化圏の形成について～ 講演者 隈研吾氏(建築家)</p> <p>【第二部】 分科会① テーマ ～今、ミュージアムに求められるものは？ 「クオリティ」VS「集客力」～</p> <p>分科会② テーマ ～「サブカルチャー」 VS「メインカルチャー」～</p> <p>分科会③ テーマ ～「若者文化」VS「シニア文化」～</p> 

6. アンケート調査

日時	内容
平成27年7月10日～31日	所沢市の文化芸術振興に関するアンケート調査

7. パブリックコメント

日時	内容
平成29年2月1日～28日	パブリックコメントの実施